

目次 Contents

人口動態統計とは Outline of vital statistics	4
比率の解説 Explanation of rates	5
人口 Population	
我が国の人口ピラミッドー平成20年10月1日現在ー	6
年齢3区分別人口割合の年次推移ー昭和22～平成20年ー	6
都道府県別にみた年齢3区分別人口割合及び老年人口指数ー平成20年ー	7
人口動態の年次推移 Trends in major indices for the vital events	
1日平均件数の年次推移	8
出生の動き Natality	
出生数及び合計特殊出生率の年次推移ー明治32～平成20年ー	9
母の年齢階級別出生率の年次推移ー昭和22～平成20年ー	9
出生順位別にみた出生数及び合計特殊出生率の年次推移ー昭和45～平成20年ー	10
出生順位別にみた父母の平均年齢の年次推移ー昭和50～平成20年ー	10
都道府県別にみた合計特殊出生率の年次比較ー平成10・20年ー	11
都道府県別にみた第1子出生時の母の平均年齢の年次比較ー平成10・20年ー	11
結婚生活に入ってから第1子出生までの期間別にみた出生数割合及び平均同居期間の年次推移 ー昭和55～平成20年ー	12
結婚生活に入ってから第1子出生までの期間（1年未満）別にみた母の年齢階級別出生数ー平成20年ー	12
性別にみた出生時平均体重及び2,500g未満出生数割合の年次推移ー昭和50～平成20年ー	13
妊娠期間別出生数割合の年次推移ー昭和55～平成20年ー	13
合計特殊出生率の年次推移ー諸外国との比較 1947～2008年	14
主な国及び地域の合計特殊出生率	14
死亡の動き General mortality	
死亡数及び死亡率の年次推移ー明治32～平成20年ー	15
性別にみた都道府県別死亡率及び65歳以上人口割合ー平成20年ー	16
主な死因別にみた死亡率の年次推移ー昭和22～平成20年ー	17
3大死因別にみた性別年齢調整死亡率の年次推移ー昭和22～平成20年ー	17
部位別にみたがんの死亡率の年次推移, 男ー昭和25～平成20年ー	18
部位別にみたがんの死亡率の年次推移, 女ー昭和25～平成20年ー	19
性・年齢階級別にみた主な死因の死亡数ー平成20年ー	20
全年齢及び65歳以上の不慮の溺死による死亡数及び死亡率の年次推移ー平成7～20年ー	21
不慮の溺死の年齢階級別構成割合の年次比較ー平成7～20年ー	21
65歳以上の不慮の溺死の種類及び発生場所別構成割合ー平成20年ー	21
月別にみた不慮の溺死の死亡数ー平成20年ー	21
死亡率の年次推移ー諸外国との比較 1947～2008年	22
年齢調整死亡率の諸外国との比較 2002年	22
性別にみた主な死因別死亡率の諸外国との比較	23
乳児死亡の動き Infant mortality	
生存期間別にみた乳児死亡率の年次推移ー昭和25～平成20年ー	24
死因別乳児死亡数割合ー平成20年ー	24
乳児死亡率の年次推移ー諸外国との比較 1947～2008年	25
生存期間別乳児死亡率の諸外国との比較	25
自然増減の動き Natural change	
自然増減数及び自然増減率の年次推移ー明治32～平成20年ー	26
都道府県別にみた自然増減数及び自然増減率の年次比較ー昭和63・平成10・20年ー	27

死産の動き Foetal mortality

自然－人工別にみた死産率の年次推移－昭和25～平成20年－	28
妊娠期間（4週区分）別にみた性別自然死産数－平成20年－	28

周産期死亡の動き Perinatal mortality

周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移－昭和54～平成20年－	29
周産期死亡率の諸外国との比較	29

婚姻の動き Marriages

婚姻件数及び婚姻率の年次推移－昭和22～平成20年－	30
夫妻とも再婚又はどちらか一方が再婚の婚姻件数の年次推移－昭和27～平成20年－	30
夫・妻の年齢階級別にみた婚姻件数及び平均婚姻年齢の年次推移－昭和22～平成20年－	31
結婚生活に入ったときの年齢階級別にみた初婚率・再婚率（人口千対）の年次比較 －昭和63・平成10・20年－	32
夫妻の一方が外国人の国籍別婚姻件数の年次推移－昭和40～平成20年－	32
夫妻の一方が外国人の国籍別割合－平成20年－	32
婚姻率の年次推移－諸外国との比較 1947～2008年	33
<参考>出生に占める嫡出でない子の出生割合の国際比較－最新年次－	33

離婚の動き Divorces

同居期間別にみた離婚件数の年次推移－昭和22～平成20年－	34
<再掲>同居期間20年以上の離婚件数－昭和50～平成20年－	34
親権を行う者別にみた離婚件数及び親が離婚をした未成年の子の数の年次推移 －昭和25～平成20年－	35
夫・妻の年齢階級別にみた離婚件数構成割合の年次推移－昭和25～平成20年－	35
離婚率の年次推移－諸外国との比較 1947～2008年	36

「平成15～19年 人口動態保健所・市区町村別統計」から

Vital statistics by health center and municipal, 2003～2007

市区町村別にみた合計特殊出生率の分布	37
市区町村別にみた標準化死亡比の分布	37

寿命 Life expectancy at birth

各国の平均寿命の年次推移 1947～2008年	38
-------------------------	----

統計表 Statistical tables

第1表 人口動態総覧，年次別（明治32年以降）	40
第2表 人口動態総覧，都道府県別（平成20年）	44
第3表 主な死因の死亡数・死亡率（人口10万対），都道府県別（平成20年）	46
第4表 主な死因の死亡数・死亡率（人口10万対），性・年齢階級別（平成20年）	48
第5表 性・年齢階級別にみた死因順位（平成20年）	50
第6表 都道府県別にみた死因順位（平成20年）	53
付録 諸率の算出に用いた人口	54

死因分類の変更とその影響	55
--------------	----

年齢調整死亡率について	55
-------------	----

基準人口－昭和60年モデル人口－	55
------------------	----

統計表の表章記号の規約 Symbols used in tables

計数のない場合 Magnitude zero	—	比率が微小（0.05未満）の場合 Figure less than 0.05	0.0
計数不明の場合 Data not available	…	減少数（率）の場合 Negative	△
統計項目のありえない場合 Category not applicable	・		

人口動態統計とは Outline of vital statistics

我が国では、出生・死亡・婚姻・離婚及び死産の5種類の「人口動態事象」について、人口動態統計を作成している。

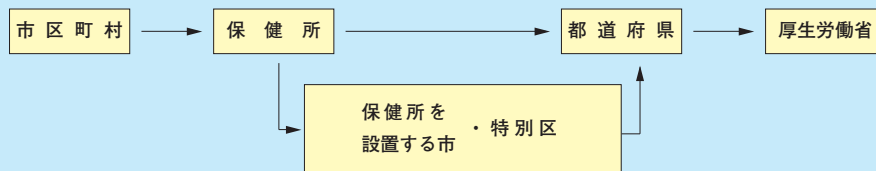
出生・死亡・婚姻及び離婚については「戸籍法」により、死産については、「死産の届出に関する規程」によって、それぞれ市区町村長に届け出られる。市区町村長は、これらの届書及び出生証明書・死亡診断書・死産証書等の関係書類に基づいて「人口動態調査票」を作成する。調査票は、地域保健活動の基礎資料として利用されるため、保健所長を経由して都道府県知事に提出され、さらに厚生労働大臣に提出される。厚生労働省では、これらの調査票を集計して人口動態統計を作成している。

我が国の人口動態に関する調査は、明治5年に始まる戸籍表（内務省戸籍局）と明治7年に東京、京都、大阪について行われた死亡届の発展形態としての衛生統計諸表（内務省衛生局）との2つの系統によって行われていたが、明治19年の内務省報告例の制定により一本化され、年報の表式統計として明治31年まで実施されている。明治31年に「戸籍法」が制定され、登録制度が法体系的にも整備されたのを機会に、同32年からは人口動態調査票は1件につき1枚の個別票が作成され、中央集計がされるという近代的な人口動態統計制度として行われるようになった。

さらに、昭和22年6月に「統計法」に基づき「指定統計第5号」として指定され、その事務の所管は同年9月1日に総理庁から厚生省に移管されて今日に至っている。

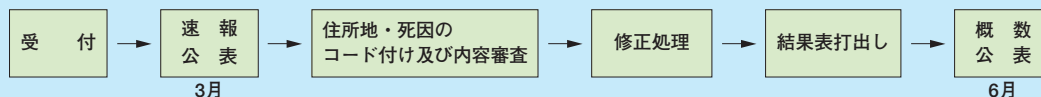
人口動態統計作成過程の概要は次のとおりである。

調査の経路

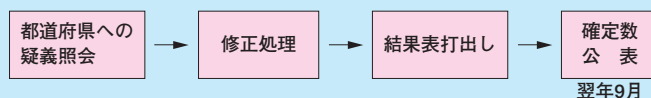


厚生労働省での集計と公表

- 月報処理（例、調査月1月分）



- 年報処理（1年分）※月報年計（概数）は翌年6月に公表



● 結果の公表

- 月報

人口動態統計速報 人口動態統計月報（概数）

- 年報

人口動態統計月報年計（概数）
人口動態統計上巻、中巻、下巻
我が国の人口動態

- 特殊報告

都道府県別年齢調整死亡率
人口動態保健所・市区町村別統計

- 人口動態職業・産業別統計

- ホームページに掲載

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

総務省統計局「政府統計の総合窓口（e-Stat）」 <http://www.e-stat.go.jp/>

比率の解説 Explanation of rates

$$\textcircled{\text{出生率・死亡率・婚姻率・離婚率}} = \frac{\text{年間の件数}}{\text{人口}} \times 1,000$$

$$\textcircled{\text{死産率・自然死産率・人工死産率}} = \frac{\text{死産（自然・人工）数}}{\text{出産（出生＋死産）数}} \times 1,000$$

死産とは妊娠満12週以後の死児の出産をいう。

$$\textcircled{\text{妊娠満22週以後の死産率}} = \frac{\text{妊娠満22週以後の死産数}}{\text{出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）数}} \times 1,000$$

$$\textcircled{\text{乳児死亡率・新生児死亡率・早期新生児死亡率}} = \frac{\text{乳児・新生児・早期新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 1,000$$

乳児死亡とは生後1年未満の死亡、新生児死亡とは生後4週（28日）未満の死亡、早期新生児死亡とは生後1週（7日）未満の死亡をいう。

$$\textcircled{\text{周産期死亡率}} = \frac{\text{妊娠満22週以後の死産数＋早期新生児死亡数}}{\text{出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）数}} \times 1,000$$

$$\textcircled{\text{老年人口指数}} = \frac{\text{老年人口（65歳以上）}}{\text{生産年齢人口（15～64歳）}} \times 100$$

老年人口指数とは老年人口の生産年齢人口に対する比率である。

$$\textcircled{\text{自然増減率}} = \frac{\text{自然増減数（出生数－死亡数）}}{\text{人口}} \times 1,000$$

$$\textcircled{\text{合計特殊出生率}} = \left(\frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別女性人口}} \right) \text{15歳から49歳までの合計}$$

（期間合計特殊出生率）（都道府県別は5歳階級で算出し、5倍したものを合計している。）

その年次の15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。

（実際に1人の女性が一生の間に生む子ども数はコーホート合計特殊出生率である。）

$$\textcircled{\text{死因別死亡率}} = \frac{\text{死因別死亡数}}{\text{人口}} \times 100,000$$

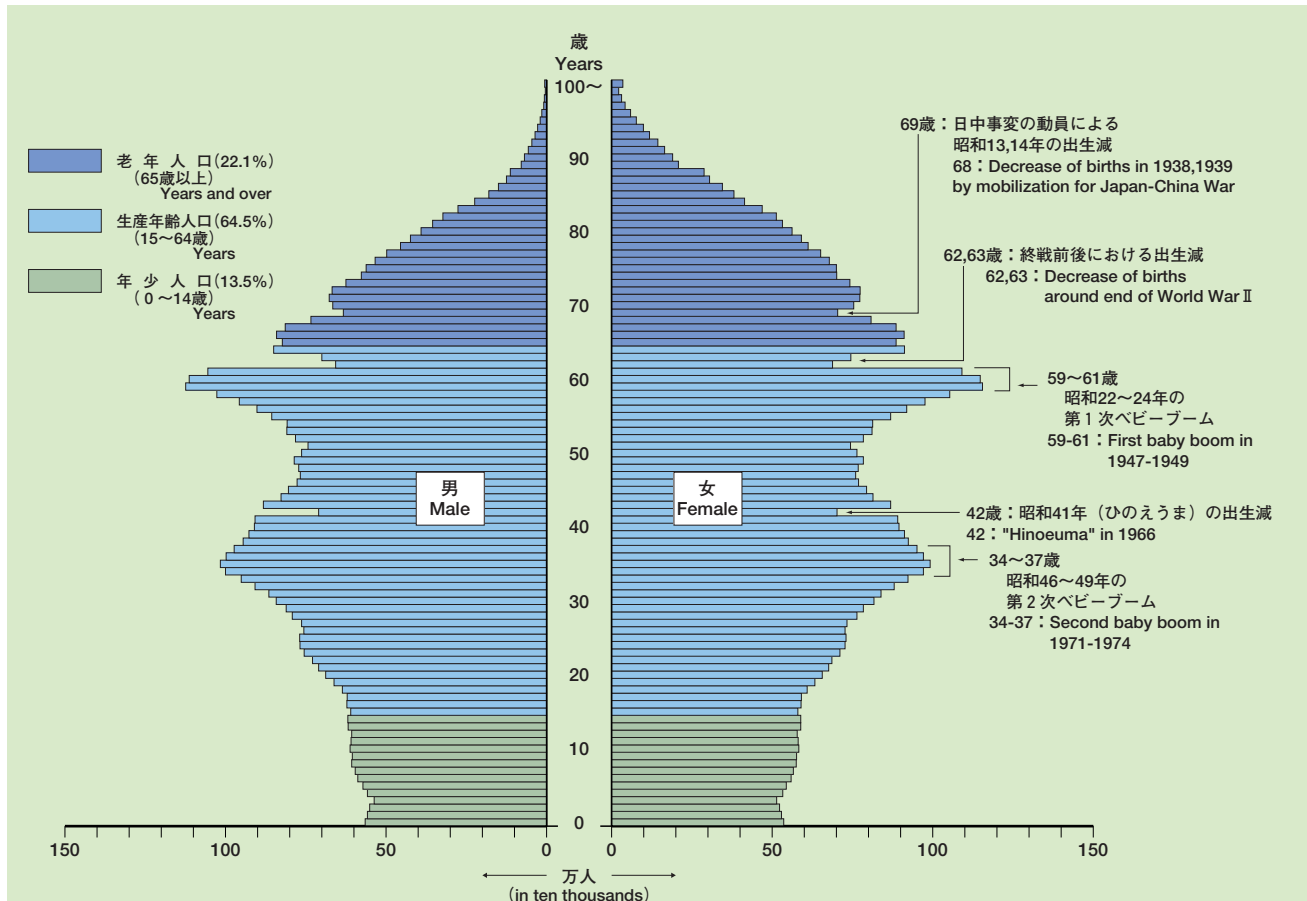
$$\textcircled{\text{年齢調整死亡率}} = \frac{\left\{ \left(\frac{\text{観察集団の各年齢階級の死亡率}}{\text{基準となる人口集団の}} \right) \times \left(\text{その年齢階級の人口} \right) \right\} \text{の各年齢階級の総和}}{\text{基準となる人口集団の総和（昭和60年モデル人口）}}$$

年齢構成が著しく異なる人口集団の間での死亡率や、特定の年齢層に偏在する死因別死亡率などを、その年齢構成の差を取り除いて比較する場合に用いる（55頁参照）。なお、計算式中の「観察集団の各年齢階級の死亡率」は、1,000倍（死因の場合は100,000倍）されたものである。

人 口 Population

平成20年の人口は1億2769万人 老年人口は22.1%

我が国の人口ピラミッドー平成20年10月1日現在ー
Population pyramid as of Oct.1,2008



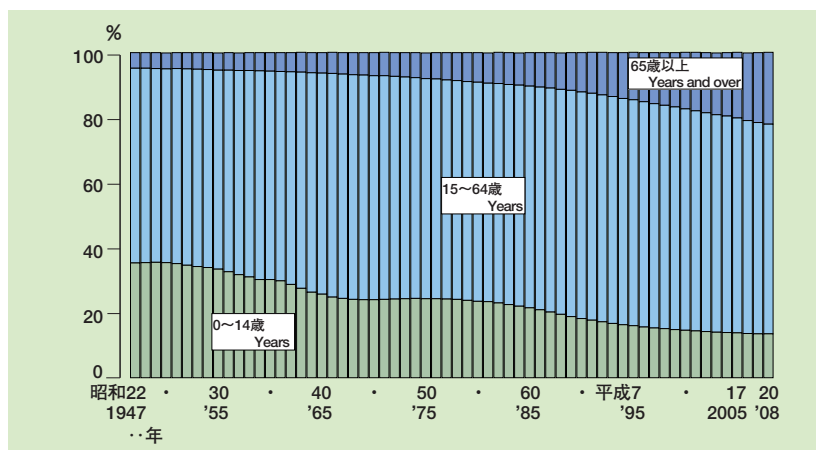
資料：総務省統計局「平成20年10月1日現在推計人口」、人口は総人口

総務省統計局の「推計人口」によれば、平成20年10月1日の我が国の総人口（日本に常住している外国人を含む。）は1億2769万人である。

人口の年齢構造をピラミッドに表すと、各年代の社会情勢の影響を受けた出生と死亡の変動が明らかに刻まれている。戦後の昭和22年から24年生まれの第1次ベビーブーム期と46年から49年生まれの第2次ベビーブーム期の2つのふくらみが特徴的であり、その後は出生数の減少でピラミッドのすそは年々狭まっている。

総人口の年齢3区分別人口割合の年次推移をみると、第2次ベビーブーム期以降の出生数の減少傾向と死亡状況の改善による高齢層の増加から、0~14歳の年少人口割合は減少し、65歳以上の老年人口割合は増加しており、平成9年以降は老年人口が年少人口を上回っている。平成20年は年少人口13.5%、老年人口22.1%となっている。また、15~64歳の生産年齢人口割合は平成4年をピークに減少している。

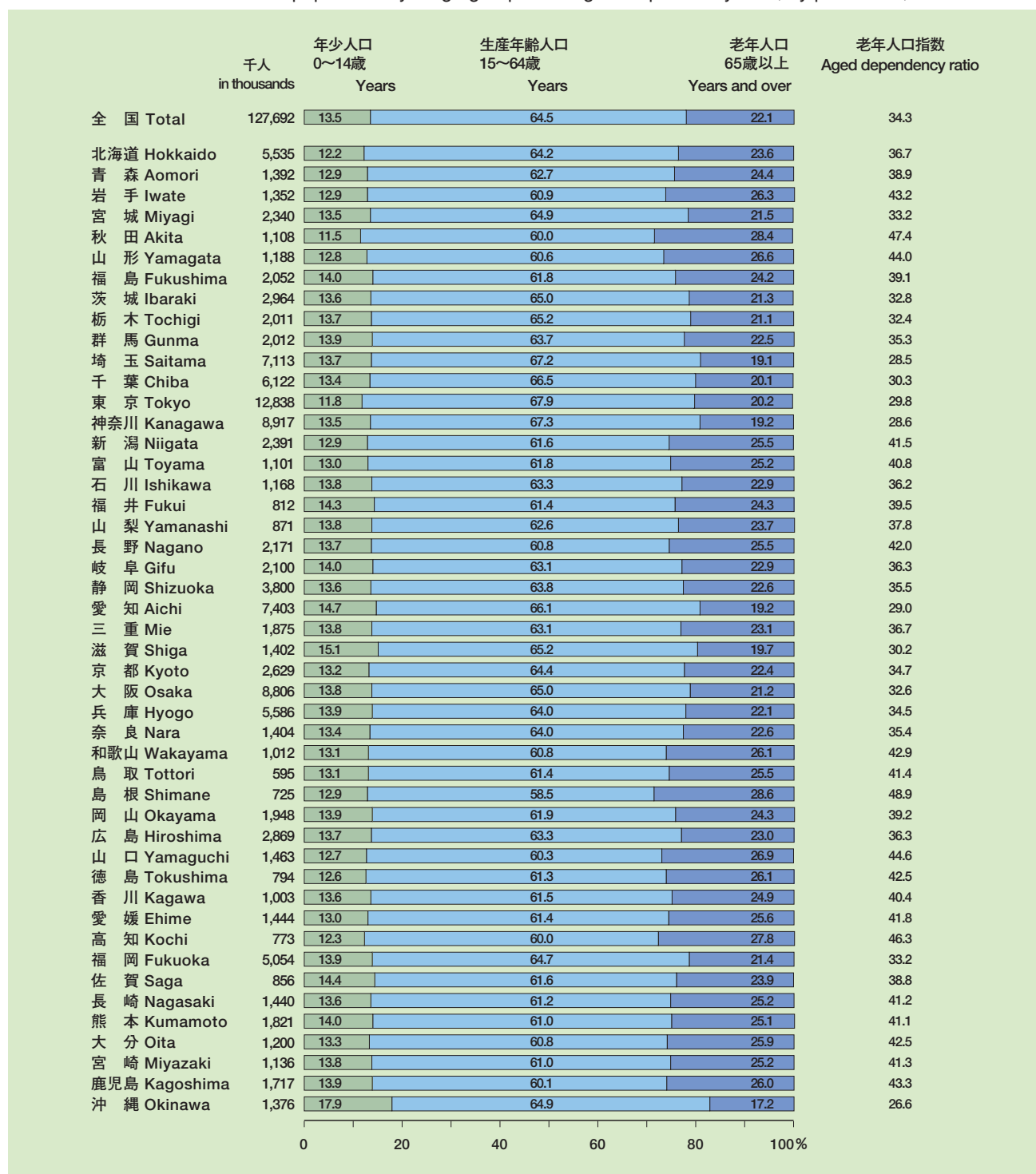
年齢3区分別人口割合の年次推移ー昭和22~平成20年ー
Trends in percent distribution of population by 3 age groups,1947—2008



老年人口割合は大都市を有する都道府県で少ない

都道府県別にみた年齢3区分別人口割合及び老年人口指数—平成20年—

Percent distribution of population by 3 age groups and aged dependency ratio, by prefecture, 2008



資料：総務省統計局「平成20年10月1日現在推計人口」、人口は総人口







平成20年の年齢3区分別人口割合を都道府県別にみると、老年人口割合が最も低いのは沖縄17.2%、次いで埼玉19.1%、神奈川・愛知19.2%、滋賀19.7%となっており、おおむね大都市を有する都道府県とその周辺で低くなっている。一方、老年人口割合が最も高いのは島根28.6%、次いで秋田28.4%、高知27.8%、山口26.9%、山形26.6%となっている。

また、人口高齢化の指標の一つである老年人口指数をみても、老年人口割合とほぼ同様のことがいえる。

人口動態の年次推移







Trends in major indices for the vital events

平成20年(2008)

出生 Live births  1,091,156人 29秒に1人 1/29 s	死亡 Deaths  1,142,407人 28秒に1人 1/28 s	(再掲) 乳児死亡 (Regrouped) Infant deaths  2,798人 3時間8分22秒に1人 1/3 h 8m22 s	死産 Foetal deaths  28,177胎 18分42秒に1胎 1/18m42 s	婚姻 Marriages  726,106組 44秒に1組 1/44 s	離婚 Divorces  251,136組 2分6秒に1組 1/2m6 s
---	--	---	--	---	--

1日平均件数の年次推移

Trends in average number of cases per day

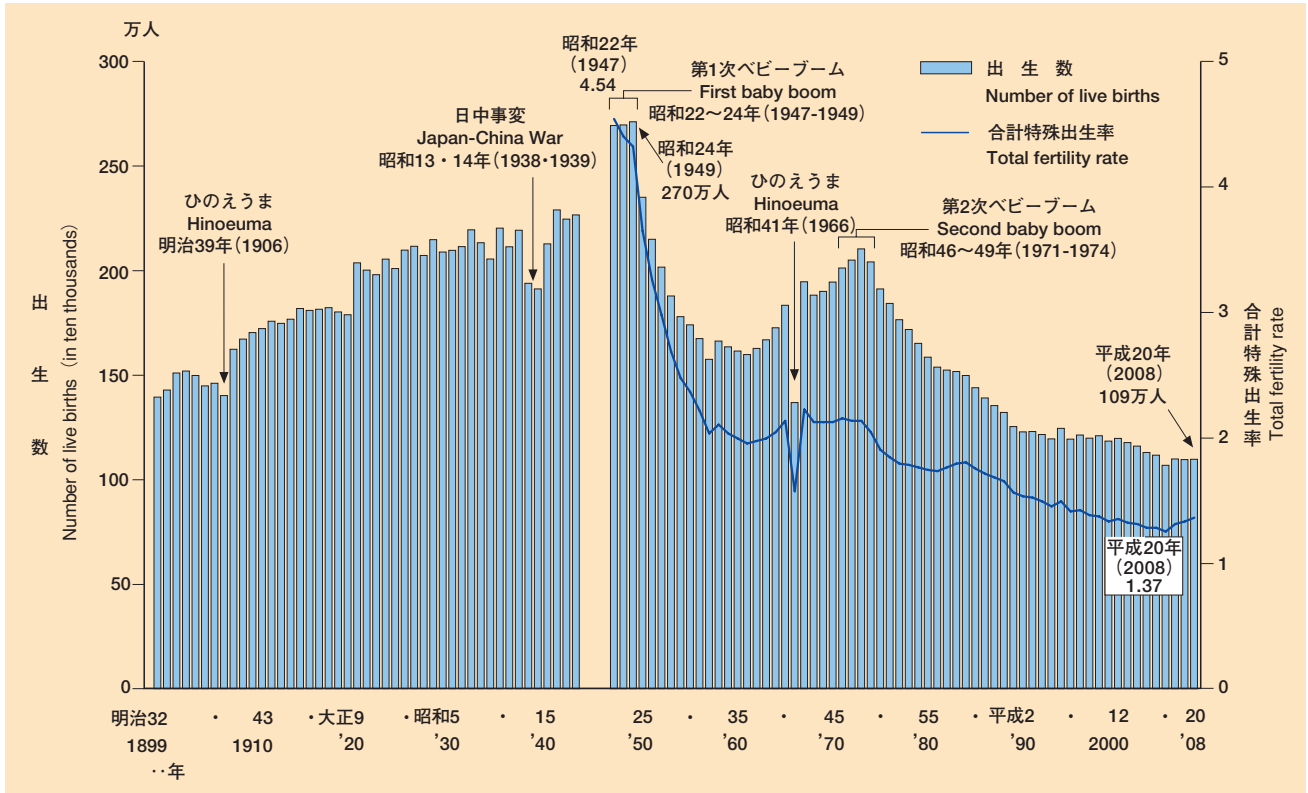
年次 Year		出生 Live births 	死亡 Deaths 	(再掲) 乳児死亡 (Regrouped) Infant deaths 	死産 Foetal deaths 	婚姻 Marriages 	離婚 Divorces 
2008	平成20年	2,981	3,121	8	77	1,984	686
2007	19年	2,986	3,037	8	80	1,972	698
2006	18年	2,994	2,971	8	85	2,003	705
2005	17年	2,911	2,969	8	87	1,957	718
2000	12年	3,253	2,627	10	105	2,181	722
1995	7年	3,252	2,526	14	108	2,170	545
1990	2年	3,347	2,247	15	148	1,978	432
1985	昭和60年	3,922	2,061	22	189	2,016	457
1980	55年	4,308	1,975	32	212	2,117	387
1975	50年	5,209	1,924	52	279	2,580	326
1970	45年	5,299	1,953	70	370	2,820	263
1965	40年	4,996	1,919	92	443	2,616	211
1960	35年	4,388	1,931	135	490	2,366	190
1955	30年	4,742	1,900	188	502	1,959	206
1950	25年	6,404	2,479	385	594	1,959	229
1947	22年	7,339	3,118	563	339	2,559	218

出生の動き Natality

出生数・合計特殊出生率はともに前年を上回る

出生数及び合計特殊出生率の年次推移—明治32～平成20年—

Trends in live births and total fertility rates, 1899—2008

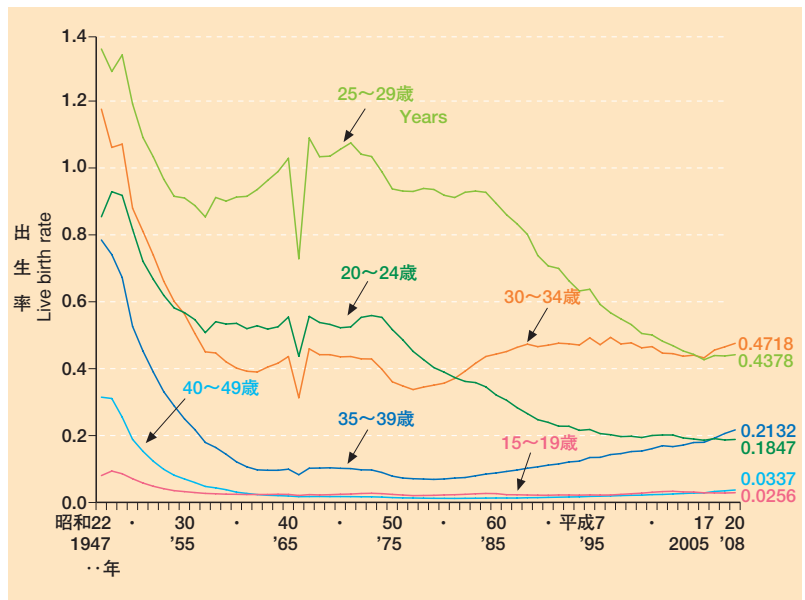


出生数の年次推移をみると、第2次世界大戦前は戦争のあったときを除いて増加していたが、戦後は、昭和22年から24年の第1次ベビーブーム期と46年から49年の第2次ベビーブーム期に200万人を超えたのを除いて、減少傾向にあった。平成元年以降は120万人前後で推移し、13年からは減少を続けていたが、18年は6年ぶりに増加した。19年は再び減少したものの、20年は109万1156人で、前年より1338人増加した。

合計特殊出生率は1.37で、前年の1.34を上回った。合計特殊出生率の年次推移をみると、第1次ベビーブーム期には4を超えていたが、昭和20年代後半に急激に低下し31年には2.22となり、初めて人口置き換え水準*（同年2.24）を下回った。その後、昭和46年までは「ひのえうま」前後の特殊な動きを除けば緩やかな上昇傾向にあり、第2次ベビーブーム期の47、48年には2.14となった。その後は低下に転じ、昭和50年には2を下回り、50年代後半を除いて低下傾向が続いていたが、平成18年からは3年連続で上昇している。

母の年齢階級別出生率の年次推移—昭和22～平成20年—

Trends in live birth rates by age of mother, 1947—2008



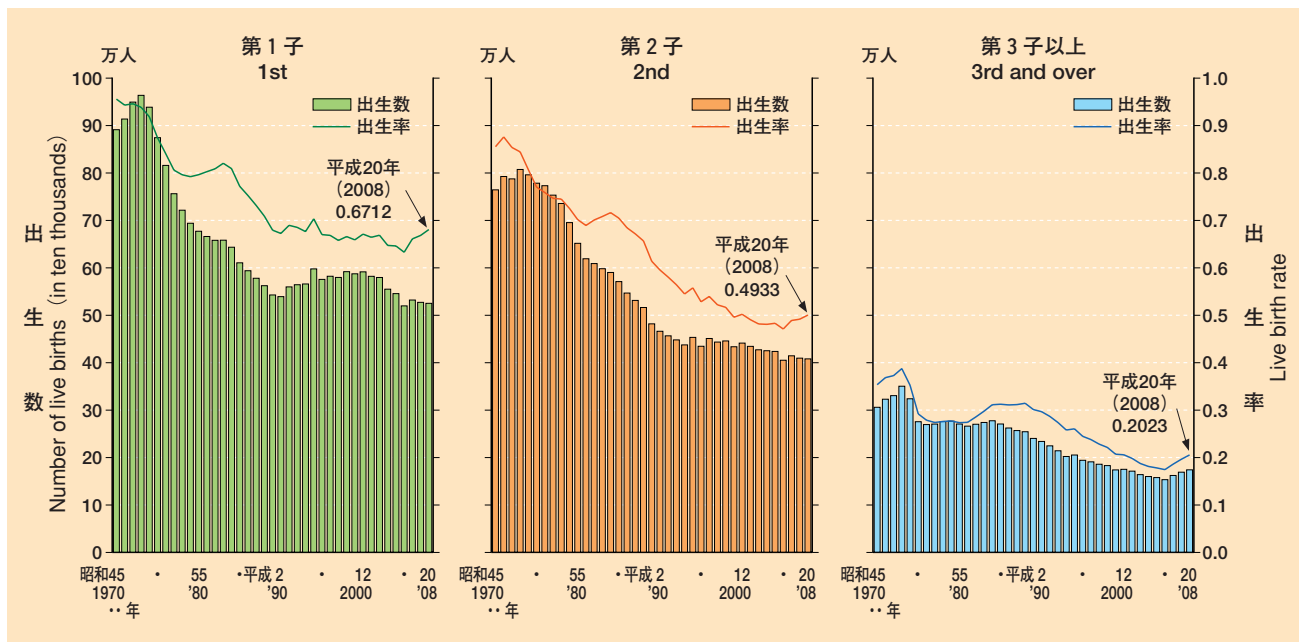
注：母の各年齢別出生率を足し上げたもので、各階級の合計が合計特殊出生率である。

母の年齢階級別出生率の年次推移をみると、昭和50年代以降は20歳代の出生率が大きく低下し、近年は30歳代の出生率が上昇傾向となっている。

*人口置き換え水準とは、人口が将来にわたって増えも減りもしないで、親の世代と同数で置き換わるための大きさを表す指標である。人口置き換え水準に見合う合計特殊出生率は、女性の死亡率等によって変動するので一概にはいえないが、日本における平成20年の値は2.07である。なお、人口置き換え水準は、国立社会保障・人口問題研究所で算出している。

第3子以上は出生数、合計特殊出生率ともに前年を上回る

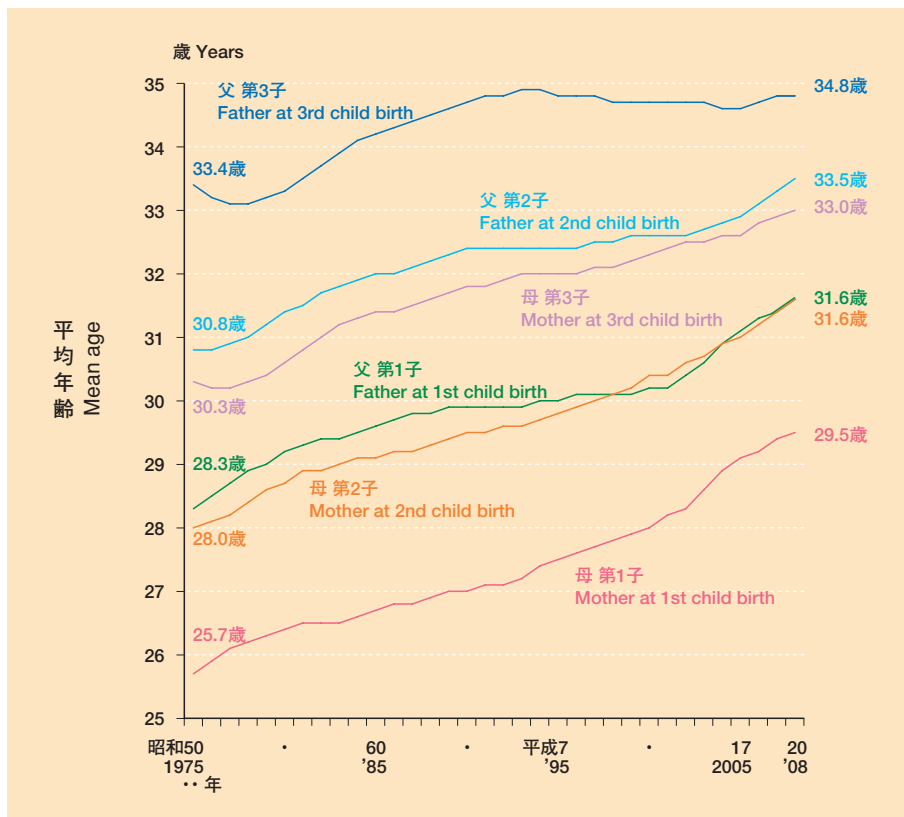
出生順位別にみた出生数及び合計特殊出生率の年次推移—昭和45～平成20年—
Trends in live births and total fertility rates by birth order, 1970-2008



注：1) 出生順位とは、同じ母親がこれまでに生んだ出生子の総数について数えた順序である。
2) 出生順位別の出生率の数値は出生順位ごとに15歳から49歳の母の各歳別出生率を合計したものであり、第1子から第3子以上の出生率を合計したものが、合計特殊出生率である。

父母の平均年齢は上昇

出生順位別にみた父母の平均年齢の年次推移—昭和50～平成20年—
Trends in mean age of father and mother by live birth order 1975-2008



出生順位別に出生数及び合計特殊出生率の年次推移をみると、出生数はすべての出生順位で第2次ベビーブーム期（昭和46～49年）に多くっており、その後は第1子の平成3～12年を除いて減少傾向となっていた。平成18年にはすべての出生順位で増加したが、20年は前年に引き続き、第3子以上のみ前年を上回った。

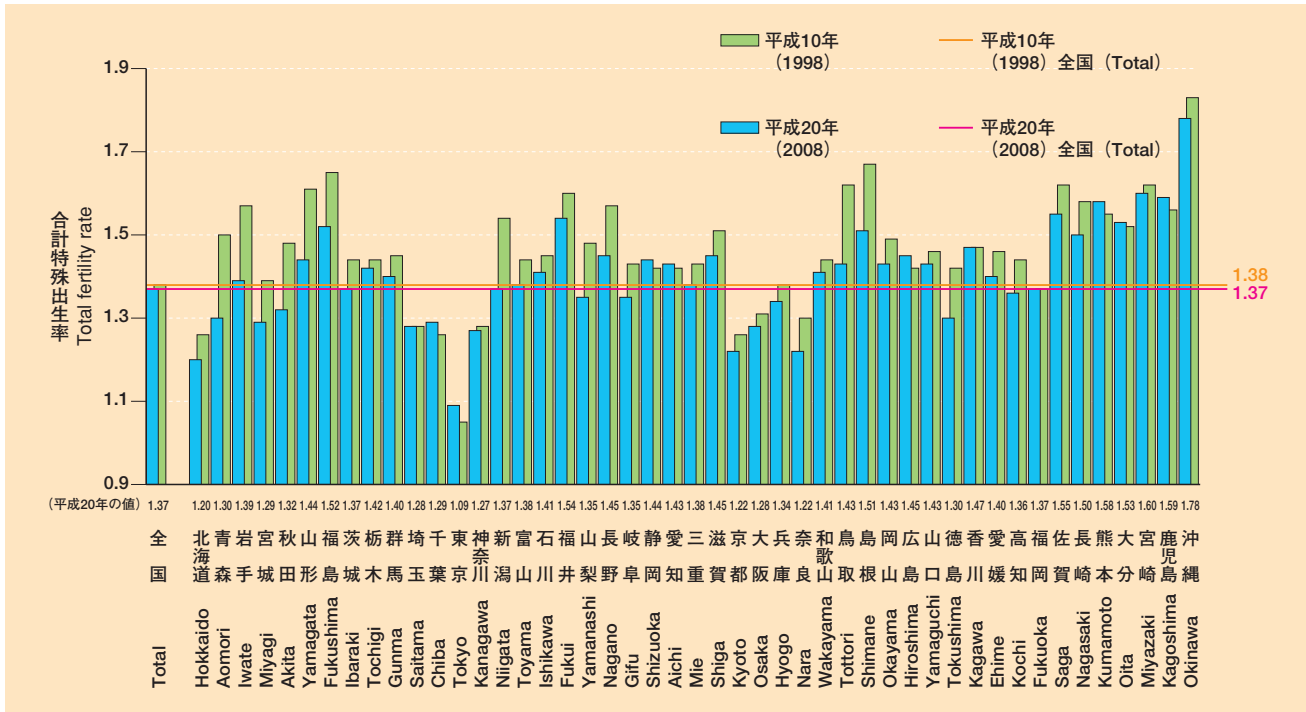
合計特殊出生率は第2次ベビーブーム期以降、昭和50年代後半を除いてすべての出生順位で低下傾向となっていたが、平成18年からは3年連続で上昇している。

出生順位別に母の平均年齢をみると、平成20年では第1子29.5歳、第2子31.6歳、第3子33.0歳となっており、昭和50年に比べ、それぞれ3.8歳、3.6歳、2.7歳上昇している。

父の平均年齢も、平成の初めまでは上昇傾向にあったが、その後は横ばいとなった。近年は第1子、第2子が上昇しており、平成20年は第1子31.6歳、第2子33.5歳、第3子34.8歳となっている。

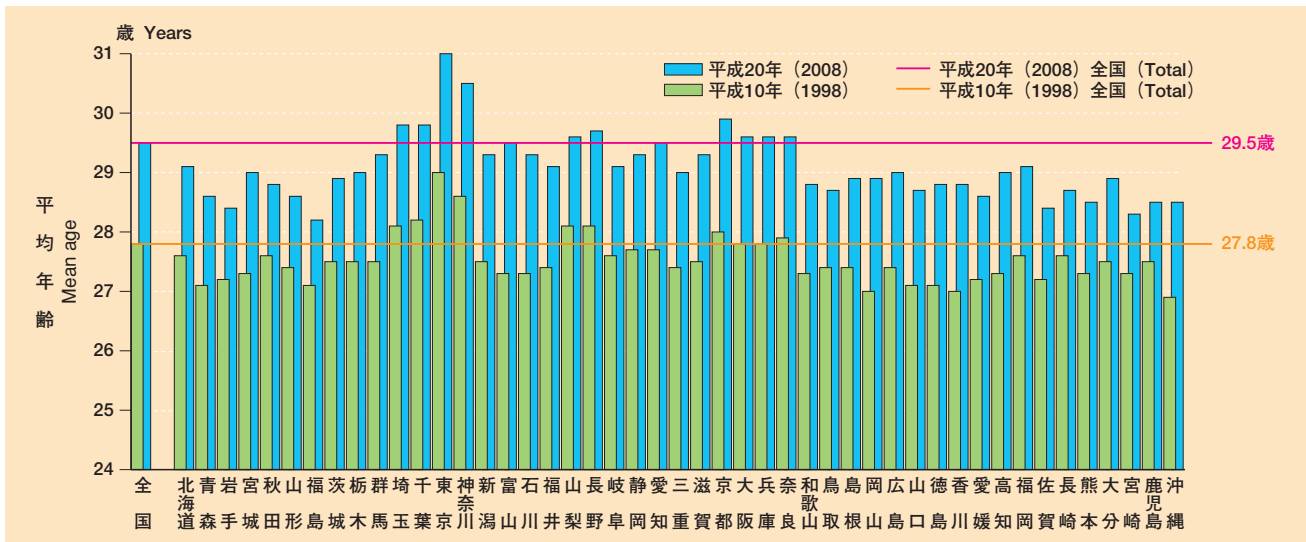
合計特殊出生率は都市に比べて地方で低下

都道府県別にみた合計特殊出生率の年次比較—平成10・20年—
Comparison of total fertility rates by prefecture, 1998・2008



母の平均年齢は大都市を有する都道府県で高い

都道府県別にみた第1子出生時の母の平均年齢の年次比較—平成10・20年—
Comparison of mean age of mother at first child by prefecture, 1998・2008



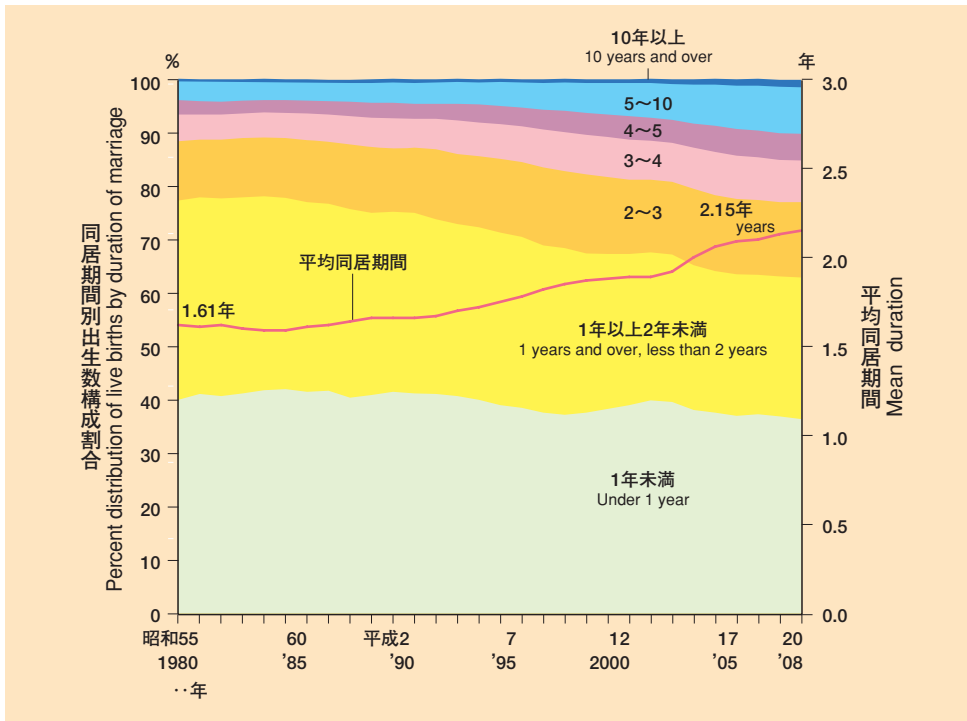
平成20年の合計特殊出生率を都道府県別にみると、最も高いのは沖縄1.78、次いで宮崎1.60、鹿児島1.59、熊本1.58、佐賀1.55となっている。一方、最も低いのは東京1.09、次いで北海道1.20、京都・奈良1.22、神奈川1.27となっており、おおむね大都市を有する都道府県とその周辺で低い傾向がみられる。

都道府県別に平成20年と10年の合計特殊出生率を比較すると、都市での下がり幅は小さくなり、地方での下がり幅が大きくなっている。

都道府県別に第1子出生時の母の平均年齢をみると、東京、神奈川、京都、埼玉、千葉などの大都市を有する都道府県とその周辺で高くなっている。平成10年と比較すると、すべての都道府県で1.0~2.2歳上昇している。

出生までの同居期間は長くなっている

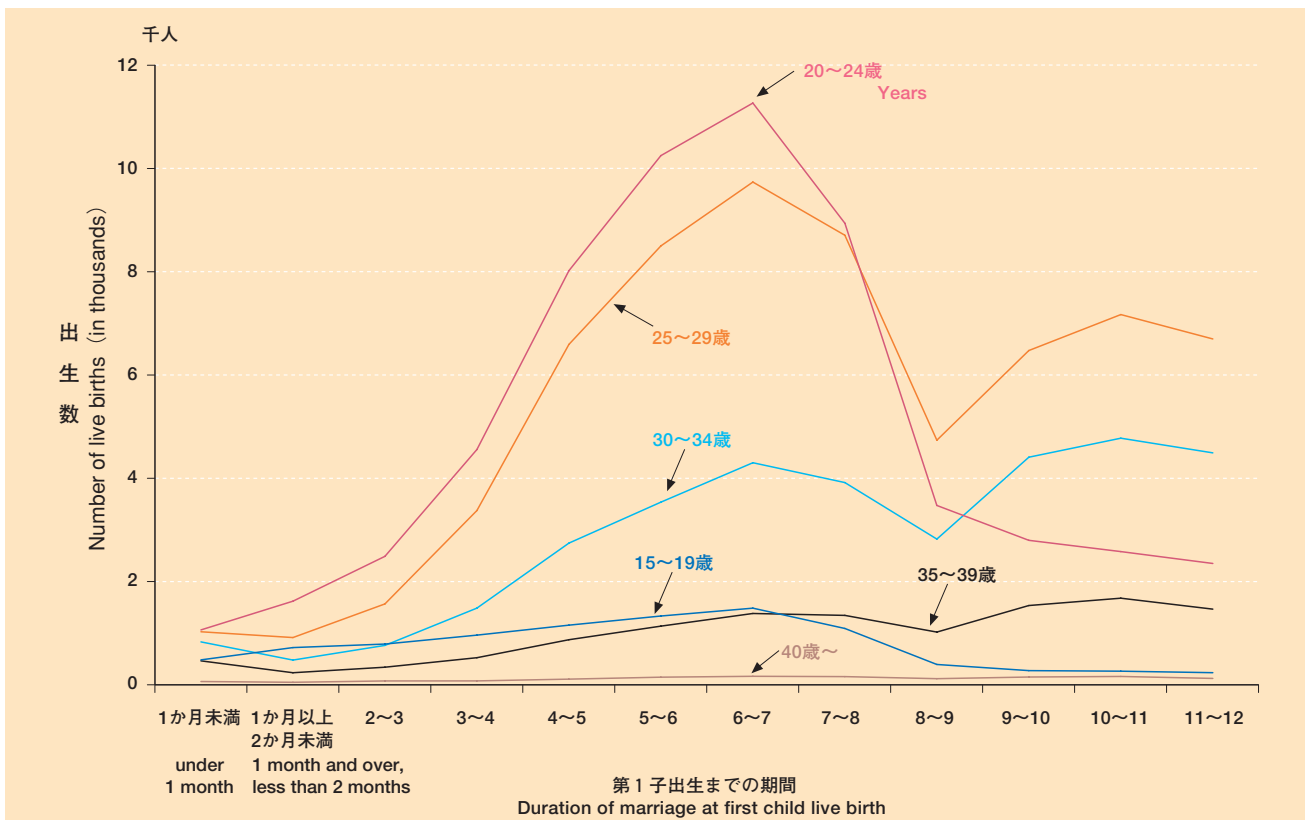
結婚生活に入ってから第1子出生までの期間別にみた出生数割合及び平均同居期間の年次推移—昭和55～平成20年—
Trends in percent distribution of duration and mean duration of marriage at first child live birth ,1980-2008



父母が結婚生活に入ってから第1子出生までの平均同居期間をみると、平成20年では2.15年となっており、昭和55年に比べ0.54年延びている。期間別の内訳をみると、1年以上2年未満の割合が低下し、4年以上の割合が上昇している。

また、1年未満で第1子を出生した期間を母の年齢階級別にみると、29歳以下では6か月以上7か月未満に出生数が最も多く、30歳代では10か月以上11か月未満が最も多くなっている。

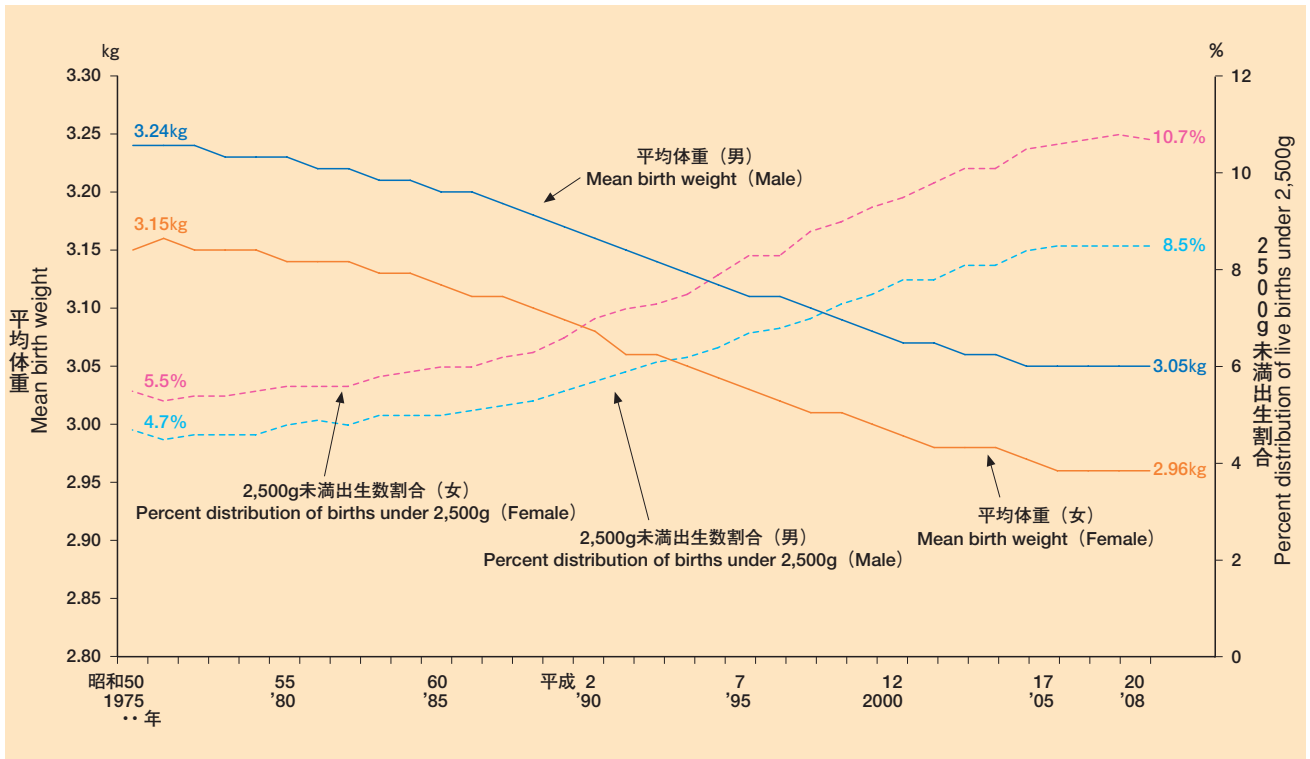
結婚生活に入ってから第1子出生までの期間（1年未満）別にみた母の年齢階級別出生数—平成20年—
First child live births distributed according to duration of marriage, by age of mother, born in less than 1 year from marriage,2008



平均体重は男女とも減少傾向

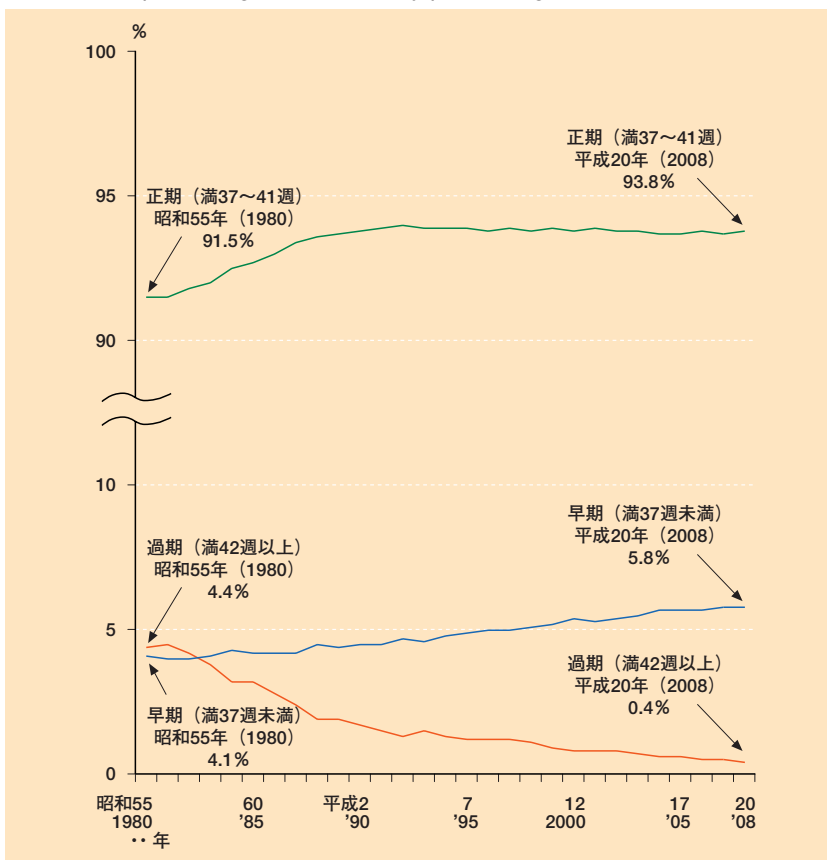
性別にみた出生時平均体重及び2,500g未満出生数割合の年次推移—昭和50～平成20年—

Trends in mean birth weight and percentage of live birth under 2,500g by sex ,1975—2008



妊娠期間別出生数割合の年次推移—昭和55～平成20年—

Trends in percentage of live birth by period of gestation,1980—2008

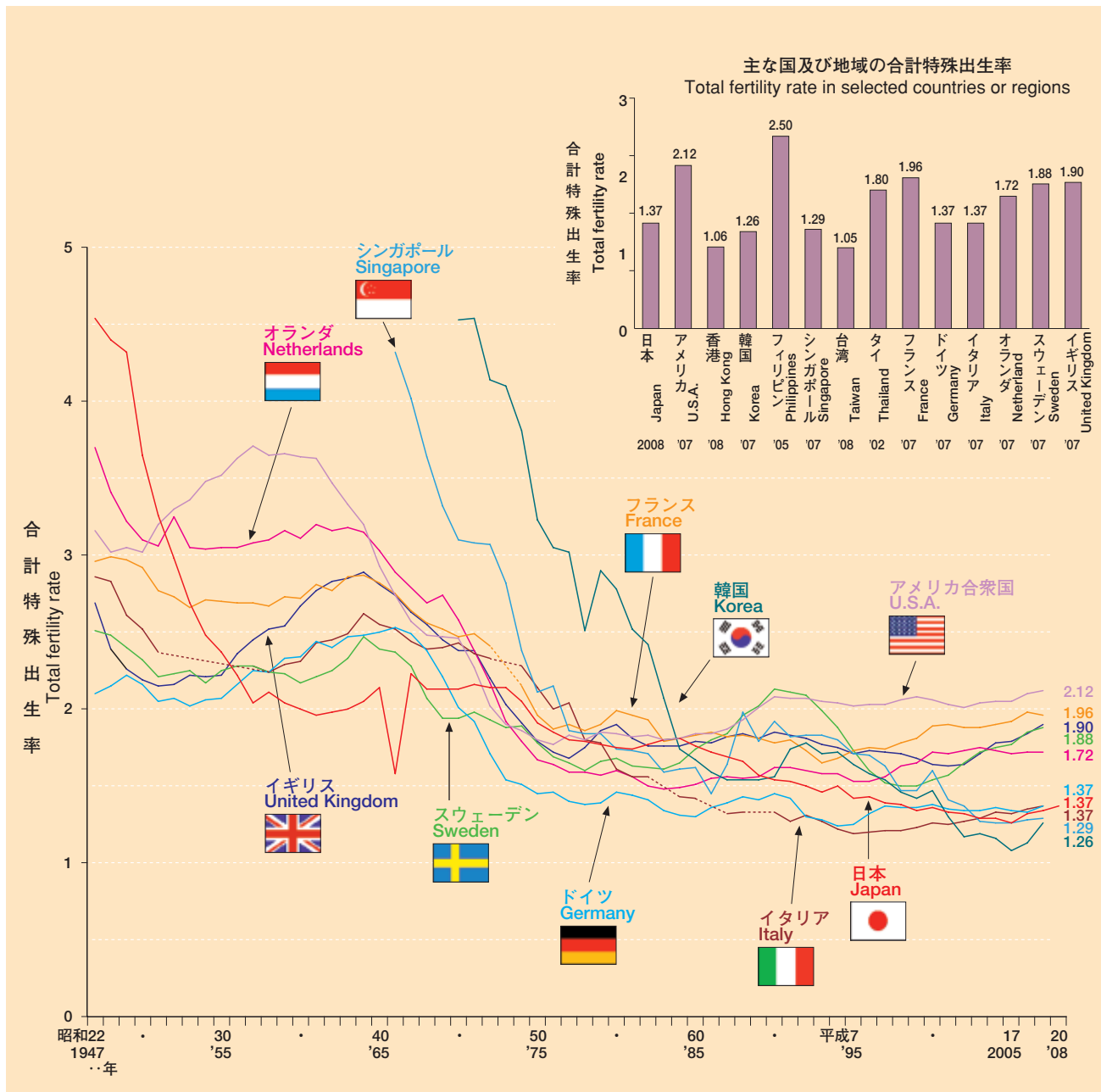


出生時平均体重の年次推移をみると、男女ともに減少しており、この30年間で約200g減少した。また、全出生数に対する2500g未満出生数割合をみると、男女とも上昇傾向にあり、平成20年は男8.5%、女10.7%となっている。

妊娠期間別出生数割合をみると、早期(満37週未満)は緩やかな上昇傾向にあり、正期(満37～41週)は昭和60年代前半頃まで上昇していたが、近年は横ばいである。過期(満42週以上)は、昭和55年に6万9873人で全出生数の4.4%を占めていたが、年々低下し、平成20年は4406人で0.4%となった。

我が国の合計特殊出生率は、近年、欧米諸国と比べて低い

合計特殊出生率の年次推移—諸外国との比較 1947～2008年
Total fertility rates in selected countries, 1947—2008



注：点線は数値なし。
 ドイツは1990年までは旧西ドイツの数値である。
 イギリスは1985年まではイングランド・ウェールズの数値である。
 フランスは海外領土を含む。
 以下は暫定値である。
 アメリカ合衆国2007年

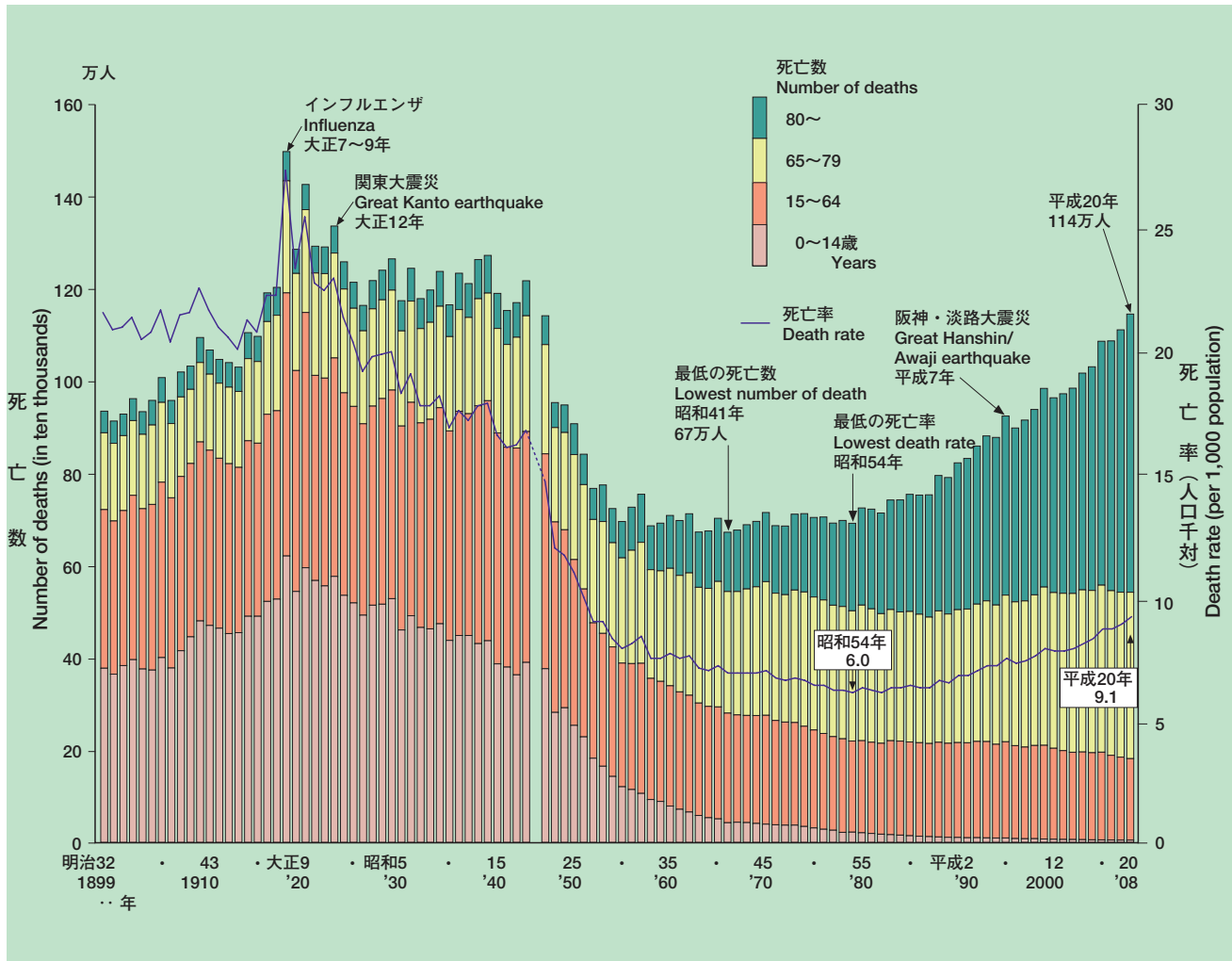
資料：UN「Demographic Yearbook」
 Council of Europe「Recent demographic developments in Europe」
 Eurostat Vital Statistics
 U.S.Department of Health and Human Services「National Vital Statistics Report」
 香港統計局資料
 タイ王国統計局資料
 台湾内政部資料
 国立社会保障・人口問題研究所「研究資料287号」

我が国と諸外国との合計特殊出生率を比較したものである。
 我が国は1947年は4.54と高率であったが、以後急激に低下し、1957年には2.04と諸外国に比べ低くなった。1960年代後半から各国が低下傾向のなか、我が国は第2次ベビーブーム期に横ばいとなったが、1980年代前半を除き再び低下傾向が続いており、その後1990年代後半から欧米で上昇傾向となっている国があるなか、我が国は低位となっている。

死亡の動き General mortality

死亡数は前年を上回る

死亡数及び死亡率の年次推移—明治32～平成20年—
Trends in deaths and death rates, 1899—2008



注：点線は数値なし。

平成20年の死亡数は114万2407人で前年より3万4073人増加し、死亡率（人口千対）は、9.1へと上昇した。

死亡数と死亡率の年次推移をみると、明治から大正にかけて、死亡数は90万～120万人、死亡率は20台で推移してきた。昭和に入って初めて死亡率は20を割り、昭和16年に死亡数は115万人、死亡率は16.0まで低下した。第2次世界大戦後の昭和22年に死亡数は114万人、死亡率は14.6であったが、医学や医療の進歩及び公衆衛生の向上などにより死亡の状況は急激に改善され、昭和41年には死亡数が最も少ない67万人、54年には死亡率が最も低い6.0となった。

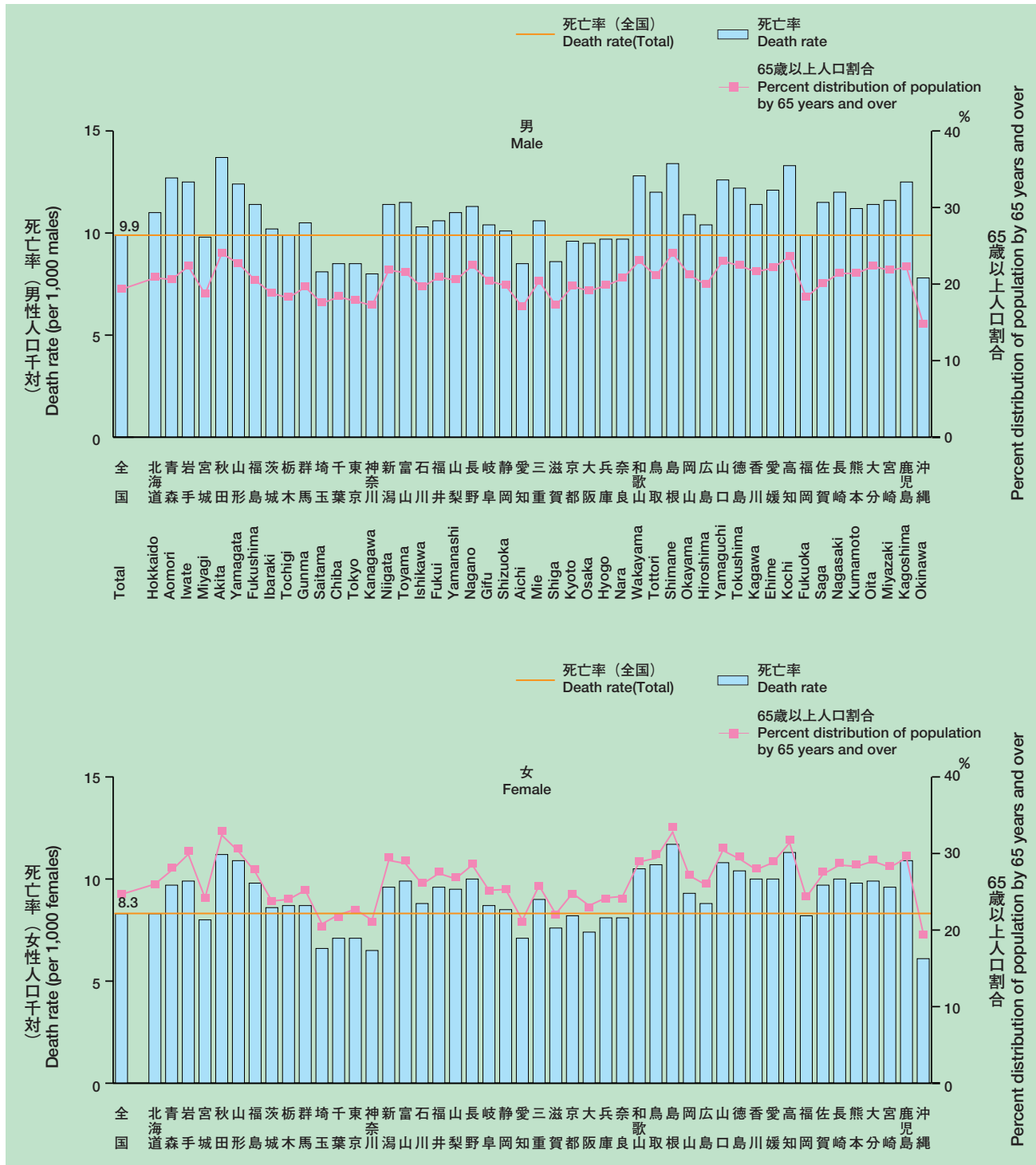
その後、人口の高齢化を反映して緩やかな増加傾向に転じ、平成15年に死亡数は100万人を超え、死亡率も上昇傾向にある。

また、年齢階層で見ると、14歳以下の死亡数は、明治から昭和初期にかけて多かったが、戦後、急激に減少している。近年では人口の高齢化を反映して65歳以上の死亡数が増加し、特に80歳以上の死亡数の増加は顕著で、全死亡数に占める割合は上昇しており、平成20年では52.6%となっている。

都道府県別にみた死亡率と65歳以上人口割合は、ほぼ同様の傾向

性別にみた都道府県別死亡率及び65歳以上人口割合 ー平成20年ー

Death rates and percent distribution of population by 65 years and over by prefecture, and sex, 2008

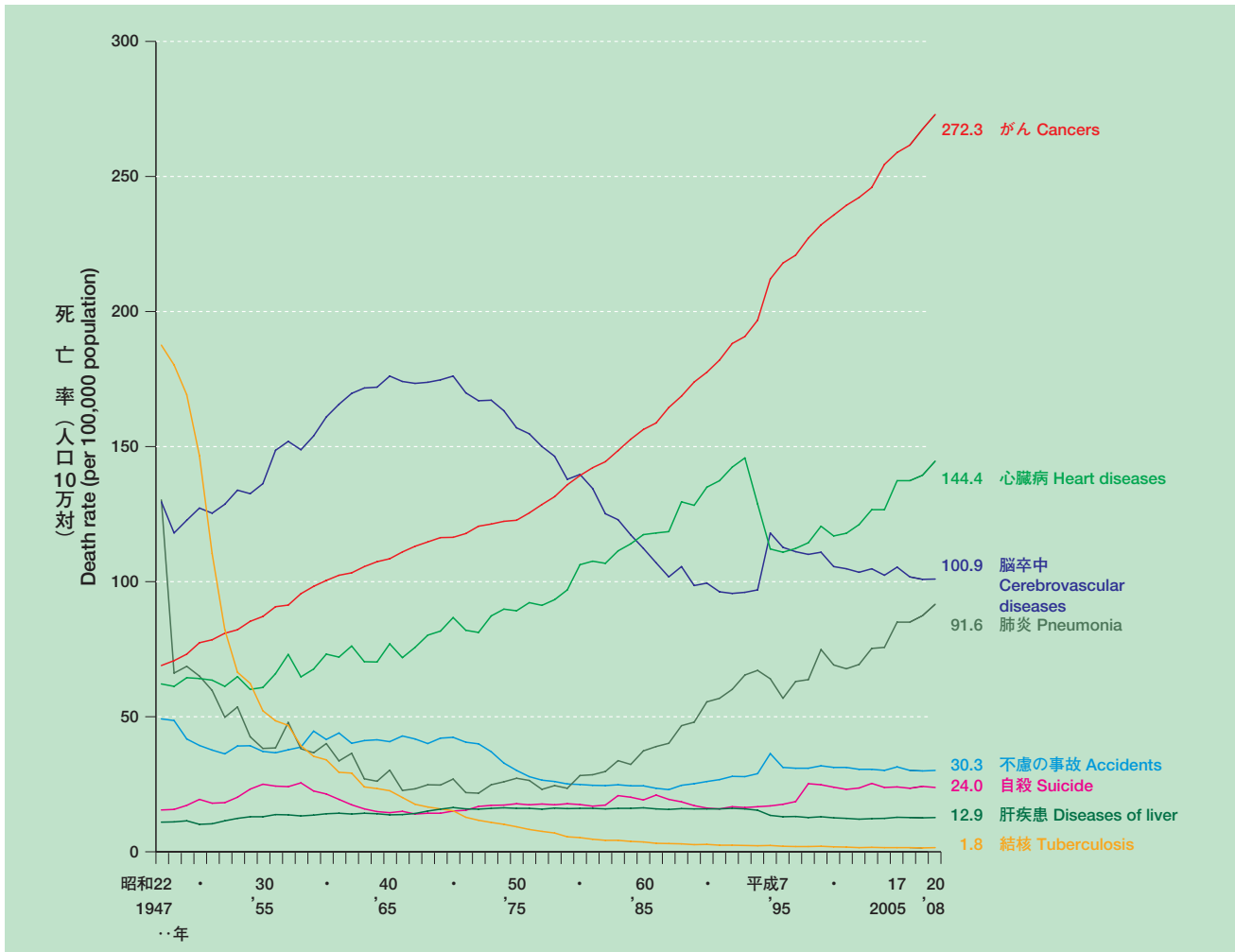


注：65歳以上人口割合とは、総人口に占める65歳以上の人口の割合である。
資料：65歳以上人口割合については、総務省統計局「平成20年10月1日現在推計人口」

平成20年の性別死亡率（人口千対）は男9.9、女8.3である。これを都道府県別にみると、死亡率が最も低いのは男では沖縄で7.8、次いで神奈川県8.0、埼玉8.1、女では沖縄で6.1、次いで神奈川県6.5、埼玉6.6である。また、最も高いのは男では秋田13.7、次いで島根で13.4、高知13.3、女では島根で11.7、高知11.3、次いで秋田11.2となっている。都道府県別にみた死亡率と65歳以上人口割合は、ほぼ同様の傾向である。

がんの死亡率は、上昇を続けている

主な死因別にみた死亡率の年次推移—昭和22～平成20年—
Trends in death rates for leading causes of death, 1947—2008



平成20年の主な死因別の死亡率（人口10万対）をみると、がん272.3、心臓病144.4、脳卒中100.9、肺炎91.6、不慮の事故30.3などとなっている。年次推移をみると、がんは一貫して上昇を続け、昭和56年以降死因順位の第1位となっている。

心臓病は昭和60年に第2位となり、その後も上昇していたが、平成6、7年には急激に低下した。平成9年からは再び上昇傾向となっている。

脳卒中は昭和45年から低下、平成3年以降は横ばいで推移し、7年に急激に上昇したものの、その後は低下傾向となっている。

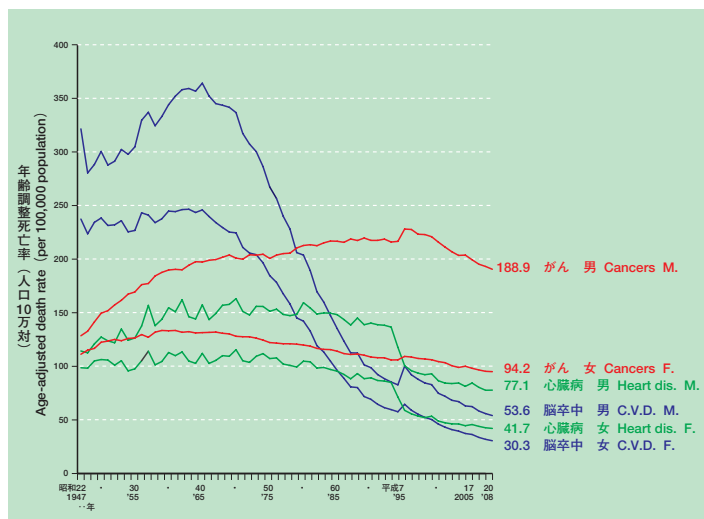
死亡の状況はその集団における人口の年齢構成に影響されるので、その年齢構成の差を取り除いて比較するための年齢調整死亡率で3大死因の年次推移をみると、近年は総じて低下傾向にある。

*本書の場合の「がん」、「心臓病」、「脳卒中」は国際疾病傷害死因分類における「悪性新生物」、「心疾患（高血圧性を除く）」、「脳血管疾患」にあたる。

**平成6、7年の心臓病の減少は、新しい死亡診断書（死体検案書）（平成7年1月施行）における「死亡の死因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。」という注意書きの、事前周知の影響によるものと考えられる。

3大死因別にみた性別年齢調整死亡率の年次推移—昭和22～平成20年—

Trends in age-adjusted death rates for 3 leading causes by sex, 1947—2008

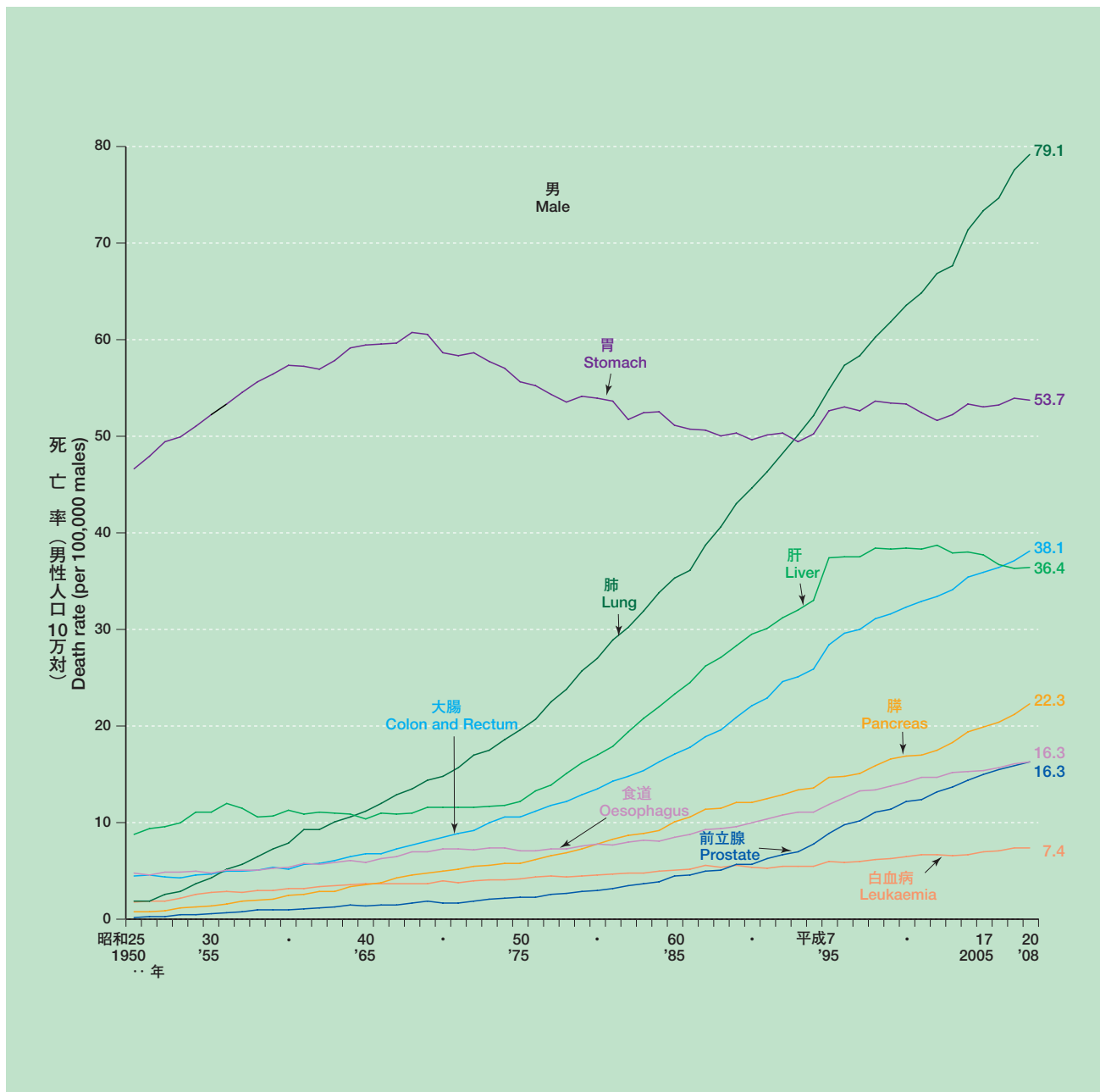


注：1) C.V.D.←Cerebrovascular diseases
2) 年齢調整死亡率については5頁、55頁を参照。

男は肺がんが第1位

部位別にみたがんの死亡率の年次推移，男—昭和25～平成20年—

Trends in death rates for cancer by site, Male, 1950—2008



注：1) 大腸←結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸 Colon and Rectum←Colon and rectosigmoid junction and rectum
 2) 肝←肝及び肝内胆管（昭和32年まで胆のう及び肝外胆管を含む。） Liver←Liver and intrahepatic bile ducts
 3) 肺←気管、気管支及び肺 Lung←Trachea, bronchus and lung

平成20年における男のがんの死亡数は20万6354人、死亡率（男性人口10万対）は336.0である。

部位別に死亡率の年次推移をみると、肺がんは一貫して上昇を続けており、平成5年には胃がんを抜いて第1位となり、引き続き上昇している。

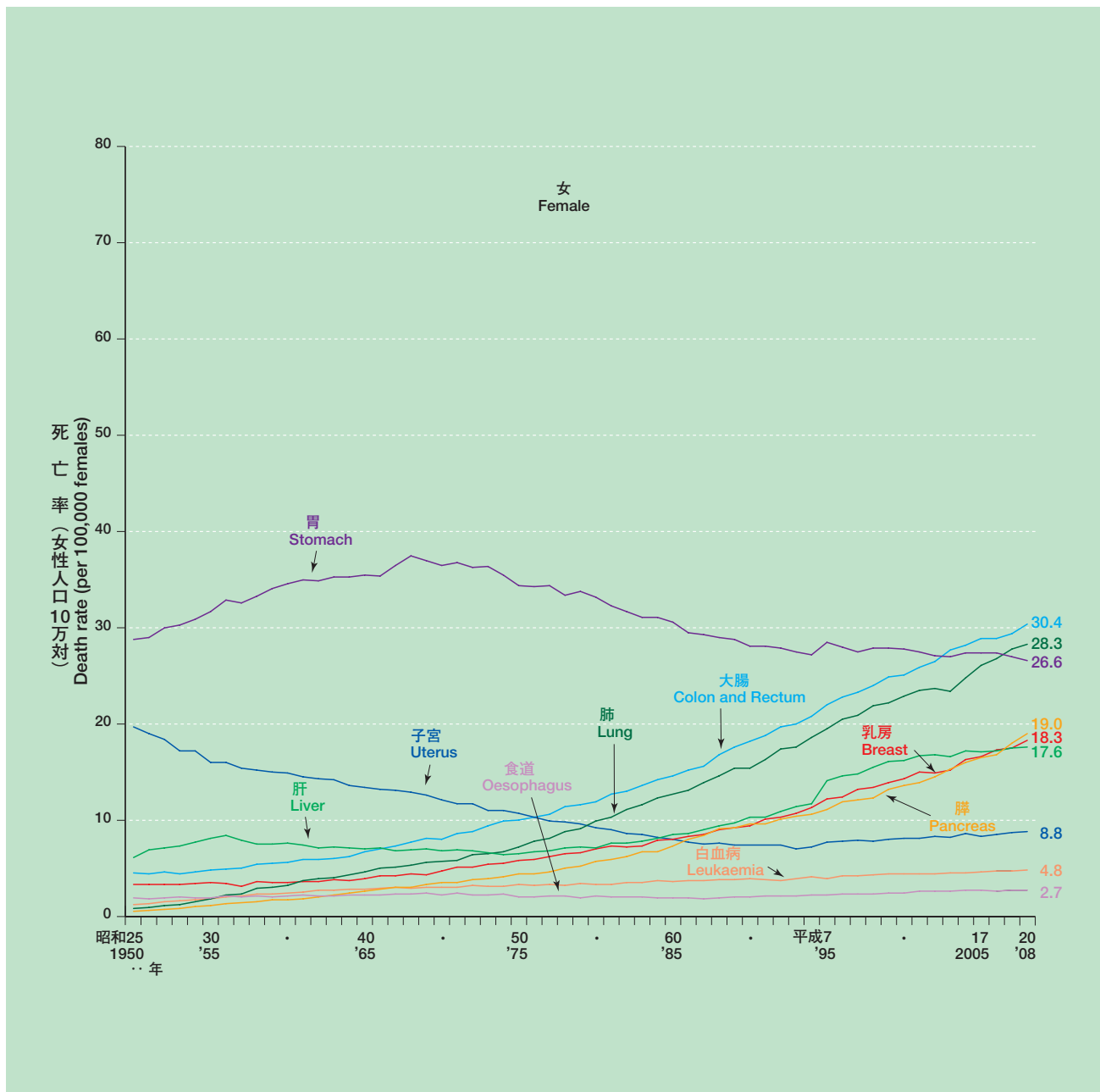
平成4年まで第1位であった胃がんは昭和43年をピークに低下傾向が続いていたが、平成6年から上昇傾向となり、近年は横ばいとなっている。

大腸がんは上昇を続けており、平成19年に肝がんを抜き、上昇傾向であった肝がんは近年は横ばいから低下傾向で推移している。

また、膵がん、食道がん、前立腺がんは上昇傾向にある。

女は大腸がんが第1位

部位別にみたがんの死亡率の年次推移，女—昭和25～平成20年—
Trends in death rates for cancer by site, Female, 1950—2008

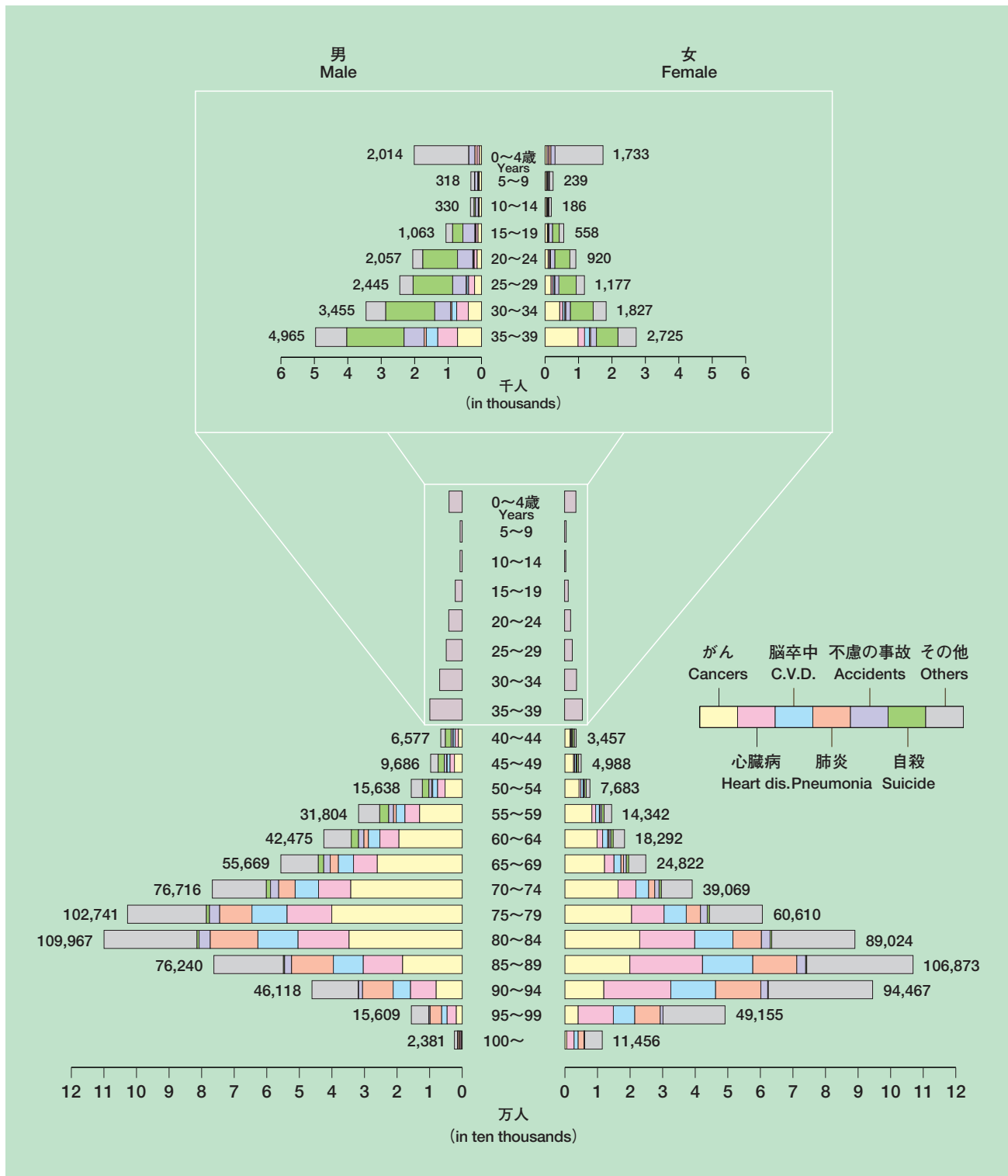


注：平成6年以前の「子宮」は胎盤を含む。

平成20年の女のがんの死亡数は13万6609人、死亡率（女性人口10万対）は211.7である。部位別に死亡率の年次推移をみると、一貫して上昇を続けていた大腸がんは、平成15年に胃がんを抜き、以降第1位となった。平成19年には、同様に上昇を続けていた肺がんも胃がんを抜いた。乳がん、肝がん、膵がんは上昇し続けており、子宮がんは低下傾向であったが、平成7年以降は緩やかな上昇傾向にある。

青年層では不慮の事故と自殺が多く、中高年層ではがんが多い

性・年齢階級別にみた主な死因の死亡数—平成20年—
Deaths from leading causes by sex and age groups, 2008



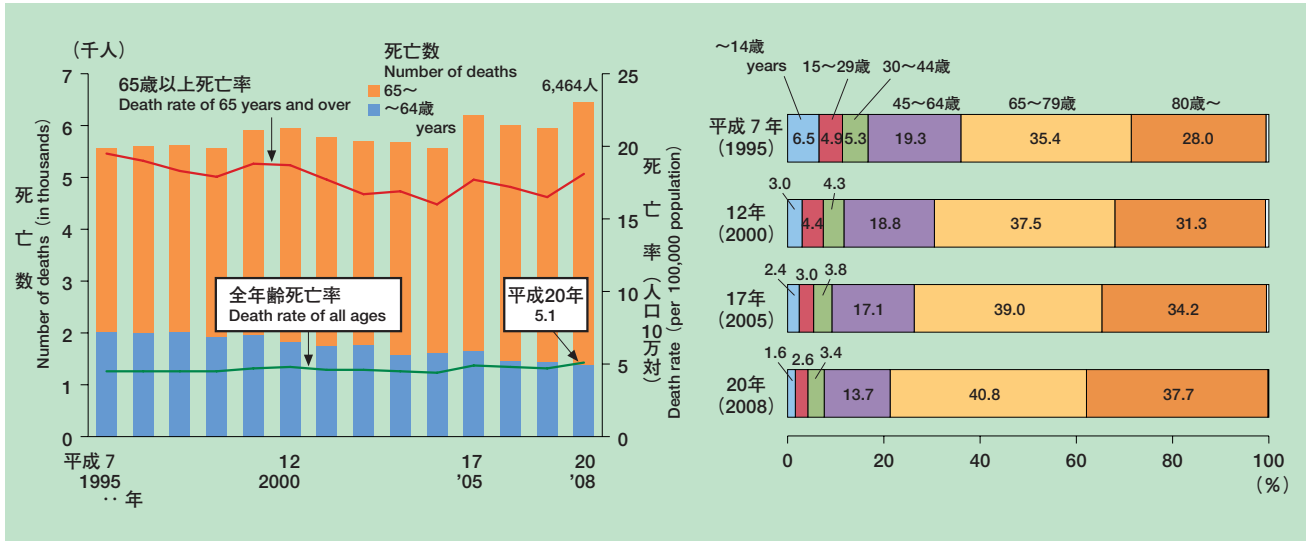
注：C.V.D. ← Cerebrovascular diseases

平成20年の性・年齢階級別の死亡数を主な死因別にみると、男女とも10歳代、20歳代では、不慮の事故及び自殺が多くなっている。50歳代、60歳代、70歳代では、がんが多くなり、80歳代以降は年齢が上がるにしたがって心臓病、脳卒中、肺炎が多くなっている。

「不慮の溺死」は65歳以上の死亡数の割合が上昇

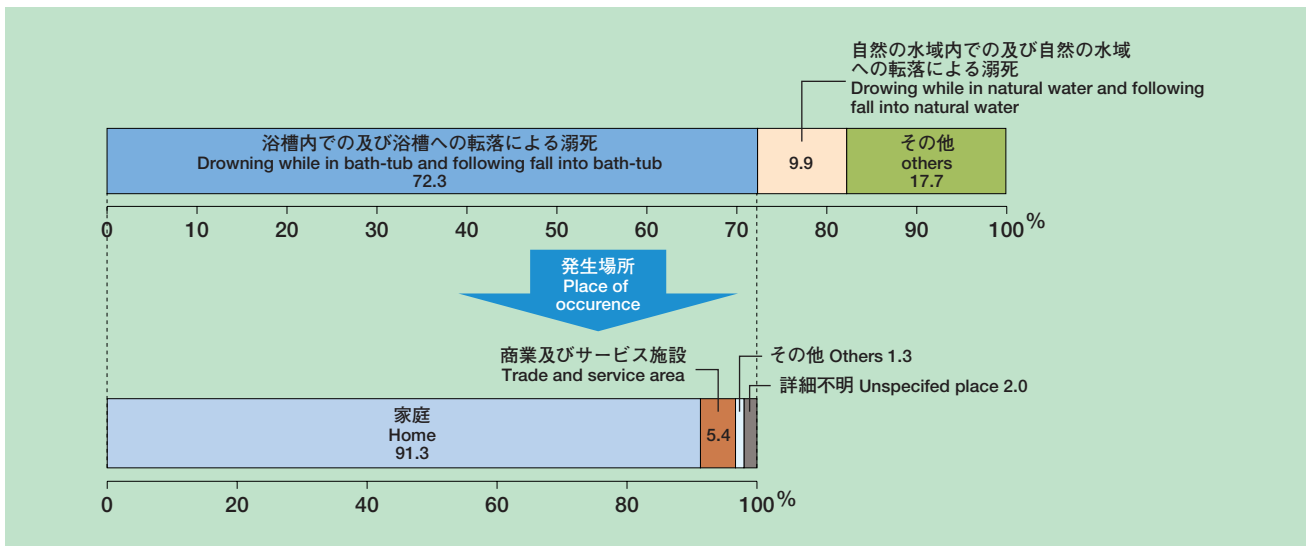
全年齢及び65歳以上の不慮の溺死による死亡数及び死亡率の年次推移—平成7～20年—
Trends in deaths and death rates from accidental drowning, 1995—2008

不慮の溺死の年齢階級別構成割合の年次比較 —平成7～20年—
Comparison of percent distribution of accidental drowning by age group, 1995—2008



65歳以上の不慮の溺死の種類及び発生場所別構成割合—平成20年—

Percent distribution of accidental drowning by external causes and place of occurrence by over 65 years old, 2008



平成20年の不慮の事故のうち溺死による死亡数は6464人、死亡率（人口10万対）は5.1となっており、年次推移をみると上昇と低下を繰り返しながら横ばいとなっている。いずれの年次も65歳以上で死亡数が多く、同様に死亡率も高くなっている。

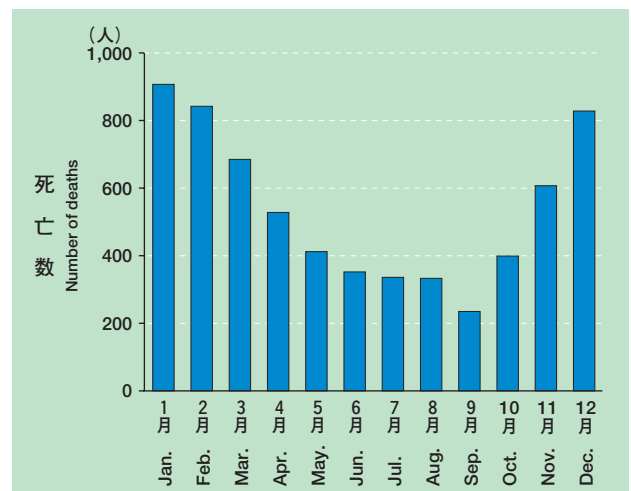
年齢階級別構成割合の年次比較をみると、全年齢に占める割合が人口の高齢化を背景として65～79歳、80歳以上で上昇している。

平成20年の65歳以上の不慮の溺死の種類別構成割合は「浴槽内での及び浴槽への転落による溺死」が72.3%であり、その発生場所でみると、家庭が91.3%を占めている。

平成20年の不慮の溺死を月別にみると1、2、12月が多くなっており、冬期に死亡数が増えている。

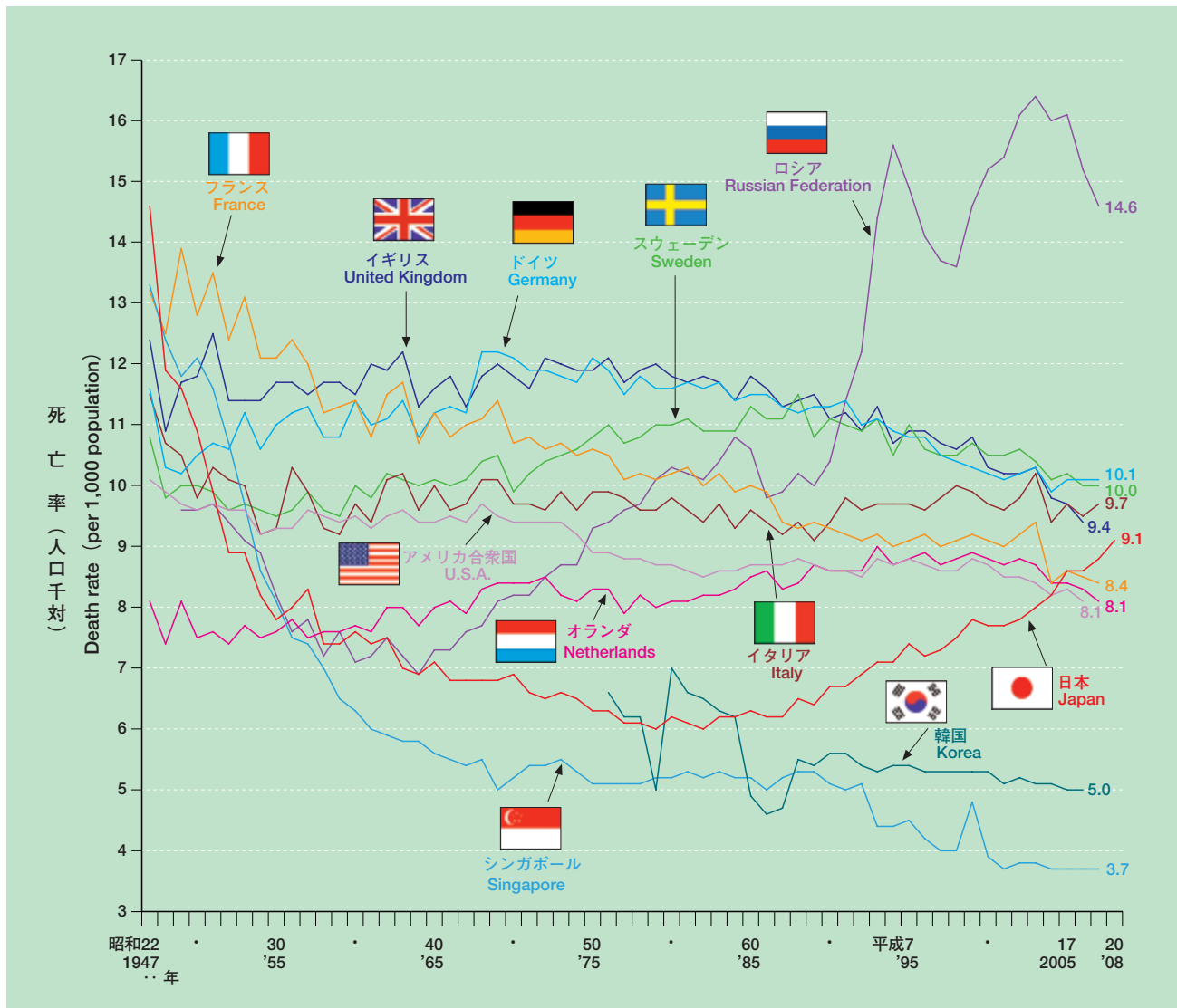
月別にみた不慮の溺死の死亡数—平成20年—

Deaths from accidental drowning by month, 2008



我が国の死亡率は、諸外国を上回る急速な高齢化を反映して上昇

死亡率の年次推移—諸外国との比較 1947～2008年
Death rates in selected countries, 1947—2008

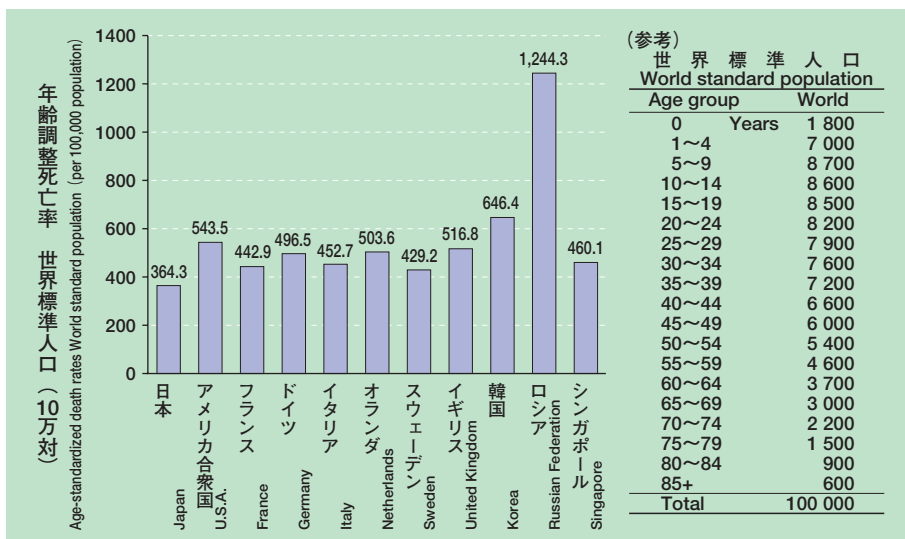


注：ドイツの1990年までは旧西ドイツの数値である。
ロシアの1990年までは旧ソビエト連邦の数値である。
資料：UN「Demographic Yearbook」

年齢調整死亡率の諸外国との比較 2002年
Age-standardized death rates selected countries, 2002

我が国の死亡率（人口千対）の年次推移を諸外国と比較すると、1947年の死亡率は諸外国と比べて高かったが、医学の進歩、公衆衛生の向上などによって急速に改善され、1965年以降は欧米諸国より低くなっていた。しかし、近年、我が国は諸外国を上回る急速な人口の高齢化を反映して上昇している。

世界標準人口で、諸外国の年齢構成の差を取り除いて比較するための年齢調整死亡率（人口10万対）でみると、我が国は低率国である。



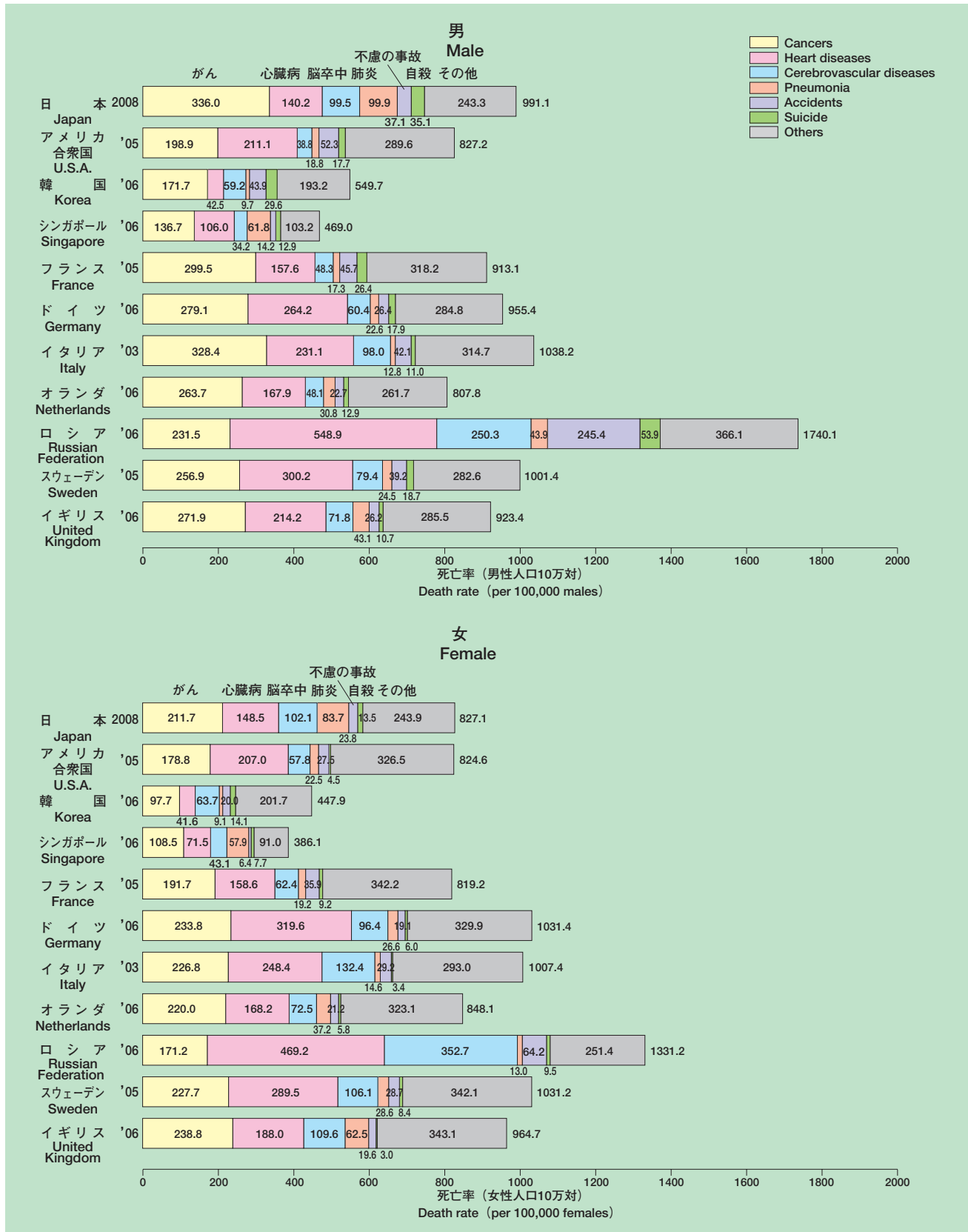
Age group	World
0 Years	1 800
1~4	7 000
5~9	8 700
10~14	8 600
15~19	8 500
20~24	8 200
25~29	7 900
30~34	7 600
35~39	7 200
40~44	6 600
45~49	6 000
50~54	5 400
55~59	4 600
60~64	3 700
65~69	3 000
70~74	2 200
75~79	1 500
80~84	900
85+	600
Total	100 000

注：標準人口はWHOが作成した世界標準人口による。
資料：WHO「MORTALITY AND HEALTH STATUS」

我が国は男女とも肺炎が、諸外国と比べて高い

性別にみた主な死因別死亡率の諸外国との比較

Death rates for leading causes of death by sex in selected countries



注：1) 心臓病及び不慮の事故は、我が国で使用している死因分類の範囲と一致しない。
2) 死因分類についてはICD-10による分類である。ただし、シンガポールはICD-9による分類である。
資料：WHO "Health statistics and health information systems [Mortality Database]"

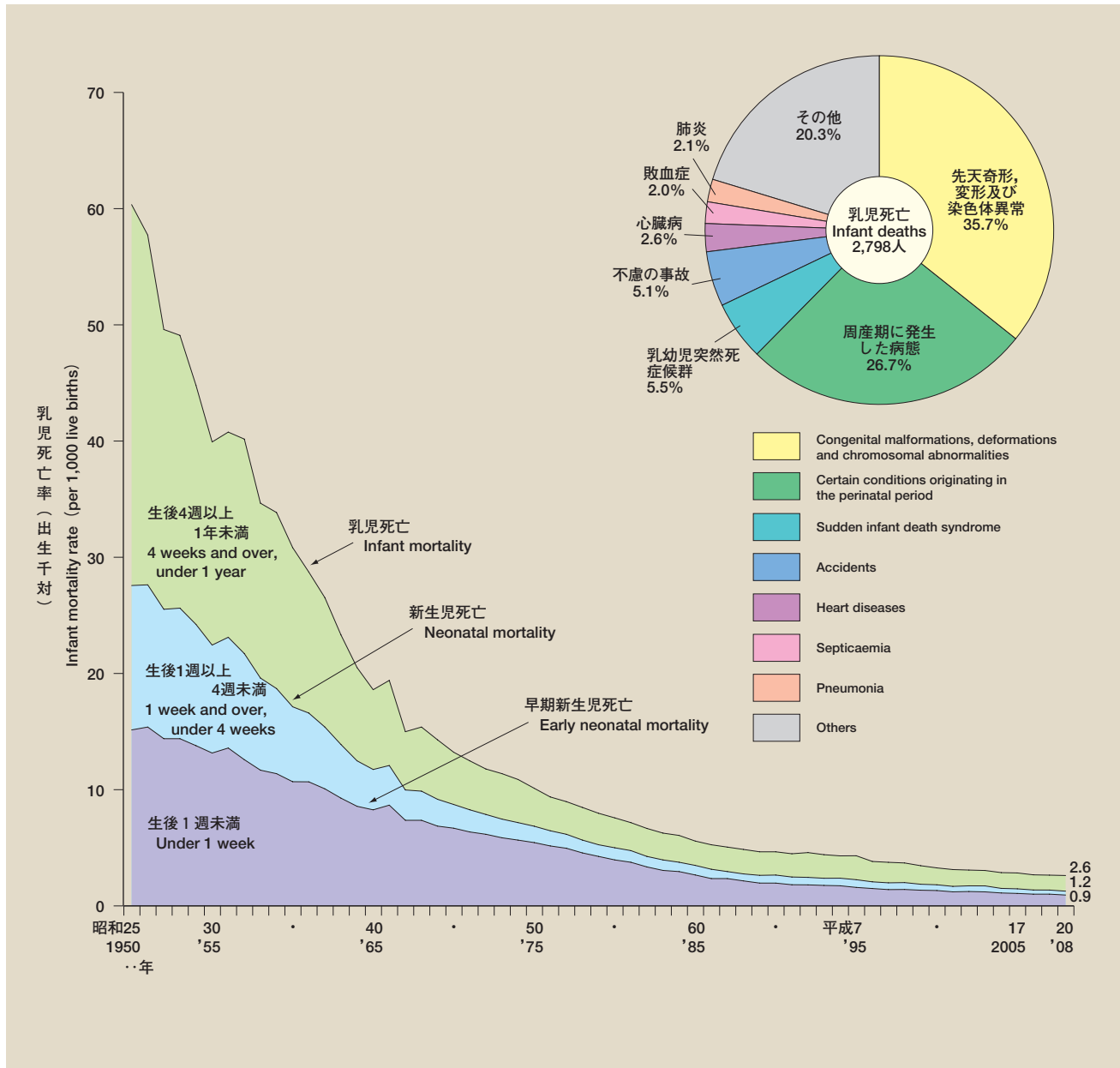
我が国の性別の死亡率（人口10万対）を諸外国と比較すると、男女ともおおむね欧米諸国より低くなっている。また、主な死因別では男女とも肺炎が、諸外国と比べて高くなっている。

乳児死亡の動き Infant mortality

乳児死亡率は低下傾向

生存期間別にみた乳児死亡率の年次推移—昭和25～平成20年—
Trends in infant mortality rates by age, 1950—2008

死因別乳児死亡数割合
—平成20年—
Percent distribution of infant deaths
by causes of death, 2008



乳児死亡とは、生後1年未満の死亡であり、このうち4週（28日）未満の死亡を新生児死亡、1週（7日）未満の死亡を早期新生児死亡という。

平成20年の乳児死亡数は2798人、乳児死亡率（出生千対）は2.6となっている。

生存期間別に乳児死亡率の年次推移をみると、昭和40年代半ばまでは生後1週以上4週未満及び4週以上1年未満の死亡は急速に低下したが、近年は緩やかな低下傾向となっている。

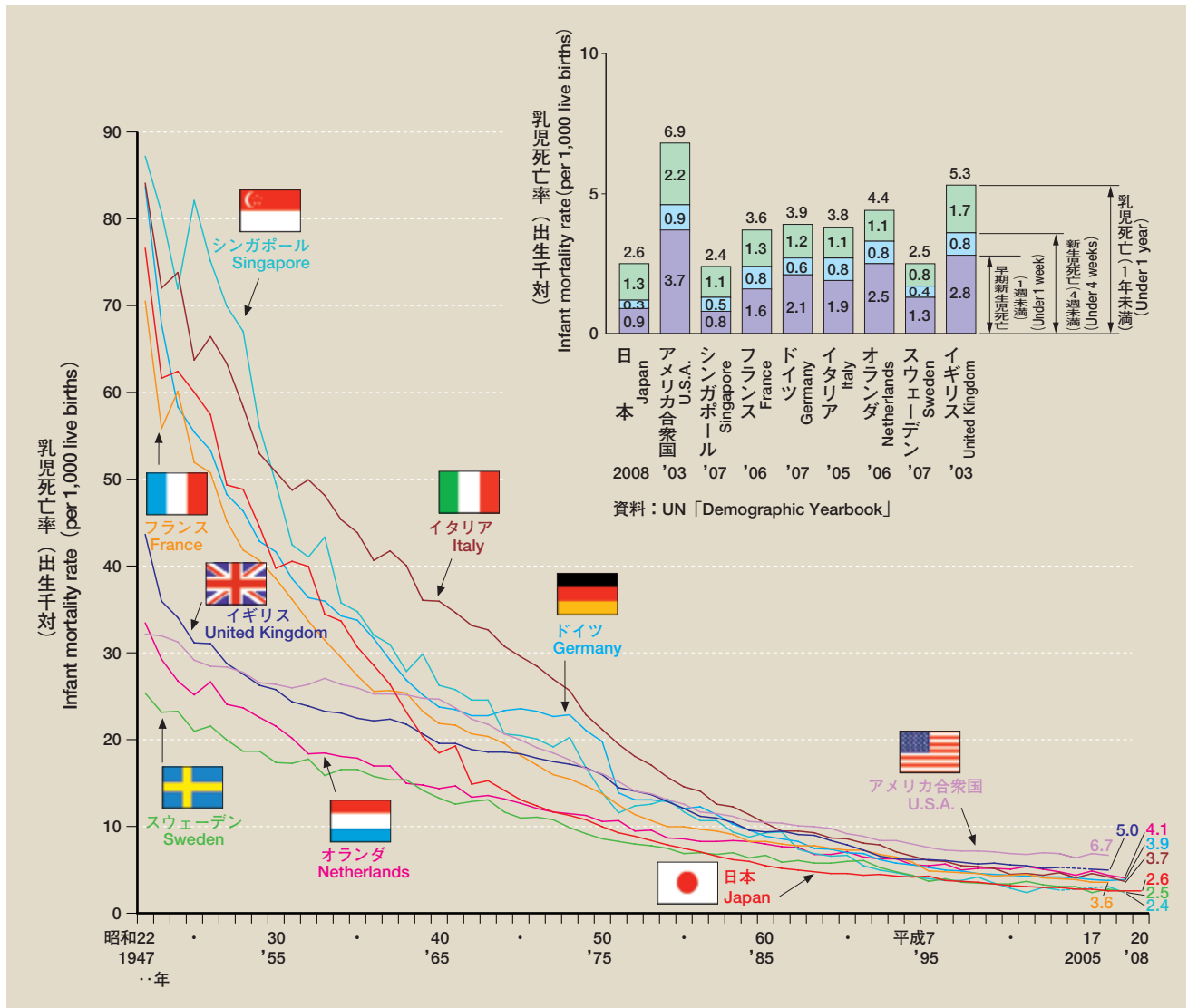
平成20年の死因別乳児死亡数割合は、「先天奇形,変形及び染色体異常」が最も多く35.7%で、次いで「周産期に発生した病態」が26.7%となっている。

我が国の乳児死亡率は低い

乳児死亡率の年次推移—諸外国との比較
1947～2008年

Infant mortality rates in selected countries,
1947—2008

生存期間別乳児死亡率の諸外国との比較
Infant mortality rates
by age in selected countries



注：ドイツの1990年までは旧西ドイツの数値である。

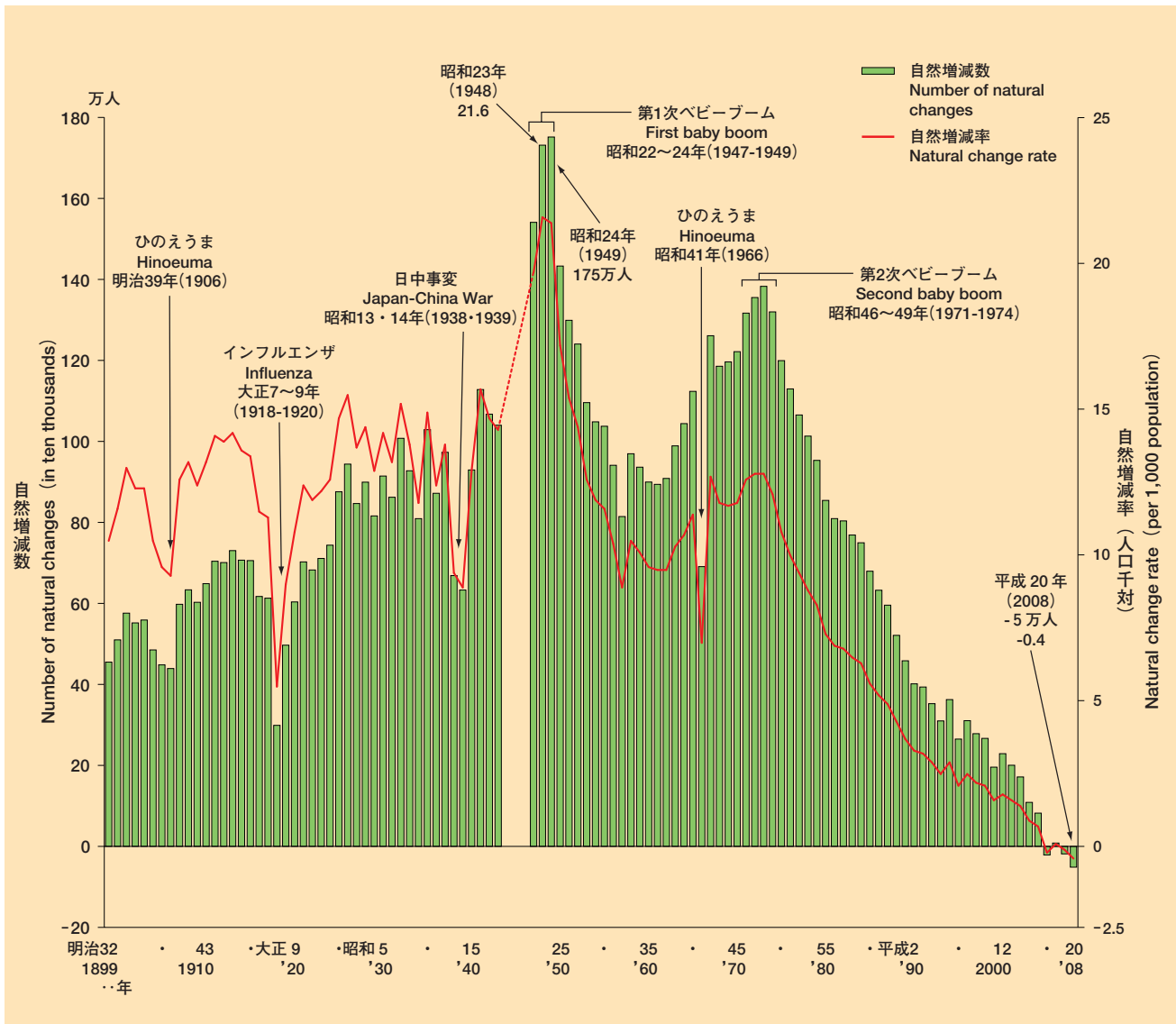
資料：UN「Demographic Yearbook」
WHO「World Health Statistics Annual」

我が国の乳児死亡率（出生千対）の年次推移を諸外国と比較したものである。
1947年から1960年代初めまでの乳児死亡率は諸外国と比べて高かったが、その後は低下し、現在は世界でも有数の低率国である。

自然増減の動き Natural change

自然増減数・自然増減率はともに前年を下回る

自然増減数及び自然増減率の年次推移—明治32～平成20年—
Trends in natural changes and natural change rates, 1899—2008



平成20年の自然増減数（出生数から死亡数を減じたもの）は△5万1251人で、前年の△1万8516人より3万2735人減少し、自然増減率（人口千対）は△0.4で前年の△0.1を下回った。

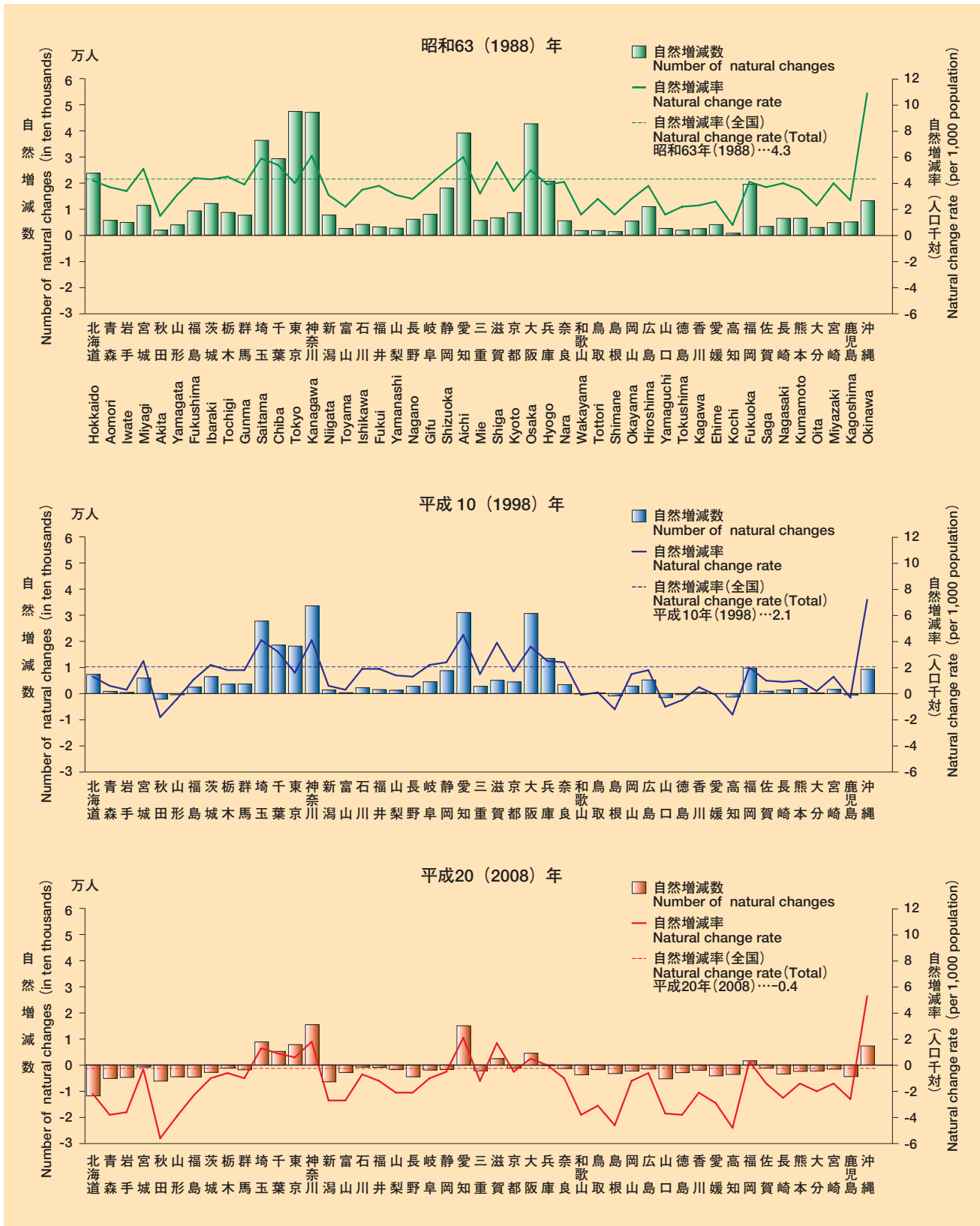
自然増減数の年次推移をみると、第2次世界大戦前は増加傾向であったが、戦後は第1次ベビーブーム期の昭和24年の175万人をピークに減少した。その後、昭和37年に再び増加に転じ、昭和46年から49年の第2次ベビーブーム期には130万人を超えていたが、50年以降は、出生数の減少により自然増減数も減少し、平成元年に50万人を割った。

平成2年からは出生数は横ばいであったが、人口の高齢化による死亡数の増加により減少し、11年には20万人を割った。平成12年には増加したものの、13年以降は出生数の減少と死亡数の増加の双方により減少し、16年には10万人を割り、17年には統計の得られていない昭和19年から21年を除き、現在の形式で統計をとり始めた明治32年以降初めて出生数が死亡数を下回りマイナスとなった。平成18年はプラスとなったものの、19年からは再びマイナスとなっている。

出生数が死亡数を下回った県は38道府県

都道府県別にみた自然増減数及び自然増減率の年次比較一昭和63・平成10・20年一

Comparison of natural changes and natural change rates by prefecture, 1988・1998・2008



自然増減数を都道府県別に昭和63年、平成10年、20年を比較してみると、出生数が死亡数を下回った県は昭和63年はなかったが、平成10年は9県、20年は38道府県となっている。

自然増減率（人口千対）をみると、最も高い県は各年次ともに沖縄県であり、昭和63年10.9、平成10年7.2、20年5.3となっている。最も低い県は昭和63年が高知県で0.8、平成10年、20年はともに秋田県でそれぞれ△1.8、△5.6となっている。

死産の動き Foetal mortality

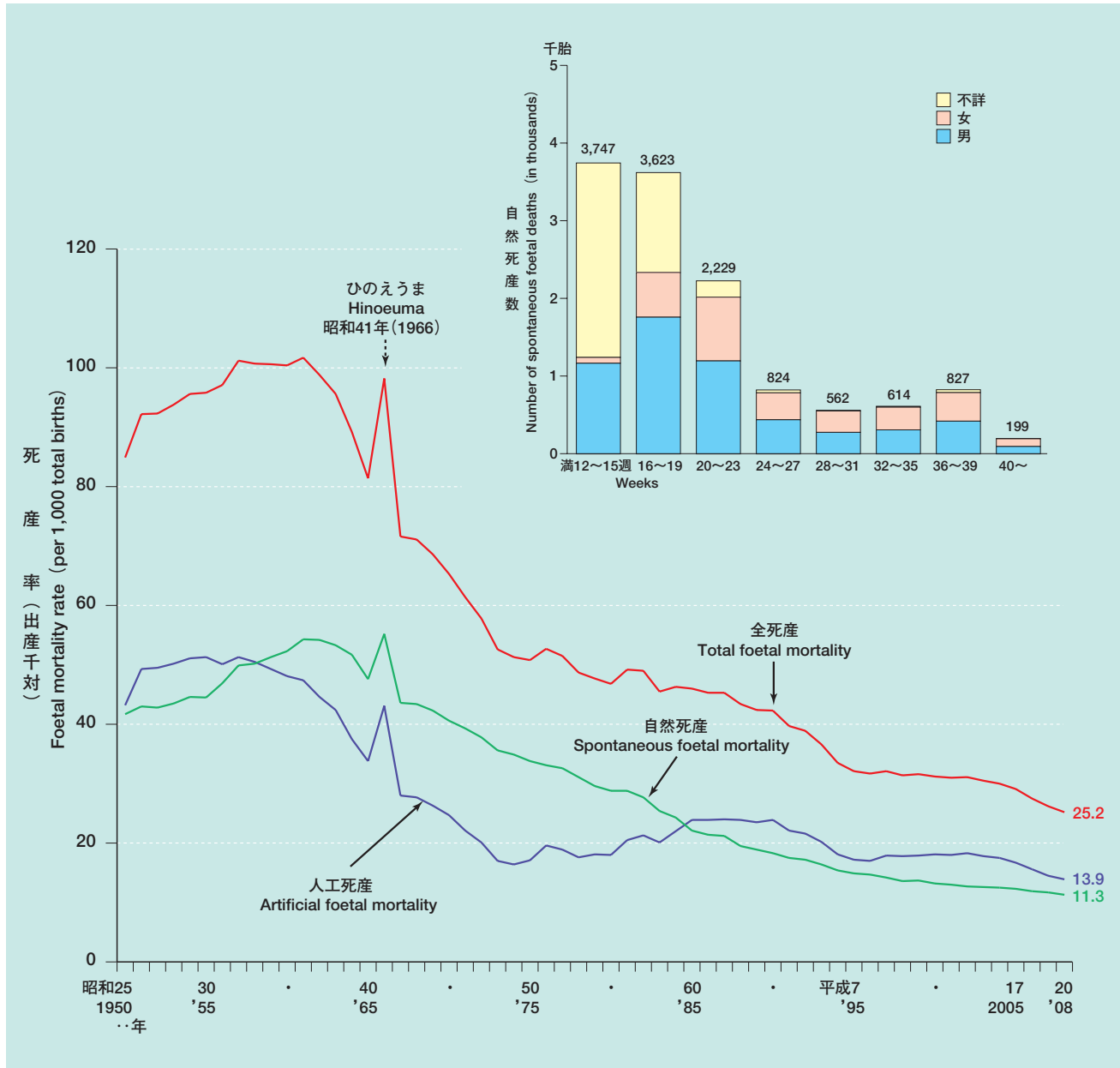
死産率は低下傾向

自然・人工別にみた死産率の年次推移
—昭和25～平成20年—

Trends in foetal mortality rates by type of extraction, 1950—2008

妊娠期間（4週区分）別にみた性別自然死産数
—平成20年—

Spontaneous foetal deaths
by period of gestation, and sex, 2008



死産とは、妊娠満12週以後の死児の出産をいい、死産率は出産（出生数と死産数の合計）千対の率である。平成20年の死産数は2万8千177胎、死産率は25.2となっている。

死産率の年次推移をみると、全死産は昭和25年から上昇傾向となり、36年にピークの101.7となった。その後は昭和41年の「ひのえうま」の影響を除き低下傾向となり、平成7年からは横ばいで推移していたが、15年以降低下している。

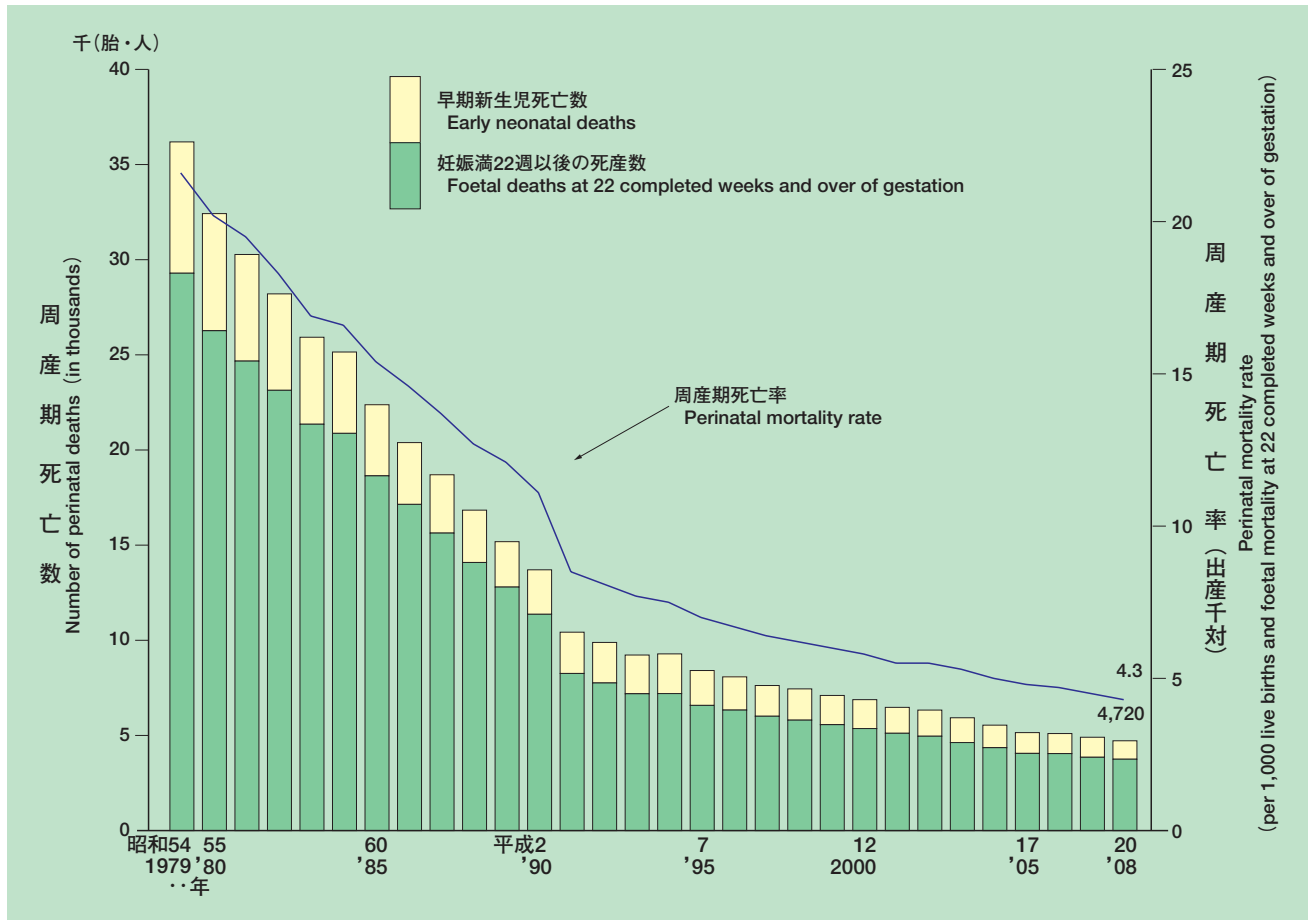
自然死産・人工死産別にみると自然死産率は昭和30年代後半から低下傾向にある。人工死産率は昭和30年代半ばから低下していたが、50年からは上昇傾向に転じ、60年には自然死産率を上回った。昭和63年からは再び低下傾向に転じ、平成6年から14年まではおおむね横ばいとなったが、15年からは自然死産率の低下と比較すると大きく低下している。

平成20年の自然死産数を妊娠期間（4週区分）別にみると、満23週以前の各期間の死産数が多くなっている。

周産期死亡の動き Perinatal mortality

周産期死亡率は低下傾向

周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移—昭和54～平成20年—
Trends in perinatal deaths and perinatal mortality rates, 1979—2008



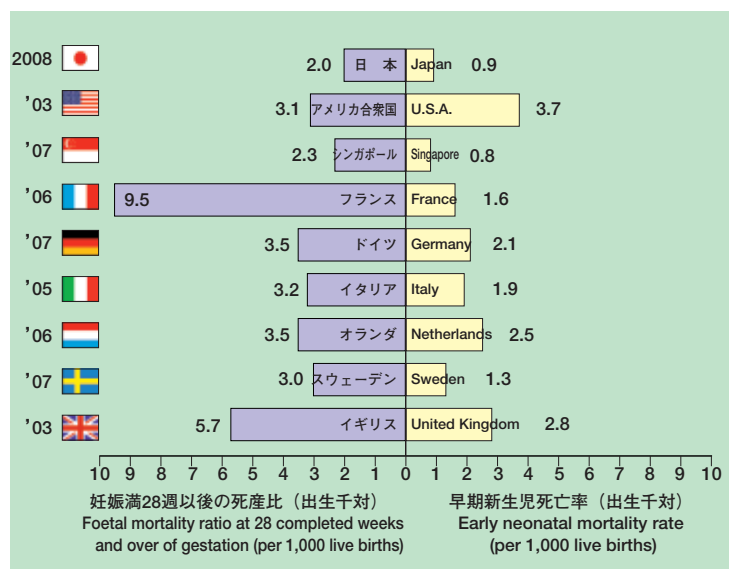
周産期死亡率の諸外国との比較
Perinatal mortality rates in selected countries

周産期死亡とは、妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたものをいい、周産期死亡率は、出産（出生数と妊娠満22週以後の死産数の合計）千対の率である。

平成20年の周産期死亡数は4720で、妊娠満22週以後の死産数が3751胎、早期新生児死亡数が969人となっており、周産期死亡率は4.3で、数、率ともに減少している。

我が国の周産期死亡率を諸外国と比較してみると、妊娠満28週以後の死産比、早期新生児死亡率ともに低くなっている。

なお、諸外国との比較では妊娠満28週以後の死産数の出生千対の比を用いた。



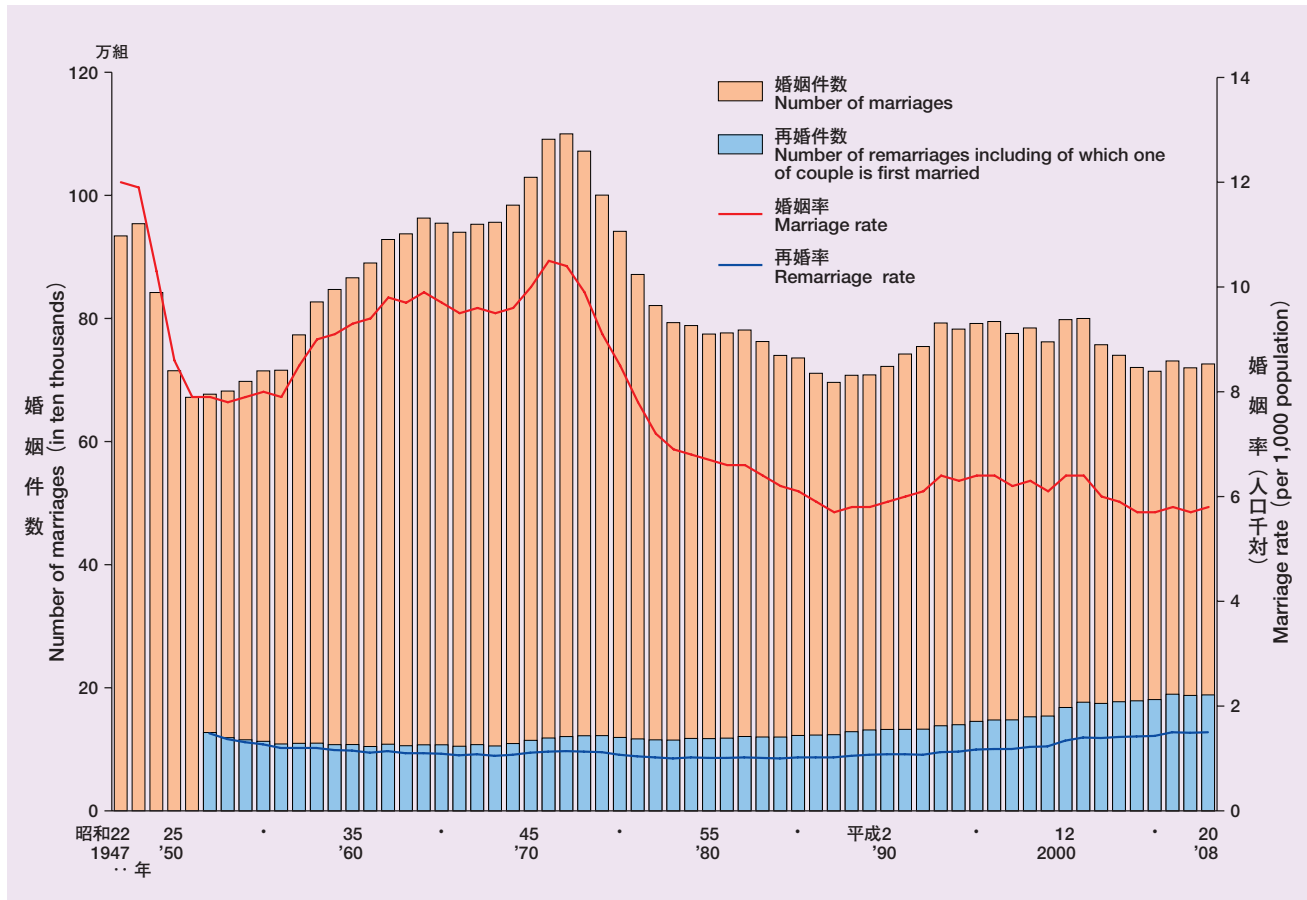
注：諸外国は、妊娠期間不詳の死産を含む。
但しフランスについては、180日以降の死産である。
資料：UN「Demographic Yearbook」

婚姻の動き Marriages

婚姻件数は増加

婚姻件数及び婚姻率の年次推移—昭和22～平成20年—

Trends in marriages and marriage rates, 1947—2008



平成20年の婚姻件数は72万6106組で、前年より6284組増加した。

婚姻件数の年次推移をみると、終戦直後の昭和22、23年の第1次婚姻ブームの後に急激に減少したが、20年代後半以降は増加傾向となり、45年には第2次婚姻ブームを迎え、47年には110万組となった。昭和48年から減少傾向の後、63年から増加に転じた。平成6年以降は増減を繰り返してい

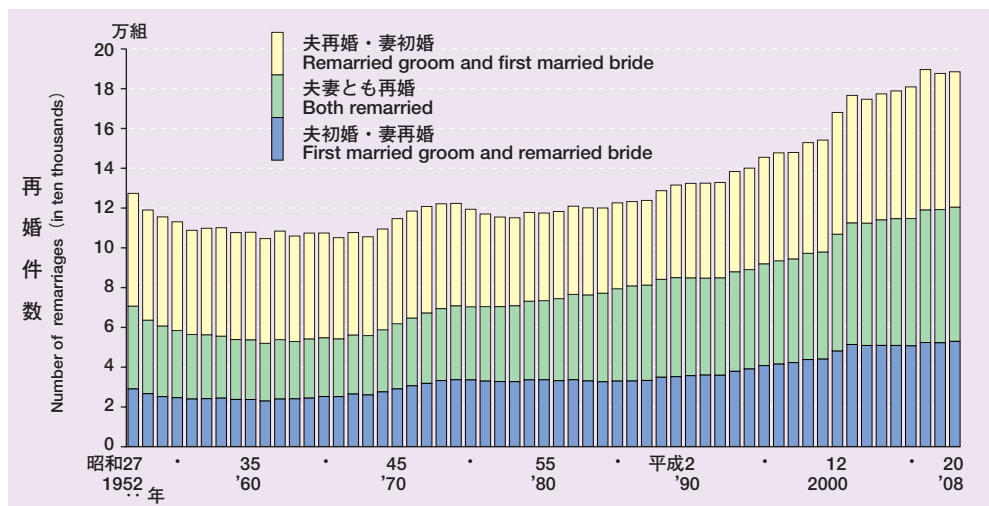
たが、平成14年からは減少し、18年は5年ぶりに増加、19年は再び減少したが、20年は増加した。

また、初婚—再婚別にみると、平成20年は「夫妻とも初婚」は53万7748組（全婚姻件数の74.1%）で、「夫妻とも再婚又はどちらか一方が再婚」は18万8358組（同25.9%）となっている。

「夫妻とも再婚又はどちらか一方が再婚」を組み合わせ別にみると「夫再婚—妻初婚」は6万8120組、「夫妻とも再婚」は6万7413組、「夫初婚—妻再婚」は5万2825組となっている。

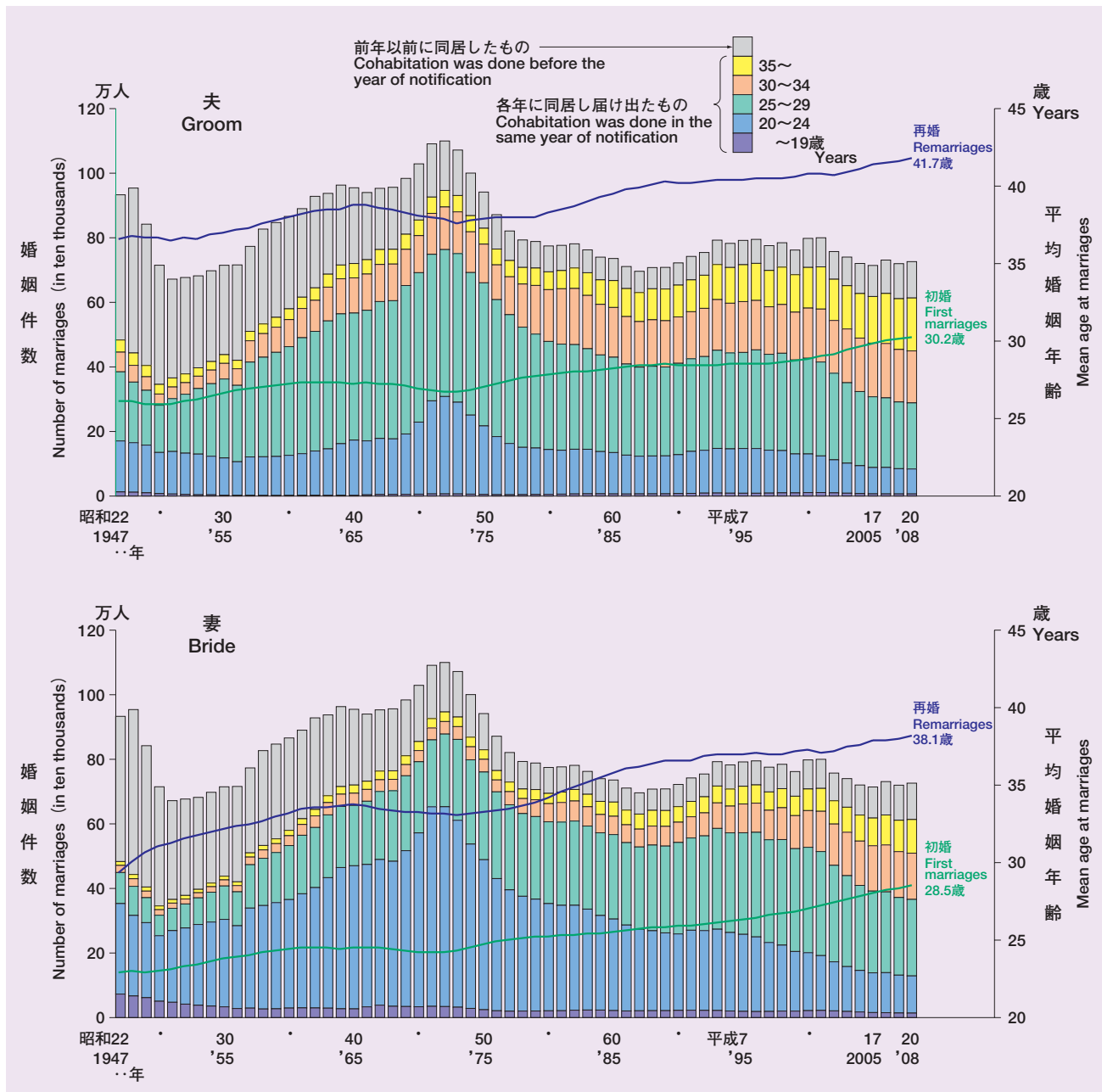
夫妻とも再婚又はどちらか一方が再婚の婚姻件数の年次推移—昭和27～平成20年—

Trends in remarriages including of which one of couple is first married, 1952—2008



夫・妻ともに進む晩婚化

夫・妻の年齢階級別にみた婚姻件数及び平均婚姻年齢の年次推移—昭和22～平成20年—
Trends in marriages by age of bride and groom at marriage, and mean age, 1947—2008



注：昭和42年までは結婚式をあげたときの年齢、43年以降は結婚式をあげたときと同居を始めたときのうち早いほうの年齢である。

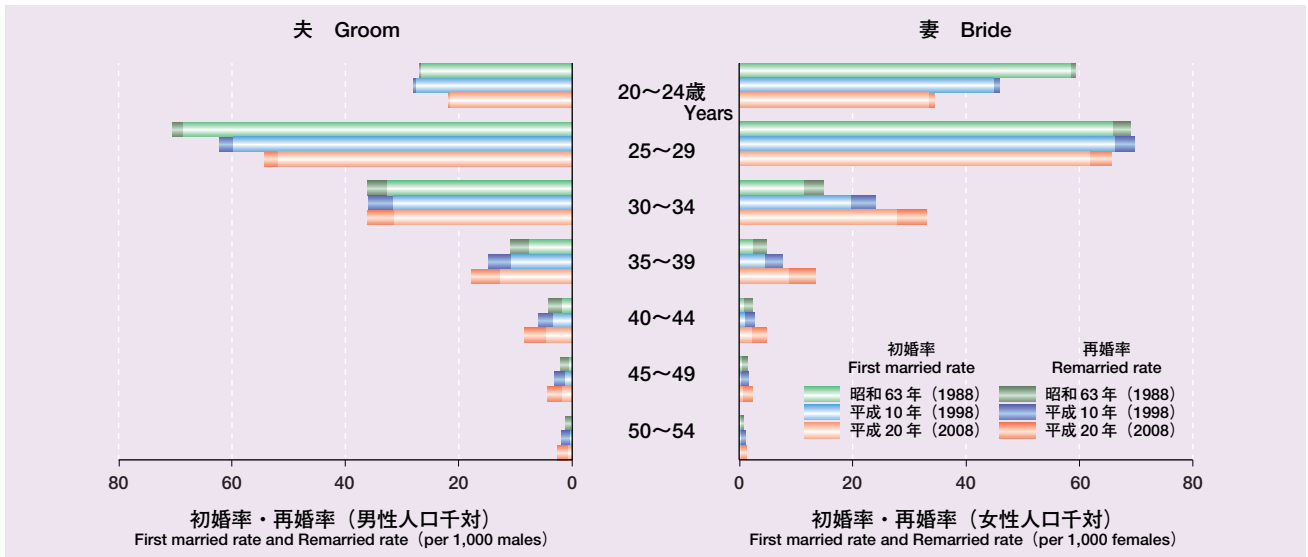
各年に同居し届け出たものについて、年齢階級別に年次推移をみると、夫・妻とも昭和20年代後半から47年までの約20年間では20歳代の増加が著しい。その後、夫の20歳代、妻の20～24歳は減少傾向に転じたが、夫・妻とも30～34歳、35歳以上は増加傾向にある。平成20年では夫・妻とも、25～29歳が20万4691人、23万7057人と最も多く、次いで夫は35歳以上の16万3885人、30～34歳の16万998人、妻は30～34歳の14万3132人で、20～24歳の11万5094人となっている。

夫・妻の平均初婚年齢の年次推移をみると、昭和22年では夫26.1歳、妻22.9歳であり、その後、昭和20年代半ばから30年代半ばにかけて上昇した。第2次結婚ブーム期の昭和47年前後に低下したが、その後再び上昇し続け、平成20年には夫30.2歳、妻28.5歳となった。平成20年は昭和22年に比べ夫は4.1歳、妻は5.6歳高くなっており、夫・妻とも晩婚化が進んでいる。また、平均再婚年齢をみると、昭和22年では夫36.5歳、妻29.3歳であったが、平成20年には夫41.7歳、妻38.1歳となり、年々上昇傾向にある。

*平成20年に届け出られた婚姻件数は72万6106組で、そのうち、20年に同居した婚姻は61万3487組、前年以前に同居した婚姻は11万2619組である。

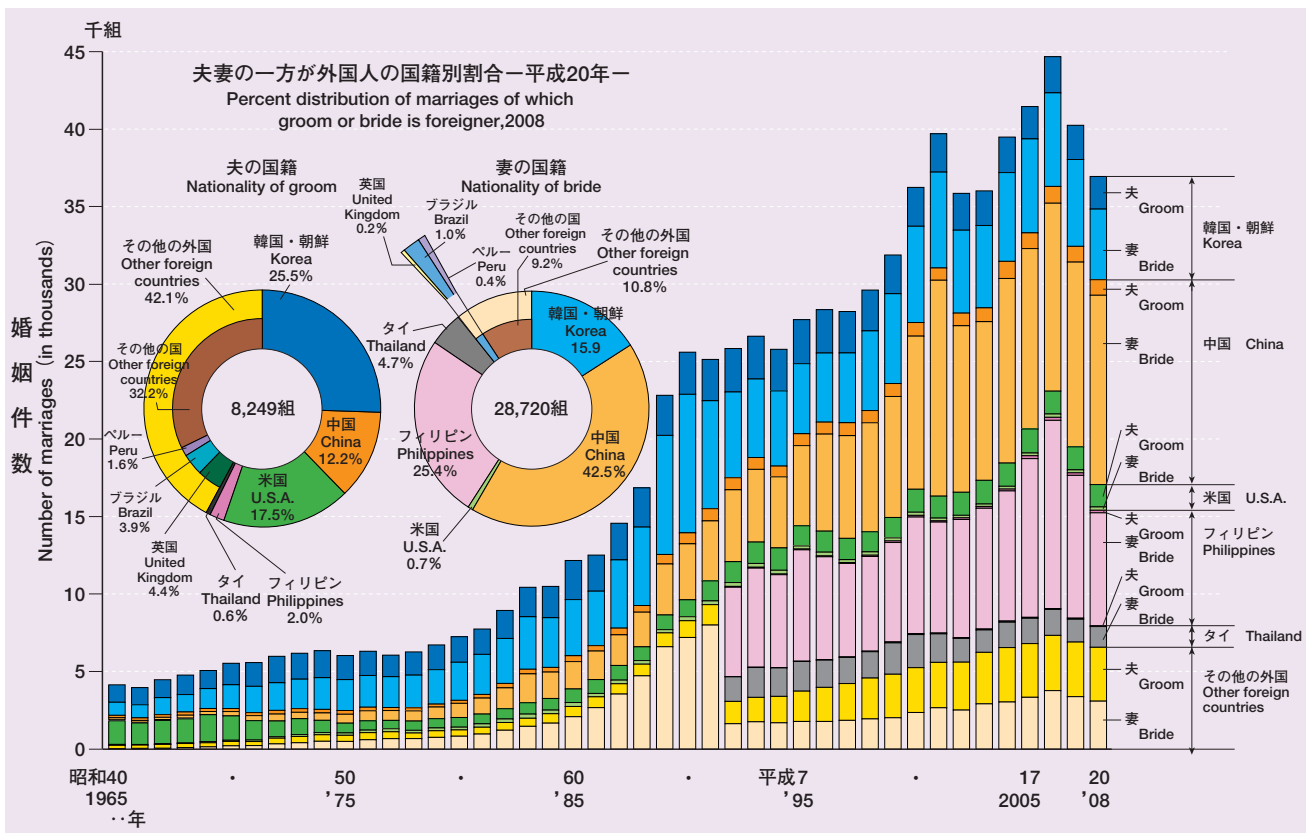
妻の20～24歳の初婚率は大きく低下する一方30歳以上は上昇

結婚生活に入ったときの年齢階級別にみた初婚率・再婚率(人口千対)の年次比較—昭和63・平成10・20年—
Comparison of first married rates and remarried rates (per 1,000 population) by age, 1988・1998・2008



注：各年に同居し届け出たものについての集計である。

夫妻の一方が外国人の国籍別婚姻件数の年次推移—昭和40～平成20年—
Trends in marriages of which groom or bride is foreigner, 1965—2008



注：フィリピン、タイは、平成4年から調査しており、3年までは「その他の外国」に含まれる。

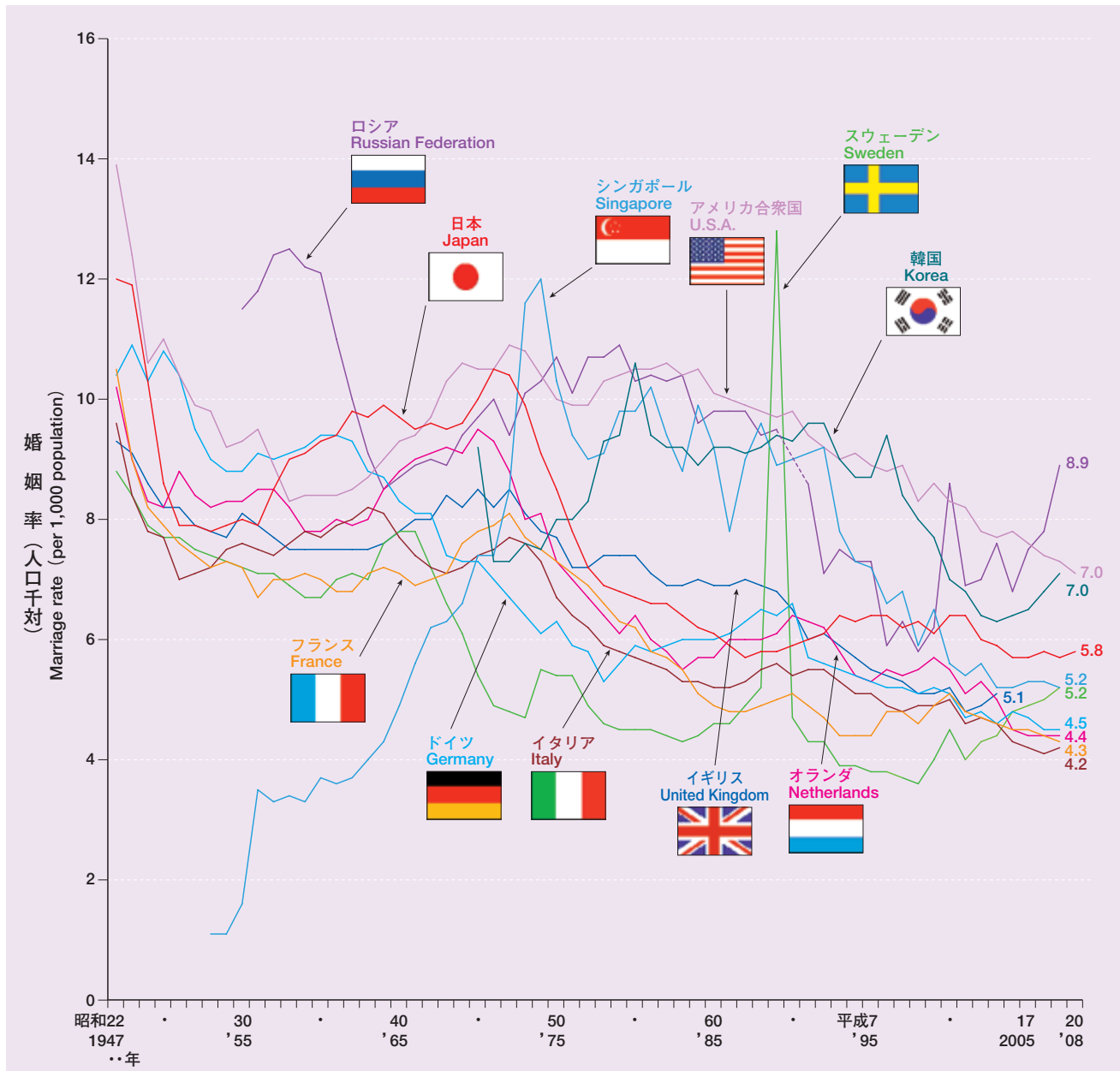
結婚生活に入ったときの年齢階級別にみた初婚率(人口千対)について、平成20年を昭和63年、平成10年と比較すると、夫の20歳代は低下し、35～39歳以上の各階級ではいずれも上昇している。妻は20～24歳は大きく低下し、30歳代、40歳代の階級では上昇している。また、再婚率(人口千対)は、夫・妻ともにすべての階級で上昇している。

夫妻の一方が外国人の婚姻件数の年次推移をみると、平成20年は3万6969組で、前年より3303組減少しているものの、昭和40年の4156組と比較すると約9倍になっている。また、妻が外国人の婚姻件数が78%を占めており、これを妻の国籍別にみると昭和40年以降は韓国・朝鮮が最も多かったが、近年は中国とフィリピンで大きく上昇している。夫・妻別に国籍の構成割合をみると、平成20年は夫韓国・朝鮮、妻中国が最も多くなっている。

我が国の婚姻率は、近年、ヨーロッパ諸国と比べて高い

婚姻率の年次推移—諸外国との比較 1947～2008年

Marriage rates in selected countries, 1947—2008



注：点線は数値なし。
イギリスの1970年まではイングランド・ウェールズの数値である。
ドイツの1990年までは旧西ドイツの数値である。
ロシアの1990年までは旧ソビエト連邦の数値である。
以下は暫定値である。
アメリカ合衆国1993～1996年、2008年
韓国2007年
イタリア2007年

資料：UN「Demographic Yearbook」
Council of Europe「Recent demographic developments in Europe」
U.S.Department of Health and Human Service
「National Vital Statistics Reports」
European Union「Eurostat Yearbook」
韓国統計庁資料

我が国と諸外国の婚姻率（人口千対）を比較したものである。

我が国は、1957年から上昇傾向にあったが1971年をピークに急激に低下し、近年は上昇から横ばい傾向となっている。2008年は前年より増加し、ヨーロッパ諸国に比べ高くなっている。ただし、ヨーロッパ諸国では出生に占める嫡出でない子の割合が多いことから、婚姻率を比較する場合に注意が必要である（＜参考＞参照）。

* スウェーデンの1989年の大きな突出は、年金制度の改正により駆け込みの婚姻が急増したためといわれている。

＜参考＞Reference

出生に占める嫡出でない子の出生割合の国際比較—最新年次—

Proportion of illegitimate births in total live births in selected countries, latest year

国及び地域名 Country or region	年次 Year	割合 (%) Percentage
日本 Japan	2008	2.1
香港 HongKong	1997	5.6
フランス France	2007	51.7
ドイツ Germany	2007	30.8
イタリア Italy	2007	20.7
スウェーデン Sweden	2007	54.8
イギリス United Kingdom	2006	43.7
アメリカ U.S.A.	2007	39.7

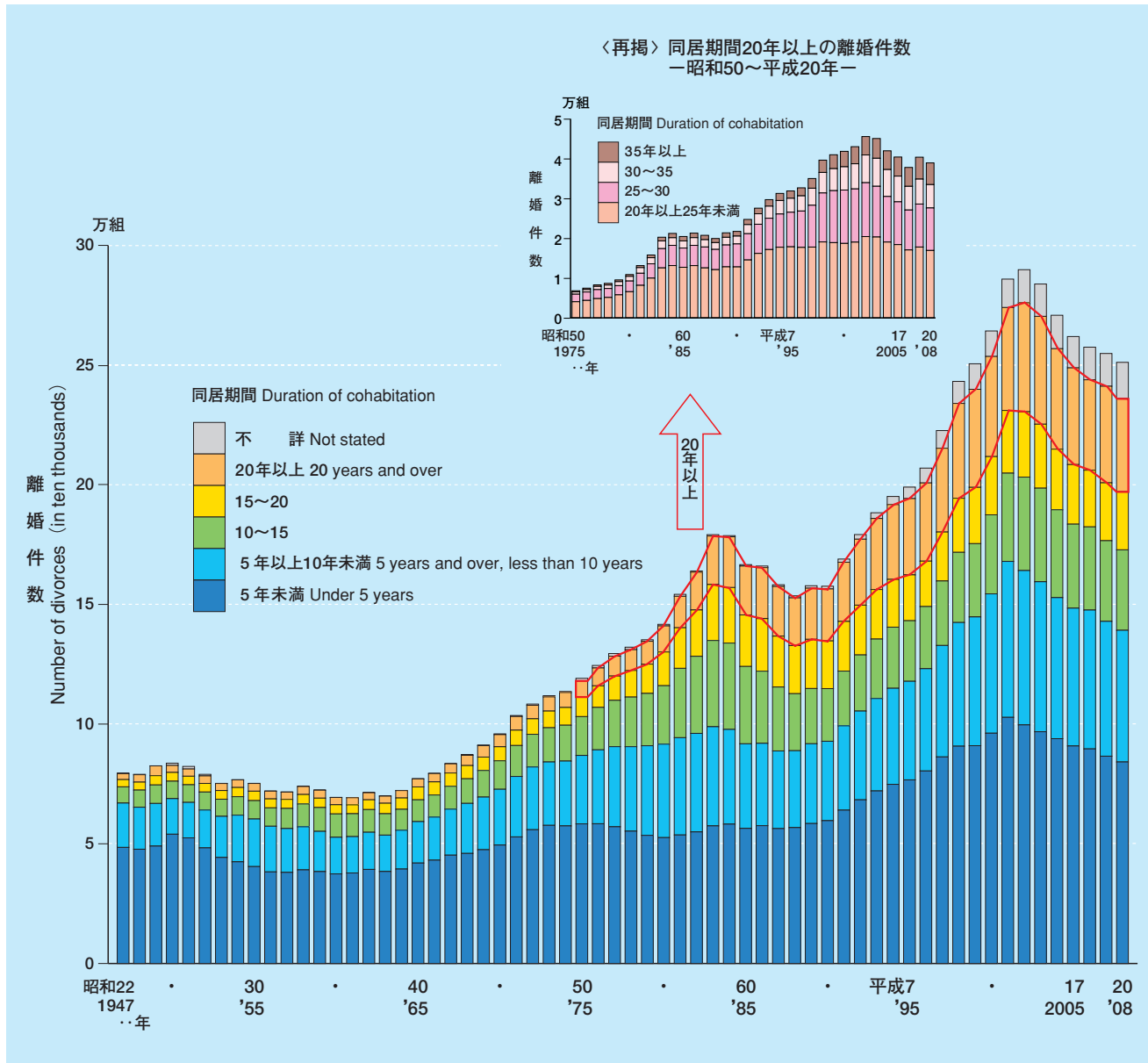
注：アメリカは暫定値である。

資料：UN「Demographic Yearbook」
Eurostat Vital Statistics
U.S. Department of Health and Human Service「National Vital Statistics Reports」

離婚の動き Divorces

離婚件数は減少

同居期間別にみた離婚件数の年次推移—昭和22～平成20年—
Trends in divorces by duration of cohabitation, 1947-2008



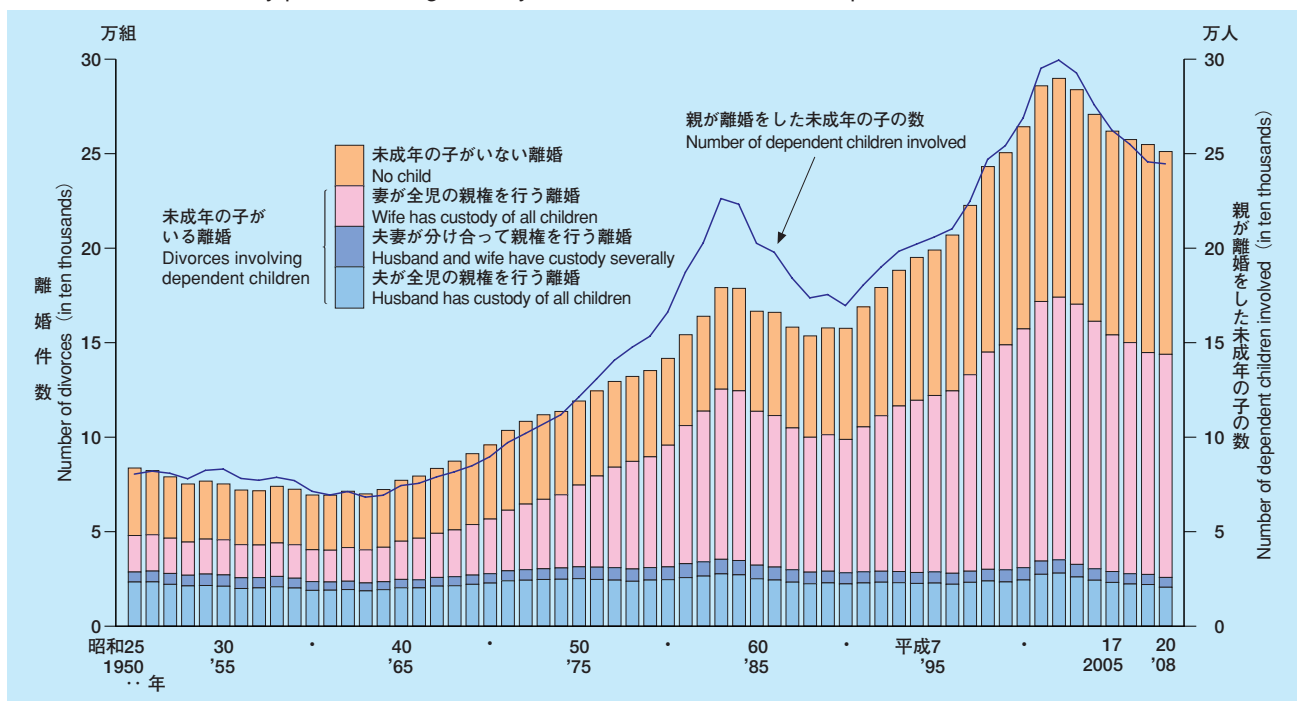
平成20年の離婚件数は25万1136組で前年より3696組減少した。

離婚件数の年次推移をみると、戦後最も少なかった昭和36年以降長期にわたって増加が続いたものの、59年に減少傾向に転じた。平成3年以降は再び増加が続き、14年には統計の得られていない昭和19年から21年を除き、現在の形式で統計をとり始めた明治32年以降最高となったが、平成15年以降減少している。

同居期間別離婚件数の年次推移をみると、近年すべての期間で増加傾向にあったが、平成14年に5年未満と5年以上10年未満で減少に転じ、その後はすべての期間で減少傾向となっている。また、同居期間20年以上を5年階級別にみると、30年以上35年未満と35年以上の増加の割合が高くなっている。

未成年の子のいる離婚件数は14万組

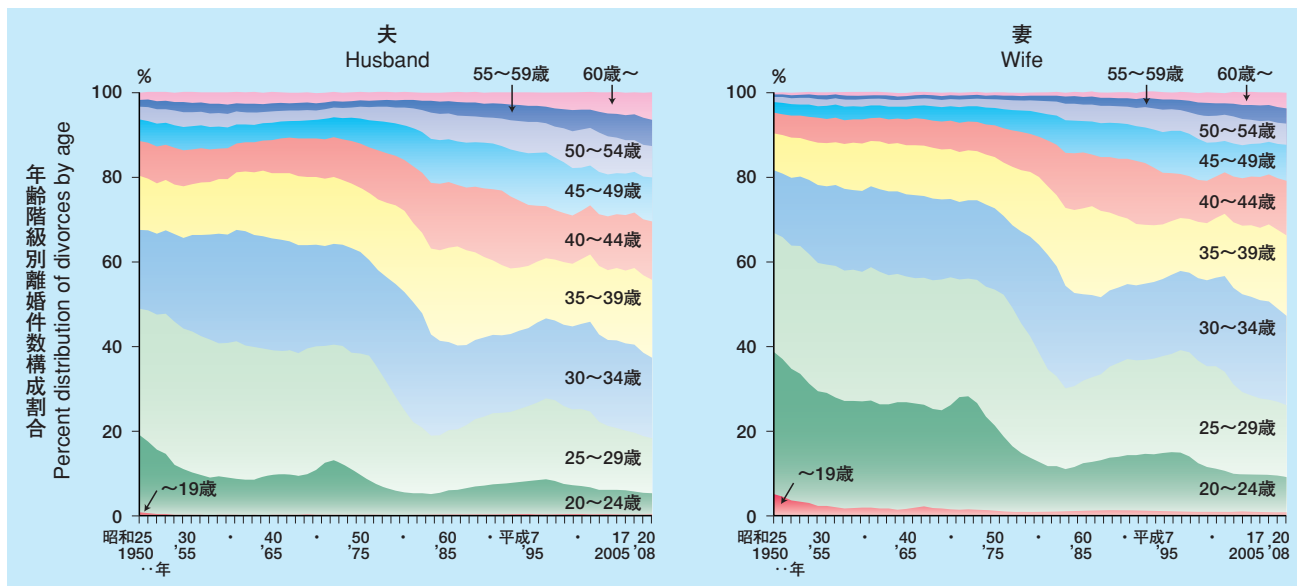
親権を行う者別にみた離婚件数及び親が離婚をした未成年の子の数の年次推移—昭和25～平成20年—
Trends in divorces by person having custody of children, and number of dependent children involved, 1950—2008



注：未成年の子とは、20歳未満の未婚の子をいう。

親権とは、未成年の子に対して有する身分上、財産上の監督、保護を内容とする権利、義務をいう。

夫・妻の年齢階級別にみた離婚件数構成割合の年次推移—昭和25～平成20年—
Trends in percent distribution of divorces by age of husband and wife, 1950—2008



注：各年に別居し届け出たものについての集計である。

同居をやめたときの年齢である。

平成20年の離婚件数25万1136組のうち、未成年の子がいる離婚は14万3834組（全体の57.3%）、未成年の子がいない離婚は10万7302組（同42.7%）となっている。

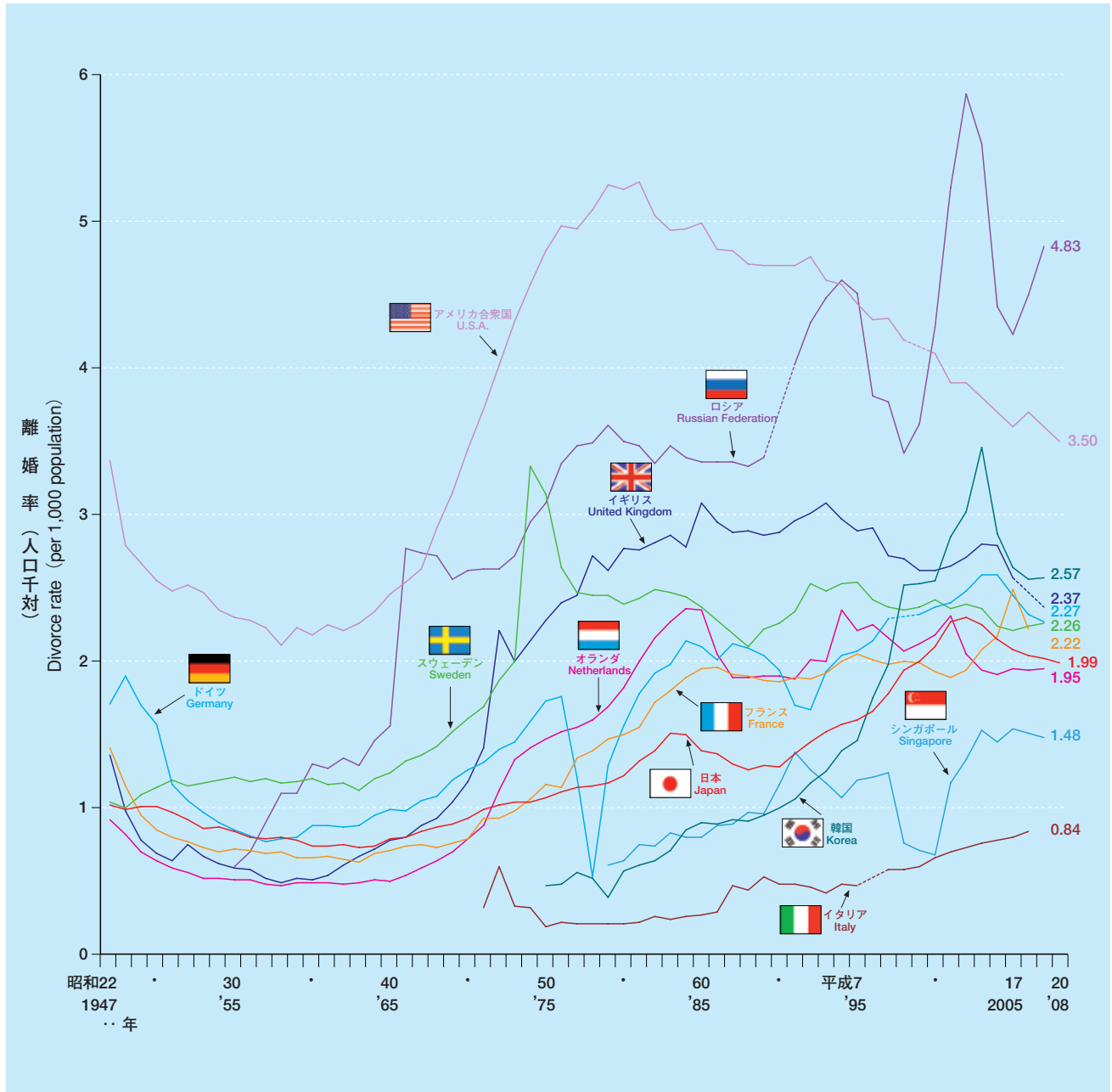
また、親権を行う者別に離婚件数の年次推移をみると、平成20年は「夫が全児の親権を行う」は2万595組（未成年の子のいる離婚件数に占める割合は14.3%）、「夫妻が分け合って親権を行う」は5202組（同3.6%）で昭和25年以降横ばいとなっている。「妻が全児の親権を行う」は11万8037組（同82.1%）で、その割合は昭和40年代以降上昇傾向にある。

離婚件数の年齢階級別構成割合の年次推移をみると、29歳以下は戦後まもなく夫は約50%、妻は約65%であったが、昭和50年代に急激に割合が低下し、平成20年は夫・妻ともに戦後の割合の2分の1以下となっている。30歳代は戦後から昭和50年代半ばにかけて上昇し、その後は低下傾向となっていたが近年は上昇傾向にあり、平成20年は40%前後となっている。40歳代は近年は20%前後で横ばいとなっている。50歳以上は昭和50年代以降は夫・妻とも上昇傾向にあり、平成20年は夫20.1%、妻12.3%となっている。

我が国の離婚率は欧米諸国に近づいている

離婚率の年次推移—諸外国との比較 1947～2008年

Divorce rates in selected countries, 1947—2008



注：点線は数値なし。
 イギリスの1970年まではイングランド・ウェールズの数値である。
 ドイツの1990年までは旧西ドイツの数値である。
 ロシアの1990年までは旧ソビエト連邦の数値である。
 以下は暫定値である。
 アメリカ合衆国2008年

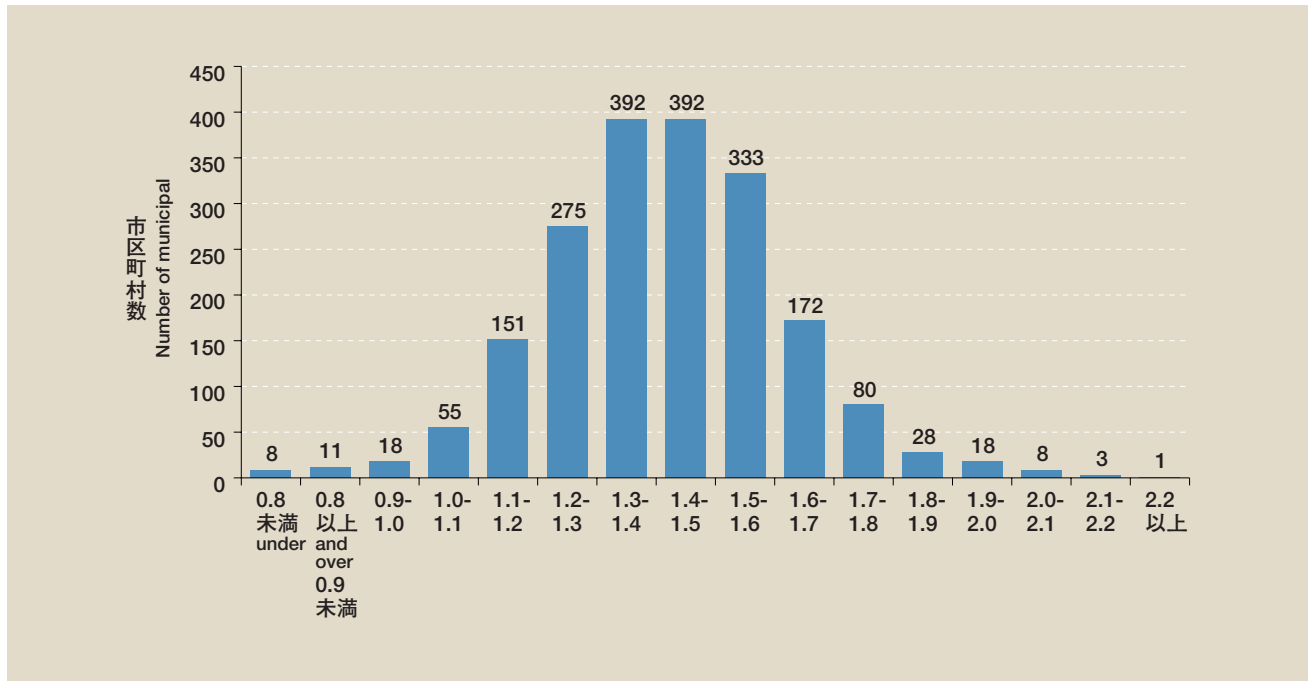
資料：UN「Demographic Yearbook」
 U.S. Department of Health and Human Services「National Vital Statistics Reports」

我が国と諸外国の離婚率（人口千対）を比較したものである。
 我が国は、1980年代までは低率であったが、1991年以降急上昇し、欧米諸国に近づいていたものの、2008年は前年に引き続き低下している。

「平成15年～平成19年人口動態保健所・市区町村別統計」から Vital statistics by health center and municipal, 2003～2007

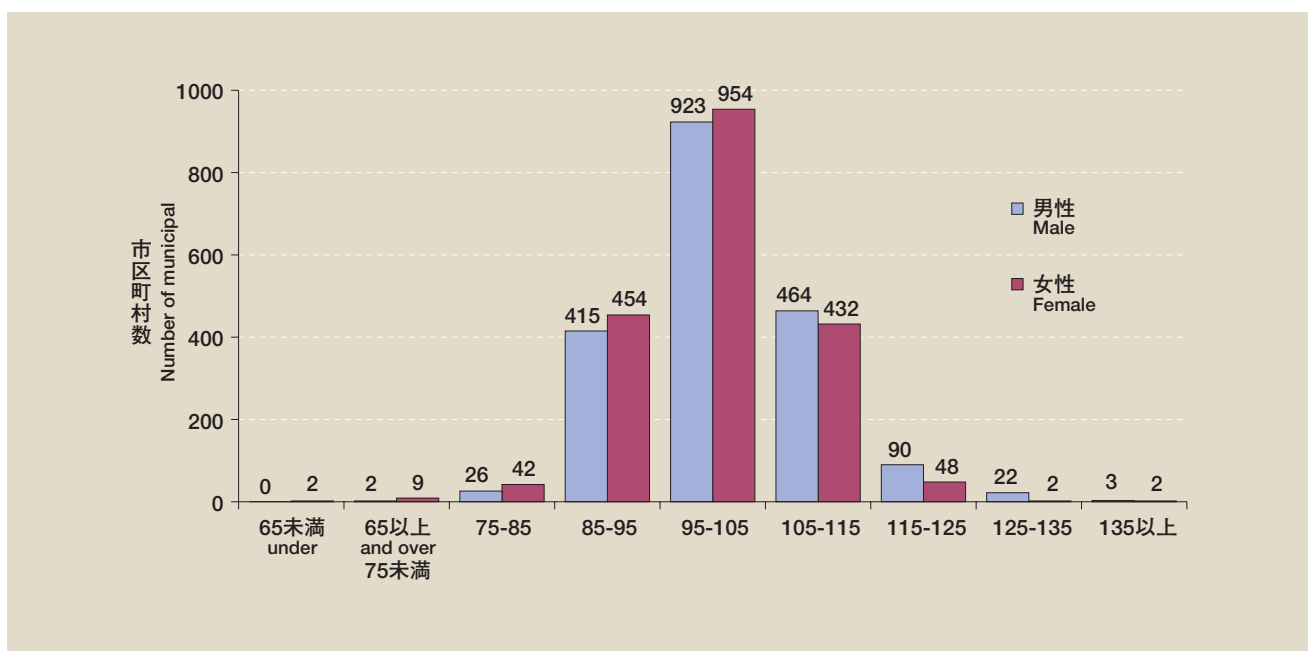
合計特殊出生率（ベイズ推定値）は1.3以上1.6未満の範囲に約6割の市区町村が分布

市区町村別にみた合計特殊出生率の分布
Distribution of total fertility rates by municipal



標準化死亡比（ベイズ推定値）は95以上105未満に約半数の市区町村が分布

市区町村別にみた標準化死亡比の分布
Distribution of standardized mortality ratio by municipal

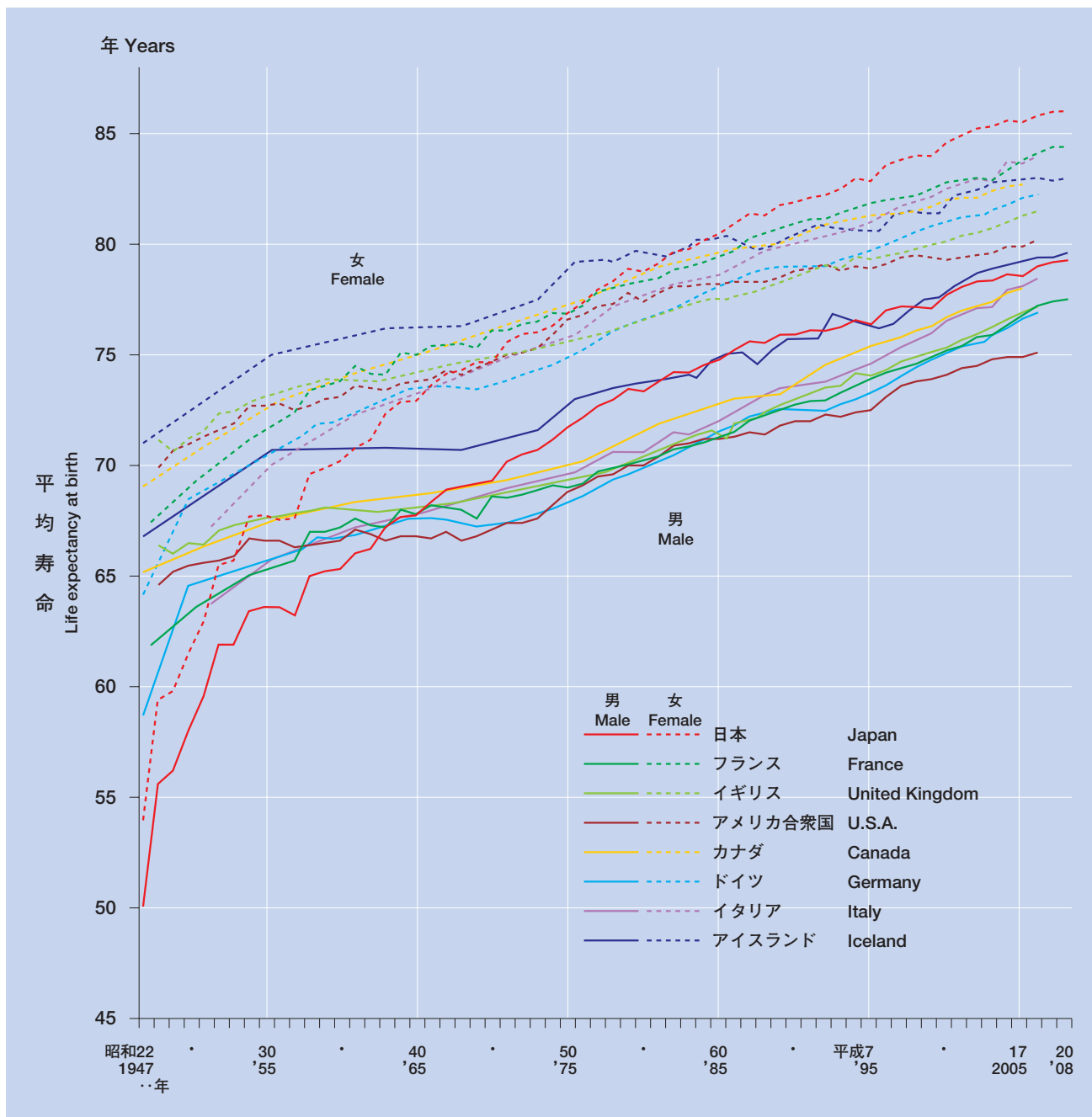


寿命 Life expectancy at birth

日本人の平均寿命 平成20年は男79.29年・女86.05年

各国の平均寿命の年次推移 1947～2008年

Trends of life expectancies at birth in selected countries, 1947—2008



注：1990年以前のドイツは、旧西ドイツの数値である。
資料：厚生労働省「完全生命表」、「簡易生命表」
諸外国は、UN「Demographic Yearbook」等

平均余命とは、ある期間（例えば平成20年1年間）の死亡の状況が今後とも一定であると仮定したとき、各年齢の者が平均してあと何年生きられるかを表したものである。特に0歳の平均余命を「平均寿命」といい、全年齢の死亡状況を集約したものであることから、保健福祉水準の総合指標として広く活用されている。

平成20年簡易生命表によると、平均寿命は男79.29年・女86.05年であり、前年と比べて男は0.10年、女は0.06年上回った。

国によって平均寿命の作成基礎となるデータの時点などが異なるため厳密な国際比較は難しいが、現在入手している資料を用いて比較すると、我が国の平均寿命は、男女ともに世界のトップクラスであるといえる。

統 計 表
Statistical tables

第 1 表 人 口 動 態

年 次 ¹⁾	人 口 ²⁾	出生数	死亡数	(再 掲)		自然増減数	死 産 数 ⁴⁾			周産期死亡数			婚 姻 件 数	離 婚 件 数
				乳 児 死亡数 (1歳未満)	新生児 ³⁾ 死亡数 (生後4週未満)		総 数	自然死産	人工死産	総 数	妊 娠 満 22週以後 の死産数	早期新生 児死亡数 (生後1 週未満)		
1899	明治32	43 404 000	1 386 981	932 087	213 359	108 077	454 894	135 727	297 372	66 545
1900	33	43 847 000	1 420 534	910 744	220 211	112 259	509 790	137 987	346 528	63 828
01	34	44 359 000	1 501 591	925 810	225 107	115 794	575 781	155 489	378 457	63 442
02	35	44 964 000	1 510 835	959 126	232 652	116 654	551 709	157 708	394 165	64 139
03	36	45 546 000	1 489 816	931 008	226 982	112 909	558 808	153 920	370 961	65 392
04	37	46 135 000	1 440 371	955 400	218 756	106 477	484 971	147 058	398 930	63 913
05	38	46 620 000	1 452 770	1 004 661	220 450	103 382	448 109	142 092	350 898	60 061
06	39	47 038 000	1 394 295	955 256	214 148	105 307	439 039	149 731	352 557	65 398
07	40	47 416 000	1 614 472	1 016 798	244 300	118 617	597 674	158 814	432 949	61 058
08	41	47 965 000	1 662 815	1 029 447	262 801	123 867	633 368	162 676	461 254	60 226
09	42	48 554 000	1 693 850	1 091 264	283 436	129 629	602 586	161 576	437 882	58 936
1910	43	49 184 000	1 712 857	1 064 234	276 136	126 910	648 623	157 392	441 222	59 432
11	44	49 852 000	1 747 803	1 043 906	276 798	127 302	703 897	155 319	433 117	58 067
12	大正元	50 577 000	1 737 674	1 037 016	268 025	123 902	700 658	147 545	430 422	59 143
13	2	51 305 000	1 757 441	1 027 257	267 281	124 213	730 184	147 769	431 287	59 536
14	3	52 039 000	1 808 402	1 101 815	286 678	125 745	706 587	145 692	452 392	59 992
15	4	52 752 000	1 799 326	1 093 793	288 634	125 337	705 533	141 301	445 210	59 943
16	5	53 496 000	1 804 822	1 187 832	307 283	132 000	616 990	139 998	433 680	60 254
17	6	54 134 000	1 812 413	1 199 669	313 872	139 717	612 744	140 328	447 970	55 812
18	7	54 739 000	1 791 992	1 493 162	337 919	145 710	298 830	142 507	500 580	56 474
19	8	55 033 000	1 778 685	1 281 965	303 202	129 072	496 720	132 939	480 136	56 812
1920	9	* 55 963 053	2 025 564	1 422 096	335 613	139 681	603 468	144 038	546 207	55 511
21	10	56 665 900	1 990 876	1 288 570	335 143	136 342	702 306	138 301	519 217	53 402
22	11	57 390 100	1 969 314	1 286 941	327 604	132 856	682 373	132 244	515 916	53 053
23	12	58 119 200	2 043 297	1 332 485	333 930	135 504	710 812	133 863	512 689	51 212
24	13	58 875 600	1 998 520	1 254 946	312 267	126 385	743 574	125 839	513 130	51 770
25	14	* 59 736 822	2 086 091	1 210 706	297 008	121 238	875 385	124 403	521 438	51 687
26	昭和中	60 740 900	2 104 405	1 160 734	289 275	119 642	943 671	124 038	502 847	50 119
27	2	61 659 300	2 060 737	1 214 323	292 084	116 240	846 414	116 922	487 850	50 626
28	3	62 595 300	2 135 852	1 236 711	293 881	115 682	899 141	120 191	499 555	49 119
29	4	63 460 600	2 077 026	1 261 228	295 178	115 009	815 798	116 971	497 410	51 222
1930	5	* 64 450 005	2 085 101	1 170 867	258 703	104 101	914 234	117 730	506 674	51 259
31	6	65 457 500	2 102 784	1 240 891	276 584	108 812	861 893	116 509	496 574	50 609
32	7	66 433 800	2 182 742	1 175 344	256 505	104 573	1 007 398	119 579	515 270	51 437
33	8	67 431 600	2 121 253	1 193 987	257 251	102 887	927 266	114 138	486 058	49 282
34	9	68 308 900	2 043 783	1 234 684	255 063	103 408	809 099	113 043	512 654	48 610
35	10	* 69 254 148	2 190 704	1 161 936	233 706	97 994	1 028 768	115 593	556 730	48 528
36	11	70 113 600	2 101 969	1 230 278	245 357	101 043	871 691	111 056	549 116	46 167
37	12	70 630 400	2 180 734	1 207 899	230 701	95 465	972 835	111 485	674 500	46 500
38	13	71 012 600	1 928 321	1 259 805	220 695	89 159	668 516	99 528	538 831	44 656
39	14	71 379 700	1 901 573	1 268 760	202 018	84 204	632 813	98 349	554 321	45 970
1940	15	71 933 000	2 115 867	1 186 595	190 509	81 869	929 272	102 034	666 575	48 556
41	16	71 680 200	2 277 283	1 149 559	191 420	77 829	1 127 724	103 400	791 625	49 424
42	17	72 384 500	2 233 660	1 166 630	190 897	76 177	1 067 030	95 448	679 044	46 268
43	18	72 883 100	2 253 535	1 213 811	195 219	76 588	1 039 724	92 889	743 842	49 705
47	22	* 78 101 473	2 678 792	1 138 238	205 360	84 204	1 540 554	123 837	934 170	79 551
48	23	80 002 500	2 681 624	950 610	165 406	73 855	1 731 014	143 963	104 325	31 055	953 999	79 032
49	24	81 772 600	2 696 638	945 444	168 467	72 432	1 751 194	192 677	114 161	75 585	842 170	82 575
1950	25	* 83 199 637	2 337 507	904 876	140 515	64 142	1 432 631	216 974	106 594	110 380	35 184	715 081
51	26	84 573 000	2 137 689	838 998	122 869	58 686	1 298 691	217 231	101 237	115 994	32 644	671 905
52	27	85 852 000	2 005 162	765 068	99 114	51 015	1 240 094	203 824	94 508	109 316	28 741	676 995
53	28	87 033 000	1 868 040	772 547	91 424	47 580	1 095 493	193 274	89 751	103 523	26 737	682 077
54	29	88 293 000	1 769 580	721 491	78 944	42 726	1 048 089	187 119	87 201	99 918	24 274	697 809
55	30	* 89 275 529	1 730 692	693 523	68 801	38 646	1 037 169	183 265	85 159	98 106	22 621	714 861
56	31	90 259 000	1 665 278	724 460	67 691	38 232	940 818	179 007	86 558	92 449	22 505	715 934
57	32	91 088 000	1 566 713	752 445	62 678	33 847	814 268	176 353	86 895	89 458	19 608	773 362
58	33	92 010 000	1 653 469	684 189	57 052	32 237	969 280	185 148	92 282	92 866	19 240	826 902
59	34	92 971 000	1 626 088	689 959	54 768	30 235	936 129	181 893	92 688	89 205	18 418	847 135

注：1) 昭和19～21年は資料不備のため省略した。昭和22～47年は沖縄県を含まない。
2) *印は国勢調査人口。明治32～大正8年は内地人、大正9～昭和41年までは総人口、42年以降は日本人人口。
大正10～昭和24年は百の位未満は四捨五入、昭和26年以降は千の位未満四捨五入。
3) 昭和18年以前は1か月未満の死亡である。また、昭和18年は樺太を含む。
4) 昭和23・24年の死産総数には自然死産・人工死産の不詳を含む。また、自然死産・人工死産の数、率は概数である。
5) 出生数に死産数を加えたものである。
6) 出生数に妊娠満22週以後の死産数を加えたものである。

総覧, 年次別

出生率 (人口 千対)	合計 特殊 出生率	死亡率 (人口 千対)	乳児 死亡率 (出生 千対)	新生児 死亡率 (出生 千対)	自然 増減率 (人口 千対)	死産率 ⁴⁾ (出産 ⁵⁾ 千対)			周産期 死亡率 (出産 ⁶⁾ 千対)	妊娠満 22週以後 の死産率 (出産 ⁶⁾ 千対)	早産期 新生児 死亡率 (出生 千対)	婚姻率 (人口 千対)	離婚率 (人口 千対)	年齢調整 死亡率 (人口千対)		年次
						総数	自然死産	人工死産						男	女	
32.0	...	21.5	153.8	77.9	10.5	89.1	6.9	1.53	明治32
32.4	...	20.8	155.0	79.0	11.6	88.5	7.9	1.46	33
33.9	...	20.9	149.9	77.1	13.0	93.8	8.5	1.43	34
33.6	...	21.3	154.0	77.2	12.3	94.5	8.8	1.43	35
32.7	...	20.4	152.4	75.8	12.3	93.6	8.1	1.44	36
31.2	...	20.7	151.9	73.9	10.5	92.6	8.6	1.39	37
31.2	...	21.6	151.7	71.2	9.6	89.1	7.5	1.29	38
29.6	...	20.3	153.6	75.5	9.3	97.0	7.5	1.39	39
34.0	...	21.4	151.3	73.5	12.6	89.6	9.1	1.29	40
34.7	...	21.5	158.0	74.5	13.2	89.1	9.6	1.26	41
34.9	...	22.5	167.3	76.5	12.4	87.1	9.0	1.21	42
34.8	...	21.6	161.2	74.1	13.2	84.2	9.0	1.21	43
35.1	...	20.9	158.4	72.8	14.1	81.6	8.7	1.16	44
34.4	...	20.5	154.2	71.3	13.9	78.3	8.5	1.17	大正元
34.3	...	20.0	152.1	70.7	14.2	77.6	8.4	1.16	2
34.8	...	21.2	158.5	69.5	13.6	74.6	8.7	1.15	3
34.1	...	20.7	160.4	69.7	13.4	72.8	8.4	1.14	4
33.7	...	22.2	170.3	73.1	11.5	72.0	8.1	1.13	5
33.5	...	22.2	173.2	77.1	11.3	71.9	8.3	1.03	6
32.7	...	27.3	188.6	81.3	5.5	73.7	9.1	1.03	7
32.3	...	23.3	170.5	72.6	9.0	69.5	8.7	1.03	8
36.2	...	25.4	165.7	69.0	10.8	66.4	9.8	0.99	9
35.1	...	22.7	168.3	68.5	12.4	65.0	9.2	0.94	10
34.3	...	22.4	166.4	67.5	11.9	62.9	9.0	0.92	11
35.2	...	22.9	163.4	66.3	12.2	61.5	8.8	0.88	12
33.9	...	21.3	156.2	63.2	12.6	59.2	8.7	0.88	13
34.9	...	20.3	142.4	58.1	14.7	56.3	8.7	0.87	14
34.6	...	19.1	137.5	56.9	15.5	55.7	8.3	0.83	昭和元
33.4	...	19.7	141.7	56.4	13.7	53.7	7.9	0.82	2
34.1	...	19.8	137.6	54.2	14.4	53.3	8.0	0.78	3
32.7	...	19.9	142.1	55.4	12.9	53.3	7.8	0.81	4
32.4	...	18.2	124.1	49.9	14.2	53.4	7.9	0.80	5
32.1	...	19.0	131.5	51.7	13.2	52.5	7.6	0.77	6
32.9	...	17.7	117.5	47.9	15.2	51.9	7.8	0.77	7
31.5	...	17.7	121.3	48.5	13.8	51.1	7.2	0.73	8
29.9	...	18.1	124.8	50.6	11.8	52.4	7.5	0.71	9
31.6	...	16.8	106.7	44.7	14.9	50.1	8.0	0.70	10
30.0	...	17.5	116.7	48.1	12.4	50.2	7.8	0.66	11
30.9	...	17.1	105.8	43.8	13.8	48.6	9.5	0.66	12
27.2	...	17.7	114.4	46.2	9.4	49.1	7.6	0.63	13
26.6	...	17.8	106.2	44.3	8.9	49.2	7.8	0.64	14
29.4	...	16.5	90.0	38.7	12.9	46.0	9.3	0.68	15
31.8	...	16.0	84.1	34.2	15.7	43.4	11.0	0.69	16
30.9	...	16.1	85.5	34.1	14.7	41.0	9.4	0.64	17
30.9	...	16.7	86.6	33.8	14.3	39.6	10.2	0.68	18
34.3	4.54	14.6	76.7	31.4	19.7	44.2	12.0	1.02	23.6	18.3	22
33.5	4.40	11.9	61.7	27.5	21.6	50.9	36.9	10.9	11.9	0.99	19.3	15.4	23
33.0	4.32	11.6	62.5	26.9	21.4	66.7	39.1	25.9	10.3	1.01	18.9	15.0	24
28.1	3.65	10.9	60.1	27.4	17.2	84.9	41.7	43.2	15.1	8.6	1.01	18.6	14.6	25
25.3	3.26	9.9	57.5	27.5	15.4	92.2	43.0	49.3	15.3	7.9	0.97	16.9	13.4	26
23.4	2.98	8.9	49.4	25.4	14.4	92.3	42.8	49.5	14.3	7.9	0.92	15.7	12.4	27
21.5	2.69	8.9	48.9	25.5	12.6	93.8	43.5	50.2	14.3	7.8	0.86	16.4	12.6	28
20.0	2.48	8.2	44.6	24.1	11.9	95.6	44.6	51.1	13.7	7.9	0.87	15.2	11.3	29
19.4	2.37	7.8	39.8	22.3	11.6	95.8	44.5	51.3	13.1	8.0	0.84	14.8	11.0	30
18.4	2.22	8.0	40.6	23.0	10.4	97.1	46.9	50.1	13.5	7.9	0.80	15.6	11.5	31
17.2	2.04	8.3	40.0	21.6	8.9	101.2	49.9	51.3	12.5	8.5	0.79	16.3	11.8	32
18.0	2.11	7.4	34.5	19.5	10.5	100.7	50.2	50.5	11.6	9.0	0.80	14.4	10.4	33
17.5	2.04	7.4	33.7	18.6	10.1	100.6	51.3	49.3	11.3	9.1	0.78	14.4	10.2	34

第 1 表 人 口 動 態

年 次 ¹⁾	人 口 ²⁾	出 生 数	死 亡 数	(再 掲)		自然増減数	死 産 数 ⁴⁾			周産期死亡数			婚 件	姻 数	離 婚 数
				乳 児 死亡数 (1歳未満)	新生児 ³⁾ 死亡数 (生後4週未満)		総 数	自然死産	人工死産	総 数	妊 娠 満 22週以後 の死産数	早期新生 児死亡数 (生後1 週未満)			
1960	昭和35	* 93 418 501	1 606 041	706 599	49 293	27 362	899 442	179 281	93 424	85 857	17 040	866 115	69 410
61	36	94 285 000	1 589 372	695 644	45 465	26 255	893 728	179 895	96 032	83 863	16 879	890 158	69 323
62	37	95 178 000	1 618 616	710 265	42 797	24 777	908 351	177 363	97 256	80 107	16 242	928 341	71 394
63	38	96 156 000	1 659 521	670 770	38 442	22 965	988 751	175 424	97 711	77 713	15 285	937 516	69 996
64	39	97 186 000	1 716 761	673 067	34 967	21 344	1 043 694	168 046	97 357	70 689	14 676	963 130	72 306
65	40	* 98 274 961	1 823 697	700 438	33 742	21 260	1 123 259	161 617	94 476	67 141	14 949	954 852	77 195
66	41	99 056 000	1 360 974	670 342	26 217	16 296	690 632	148 248	83 253	64 995	11 765	940 120	79 432
67	42	99 637 000	1 935 647	675 066	28 928	19 248	1 260 641	149 389	90 938	58 451	14 108	953 096	83 478
68	43	100 794 000	1 871 839	686 555	28 600	18 326	1 185 284	143 259	87 381	55 878	13 693	956 312	87 327
69	44	102 022 000	1 889 815	693 787	26 874	17 116	1 196 028	139 211	85 788	53 423	12 810	984 142	91 280
1970	45	* 103 119 447	1 934 239	712 962	25 412	16 742	1 221 277	135 095	84 073	51 022	12 810	1 029 405	95 937
71	46	104 345 000	2 000 973	684 521	24 805	16 450	1 316 452	130 920	83 827	47 093	12 665	1 091 229	103 595
72	47	105 742 000	2 038 682	683 751	23 773	15 817	1 354 931	125 154	81 741	43 413	12 425	1 099 984	108 382
73	48	108 079 000	2 091 983	709 416	23 683	15 473	1 382 567	116 171	78 613	37 558	12 156	1 071 923	111 877
74	49	109 410 000	2 029 989	710 510	21 888	14 472	1 319 479	109 738	74 618	35 120	11 394	1 000 455	113 622
75	50	* 111 251 507	1 901 440	702 275	19 103	12 912	1 199 165	101 862	67 643	34 219	10 245	941 628	119 135
76	51	112 420 000	1 832 617	703 270	17 105	11 638	1 129 347	101 930	64 046	37 884	9 392	871 543	124 512
77	52	113 499 000	1 755 100	690 074	15 666	10 773	1 065 026	95 247	60 330	34 917	8 686	821 029	129 485
78	53	114 511 000	1 708 643	695 821	14 327	9 628	1 012 822	87 463	55 818	31 645	7 701	793 257	132 146
79	54	115 465 000	1 642 580	689 664	12 923	8 590	952 916	82 311	51 083	31 228	36 190	29 289	6 901	788 505	135 250
1980	55	* 116 320 358	1 576 889	722 801	11 841	7 796	854 088	77 446	47 651	29 795	32 422	26 268	6 154	774 702	141 689
81	56	117 204 000	1 529 455	720 262	10 891	7 188	809 193	79 222	46 296	32 926	30 274	24 672	5 602	776 531	154 221
82	57	118 008 000	1 515 392	711 883	9 969	6 425	803 509	78 107	44 135	33 972	28 204	23 137	5 067	781 252	163 980
83	58	118 786 000	1 508 687	740 038	9 406	5 894	768 649	71 941	40 108	31 833	25 925	21 354	4 571	762 552	179 150
84	59	119 523 000	1 489 780	740 247	8 920	5 527	749 533	72 361	37 976	34 385	25 149	20 875	4 274	739 991	178 746
85	60	* 120 265 700	1 431 577	752 283	7 899	4 910	679 294	69 009	33 114	35 895	22 379	18 642	3 737	735 850	166 640
86	61	120 946 000	1 382 946	750 620	7 251	4 296	632 326	65 678	31 050	34 628	20 389	17 143	3 246	710 962	166 054
87	62	121 535 000	1 346 658	751 172	6 711	3 933	595 486	63 834	29 956	33 878	18 699	15 634	3 065	696 173	158 227
88	63	122 026 000	1 314 006	793 014	6 265	3 592	520 992	59 636	26 804	32 832	16 839	14 090	2 749	707 716	153 600
89	平成元	122 460 000	1 246 802	788 594	5 724	3 214	458 208	55 204	24 558	30 646	15 183	12 797	2 386	708 316	157 811
1990	2	* 122 721 397	1 221 585	820 305	5 616	3 179	401 280	53 892	23 383	30 509	13 704	11 367	2 337	722 138	157 608
91	3	123 102 000	1 223 245	829 797	5 418	2 978	393 448	50 510	22 317	28 193	10 426	8 258	2 168	742 264	168 969
92	4	123 476 000	1 208 989	856 643	5 477	2 905	352 346	48 896	21 689	27 207	9 888	7 758	2 130	754 441	179 191
93	5	123 788 000	1 188 282	878 532	5 169	2 765	309 750	45 090	20 205	24 885	9 226	7 191	2 035	792 658	188 297
94	6	124 069 000	1 238 328	875 933	5 261	2 889	362 395	42 962	19 754	23 208	9 286	7 200	2 086	782 738	195 106
95	7	* 124 298 947	1 187 064	922 139	5 054	2 615	264 925	39 403	18 262	21 141	8 412	6 580	1 832	791 888	199 016
96	8	124 709 000	1 206 555	896 211	4 546	2 438	310 344	39 536	18 329	21 207	8 080	6 333	1 747	795 080	206 955
97	9	124 963 000	1 191 665	913 402	4 403	2 307	278 263	39 546	17 453	22 093	7 624	6 009	1 615	775 651	222 635
98	10	125 252 000	1 203 147	936 484	4 380	2 353	266 663	38 988	16 936	22 052	7 447	5 804	1 643	784 595	243 183
99	11	125 432 000	1 177 669	982 031	4 010	2 137	195 638	38 452	16 711	21 741	7 102	5 567	1 535	762 028	250 529
2000	12	* 125 612 633	1 190 547	961 653	3 830	2 106	228 894	38 393	16 200	22 193	6 881	5 362	1 519	798 138	264 246
01	13	125 908 000	1 170 662	970 331	3 599	1 909	200 331	37 467	15 704	21 763	6 476	5 114	1 362	799 999	285 911
02	14	126 008 000	1 153 855	982 379	3 497	1 937	171 476	36 978	15 161	21 817	6 333	4 959	1 374	757 331	289 836
03	15	126 139 000	1 123 610	1 014 951	3 364	1 879	108 659	35 330	14 644	20 686	5 929	4 626	1 303	740 191	283 854
04	16	126 176 000	1 110 721	1 028 602	3 122	1 622	82 119	34 365	14 288	20 077	5 541	4 357	1 184	720 417	270 804
05	17	* 126 204 902	1 062 530	1 083 796	2 958	1 510	△ 21 266	31 818	13 502	18 316	5 149	4 058	1 091	714 265	261 917
06	18	126 154 000	1 092 674	1 084 450	2 864	1 444	8 224	30 911	13 424	17 487	5 100	4 047	1 053	730 971	257 475
07	19	126 085 000	1 089 818	1 108 334	2 828	1 434	△ 18 516	29 313	13 107	16 206	4 906	3 854	1 052	719 822	254 832
08	20	125 947 000	1 091 156	1 142 407	2 798	1 331	△ 51 251	28 177	12 625	15 552	4 720	3 751	969	726 106	251 136

総覧，年次別（つづき）

出生率 (人口 千対)	合計 特殊 出生率	死亡率 (人口 千対)	乳児 死亡率 (出生 千対)	新生児 死亡率 (出生 千対)	自然 増減率 (人口 千対)	死産率 ⁴⁾ (出産 ⁵⁾ 千対)			周産期 死亡率 (出産 ⁶⁾ 千対)	妊娠満 22週以後 の死産率 ⁶⁾ (出産 ⁶⁾ 千対)	早期 新生児 死亡率 (出生 千対)	婚姻率 (人口 千対)	離婚率 (人口 千対)	年齢調整 死亡率 (人口千対)		年次
						総数	自然死産	人工死産						男	女	
17.2	2.00	7.6	30.7	17.0	9.6	100.4	52.3	48.1	10.6	9.3	0.74	14.8	10.4	昭和35
16.9	1.96	7.4	28.6	16.5	9.5	101.7	54.3	47.4	10.6	9.4	0.74	14.3	10.0	36
17.0	1.98	7.5	26.4	15.3	9.5	98.8	54.2	44.6	10.0	9.8	0.75	14.6	10.0	37
17.3	2.00	7.0	23.2	13.8	10.3	95.6	53.3	42.4	9.2	9.7	0.73	13.4	9.3	38
17.7	2.05	6.9	20.4	12.4	10.7	89.2	51.7	37.5	8.5	9.9	0.74	13.2	9.1	39
18.6	2.14	7.1	18.5	11.7	11.4	81.4	47.6	33.8	8.2	9.7	0.79	13.7	9.3	40
13.7	1.58	6.8	19.3	12.0	7.0	98.2	55.2	43.1	8.6	9.5	0.80	12.7	8.7	41
19.4	2.23	6.8	14.9	9.9	12.7	71.6	43.6	28.0	7.3	9.6	0.84	12.6	8.5	42
18.6	2.13	6.8	15.3	9.8	11.8	71.1	43.4	27.7	7.3	9.5	0.87	12.5	8.4	43
18.5	2.13	6.8	14.2	9.1	11.7	68.6	42.3	26.3	6.8	9.6	0.89	12.4	8.2	44
18.8	2.13	6.9	13.1	8.7	11.8	65.3	40.6	24.7	6.6	10.0	0.93	12.3	8.2	45
19.2	2.16	6.6	12.4	8.2	12.6	61.4	39.3	22.1	6.3	10.5	0.99	11.5	7.6	46
19.3	2.14	6.5	11.7	7.8	12.8	57.8	37.8	20.1	6.1	10.4	1.02	11.2	7.4	47
19.4	2.14	6.6	11.3	7.4	12.8	52.6	35.6	17.0	5.8	9.9	1.04	11.2	7.4	48
18.6	2.05	6.5	10.8	7.1	12.1	51.3	34.9	16.4	5.6	9.1	1.04	10.9	7.2	49
17.1	1.91	6.3	10.0	6.8	10.8	50.8	33.8	17.1	5.4	8.5	1.07	10.4	6.9	50
16.3	1.85	6.3	9.3	6.4	10.0	52.7	33.1	19.6	5.1	7.8	1.11	10.1	6.6	51
15.5	1.80	6.1	8.9	6.1	9.4	51.5	32.6	18.9	4.9	7.2	1.14	9.6	6.2	52
14.9	1.79	6.1	8.4	5.6	8.8	48.7	31.1	17.6	4.5	6.9	1.15	9.4	6.0	53
14.2	1.77	6.0	7.9	5.2	8.3	47.7	29.6	18.1	21.6	17.5	4.2	6.8	1.17	9.0	5.7	54
13.6	1.75	6.2	7.5	4.9	7.3	46.8	28.8	18.0	20.2	16.4	3.9	6.7	1.22	9.2	5.8	55
13.0	1.74	6.1	7.1	4.7	6.9	49.2	28.8	20.5	19.5	15.9	3.7	6.6	1.32	8.9	5.6	56
12.8	1.77	6.0	6.6	4.2	6.8	49.0	27.7	21.3	18.3	15.0	3.3	6.6	1.39	8.5	5.2	57
12.7	1.80	6.2	6.2	3.9	6.5	45.5	25.4	20.1	16.9	14.0	3.0	6.4	1.51	8.6	5.2	58
12.5	1.81	6.2	6.0	3.7	6.3	46.3	24.3	22.0	16.6	13.8	2.9	6.2	1.50	8.3	5.0	59
11.9	1.76	6.3	5.5	3.4	5.6	46.0	22.1	23.9	15.4	12.9	2.6	6.1	1.39	8.1	4.8	60
11.4	1.72	6.2	5.2	3.1	5.2	45.3	21.4	23.9	14.6	12.2	2.3	5.9	1.37	7.8	4.6	61
11.1	1.69	6.2	5.0	2.9	4.9	45.3	21.2	24.0	13.7	11.5	2.3	5.7	1.30	7.6	4.4	62
10.8	1.66	6.5	4.8	2.7	4.3	43.4	19.5	23.9	12.7	10.6	2.1	5.8	1.26	7.7	4.5	63
10.2	1.57	6.4	4.6	2.6	3.7	42.4	18.9	23.5	12.1	10.2	1.9	5.8	1.29	7.4	4.2	平成元
10.0	1.54	6.7	4.6	2.6	3.3	42.3	18.3	23.9	11.1	9.2	1.9	5.9	1.28	7.5	4.2	2
9.9	1.53	6.7	4.4	2.4	3.2	39.7	17.5	22.1	8.5	6.7	1.8	6.0	1.37	7.4	4.1	3
9.8	1.50	6.9	4.5	2.4	2.9	38.9	17.2	21.6	8.1	6.4	1.8	6.1	1.45	7.4	4.0	4
9.6	1.46	7.1	4.3	2.3	2.5	36.6	16.4	20.2	7.7	6.0	1.7	6.4	1.52	7.3	4.0	5
10.0	1.50	7.1	4.2	2.3	2.9	33.5	15.4	18.1	7.5	5.8	1.7	6.3	1.57	7.1	3.8	6
9.6	1.42	7.4	4.3	2.2	2.1	32.1	14.9	17.2	7.0	5.5	1.5	6.4	1.60	7.2	3.8	7
9.7	1.43	7.2	3.8	2.0	2.5	31.7	14.7	17.0	6.7	5.2	1.4	6.4	1.66	6.8	3.6	8
9.5	1.39	7.3	3.7	1.9	2.2	32.1	14.2	17.9	6.4	5.0	1.4	6.2	1.78	6.7	3.5	9
9.6	1.38	7.5	3.6	2.0	2.1	31.4	13.6	17.8	6.2	4.8	1.4	6.3	1.94	6.6	3.4	10
9.4	1.34	7.8	3.4	1.8	1.6	31.6	13.7	17.9	6.0	4.7	1.3	6.1	2.00	6.7	3.4	11
9.5	1.36	7.7	3.2	1.8	1.8	31.2	13.2	18.1	5.8	4.5	1.3	6.4	2.10	6.3	3.2	12
9.3	1.33	7.7	3.1	1.6	1.6	31.0	13.0	18.0	5.5	4.3	1.2	6.4	2.27	6.2	3.1	13
9.2	1.32	7.8	3.0	1.7	1.4	31.1	12.7	18.3	5.5	4.3	1.2	6.0	2.30	6.0	3.0	14
8.9	1.29	8.0	3.0	1.7	0.9	30.5	12.6	17.8	5.3	4.1	1.2	5.9	2.25	6.0	3.0	15
8.8	1.29	8.2	2.8	1.5	0.7	30.0	12.5	17.5	5.0	3.9	1.1	5.7	2.15	5.9	3.0	16
8.4	1.26	8.6	2.8	1.4	△ 0.2	29.1	12.3	16.7	4.8	3.8	1.0	5.7	2.08	5.9	3.0	17
8.7	1.32	8.6	2.6	1.3	0.1	27.5	11.9	15.6	4.7	3.7	1.0	5.8	2.04	5.7	2.9	18
8.6	1.34	8.8	2.6	1.3	△ 0.1	26.2	11.7	14.5	4.5	3.5	1.0	5.7	2.02	5.6	2.8	19
8.7	1.37	9.1	2.6	1.2	△ 0.4	25.2	11.3	13.9	4.3	3.4	0.9	5.8	1.99	5.6	2.8	20

第 2 表 人 口 動 態 総 覧,

都道府県 ¹⁾	人 口	出生数	死亡数	(再 掲)		自然増減数	死 産 数			周産期死亡数			婚 姻 数	離 婚 数
				乳 児 死亡数 (1歳未満)	新生児 死亡数 (生後4週未満)		総 数	自然死産	人工死産	総 数	妊 娠 満 22週以後の死産数	早期新生児 死亡数 (生後1週未満)		
全 国	125 947 000	1 091 156	1 142 407	2 798	1 331	△ 51 251	28 177	12 625	15 552	4 720	3 751	969	726 106	251 136
北海道	5 517 000	41 074	52 955	99	50	△ 11 881	1 412	569	843	195	160	35	29 115	12 677
青 森	1 388 000	10 187	15 400	21	11	△ 5 213	290	130	160	45	37	8	6 401	2 828
岩 手	1 347 000	10 223	15 026	36	15	△ 4 803	279	133	146	55	43	12	6 018	2 323
宮 城	2 329 000	19 863	20 657	41	18	△ 794	573	237	336	77	64	13	12 763	4 554
秋 田	1 105 000	7 421	13 638	20	12	△ 6 217	209	104	105	40	32	8	4 555	1 823
山 形	1 182 000	9 164	13 719	21	13	△ 4 555	227	114	113	47	36	11	5 411	2 009
福 島	2 043 000	16 908	21 583	45	20	△ 4 675	477	250	227	90	75	15	10 252	3 991
茨 城	2 923 000	24 592	27 466	61	29	△ 2 874	691	295	396	119	100	19	15 866	5 853
栃 木	1 981 000	17 240	18 437	60	24	△ 1 197	464	208	256	74	55	19	11 198	3 963
群 馬	1 975 000	17 044	18 935	39	19	△ 1 891	428	200	228	71	56	15	10 397	3 831
埼 玉	7 019 000	60 520	51 730	164	67	8 790	1 452	716	736	264	212	52	40 604	14 112
千 葉	6 039 000	52 306	47 149	133	59	5 157	1 312	669	643	210	171	39	36 158	12 187
東 京	12 552 000	106 015	98 248	261	119	7 767	2 724	1 218	1 506	458	383	75	91 196	26 300
神奈川	8 784 000	79 179	63 771	217	121	15 408	1 696	873	823	357	267	90	56 822	18 227
新 潟	2 380 000	18 388	24 889	48	21	△ 6 501	501	235	266	82	68	14	11 373	3 513
富 山	1 088 000	8 709	11 635	25	8	△ 2 926	206	103	103	35	29	6	5 275	1 679
石 川	1 158 000	10 199	11 012	25	20	△ 813	232	145	87	62	45	17	6 141	1 900
福 井	801 000	7 139	8 088	18	13	△ 949	180	73	107	32	22	10	4 124	1 298
山 梨	857 000	6 908	8 736	10	3	△ 1 828	152	75	77	22	20	2	4 392	1 742
長 野	2 135 000	18 129	22 692	34	14	△ 4 563	414	212	202	74	62	12	11 022	3 762
岐 阜	2 053 000	17 506	19 478	58	34	△ 1 972	388	175	213	87	59	28	10 919	3 413
静 岡	3 712 000	32 701	34 511	80	46	△ 1 810	789	382	407	156	119	37	21 193	6 959
愛 知	7 203 000	71 029	56 036	207	87	14 993	1 615	766	849	313	247	66	47 119	13 527
三 重	1 828 000	15 633	17 904	41	22	△ 2 271	349	160	189	82	66	16	9 937	3 402
滋 賀	1 375 000	13 487	11 110	35	20	2 377	314	172	142	72	56	16	8 080	2 427
京 都	2 587 000	21 842	23 015	54	28	△ 1 173	507	203	304	80	62	18	14 239	4 877
阪 神	8 639 000	77 400	72 930	213	108	4 470	1 852	770	1 082	310	240	70	52 998	20 490
兵 庫	5 504 000	48 833	49 074	115	51	△ 241	1 143	489	654	176	141	35	30 486	10 658
奈 良	1 395 000	10 981	12 368	30	18	△ 1 387	285	131	154	61	47	14	6 645	2 542
和歌山	1 007 000	7 866	11 679	18	7	△ 3 813	223	81	142	32	26	6	4 902	2 174
鳥 取	591 000	4 878	6 682	11	1	△ 1 804	126	58	68	15	14	1	2 883	1 073
鳥 根	720 000	5 685	9 011	11	5	△ 3 326	155	73	82	22	19	3	3 103	1 117
岡 山	1 930 000	17 044	19 393	55	27	△ 2 349	426	167	259	69	47	22	10 327	3 624
広 島	2 836 000	25 560	27 150	68	25	△ 1 590	617	292	325	105	87	18	16 365	5 332
山 口	1 452 000	11 560	16 900	27	9	△ 5 340	294	150	144	51	42	9	7 163	2 606
徳 島	790 000	5 893	8 882	15	8	△ 2 989	164	66	98	26	21	5	3 776	1 447
香 川	996 000	8 600	10 645	22	8	△ 2 045	192	103	89	34	28	6	5 239	1 929
愛 媛	1 436 000	11 561	15 777	16	7	△ 4 216	341	138	203	45	41	4	7 175	2 816
高 知	771 000	5 788	9 452	21	10	△ 3 664	197	63	134	26	19	7	3 566	1 676
福 岡	5 013 000	46 695	45 134	105	58	1 561	1 424	530	894	201	159	42	30 017	11 037
佐 賀	852 000	7 819	8 983	22	7	△ 1 164	199	81	118	28	24	4	4 210	1 468
長 崎	1 434 000	12 173	15 697	21	10	△ 3 524	376	139	237	42	35	7	6 981	2 528
熊 本	1 813 000	16 462	18 951	39	16	△ 2 489	502	178	324	65	53	12	9 573	3 493
大 分	1 192 000	10 306	12 641	26	16	△ 2 335	306	127	179	52	38	14	6 197	2 318
宮 崎	1 133 000	10 292	11 932	33	16	△ 1 640	326	113	213	42	30	12	6 239	2 619
鹿 児 島	1 713 000	15 445	19 943	38	13	△ 4 498	529	182	347	53	43	10	8 793	3 447
沖 縄	1 369 000	16 736	9 492	34	14	7 244	595	266	329	58	47	11	8 898	3 565
外 国	・	173	188	1	-	△ 15	10	4	6	-	-	-	・	・
不 詳	・	・	1 683	4	4	・	14	7	7	8	4	4	・	・

注：1) 都道府県の表章は、出生は子の住所、死亡は死亡者の住所、死産は母の住所、婚姻は夫の住所、離婚は別居する前の住所による。

2) 出生数に死産数を加えたものである。

3) 出生数に妊娠満22週以後の死産数を加えたものである。

資料：人口は総務省統計局「平成20年10月1日現在推計人口」

都道府県別

平成20年

出生率 (人口 千対)	合計特殊 出生率	死亡率 (人口 千対)	乳児 死亡率 (出生 千対)	新生児 死亡率 (出生 千対)	自然 増減率 (人口 千対)	死産率 (出産 ²) 千対)			周産期 死亡率 (出産 ³) 千対)	妊娠満 22週以後 の死産率 (出産 ³) 千対)	早期 新生児 死亡 (出生 千対)	婚姻率 (人口 千対)	離婚率 (人口 千対)	都道府県
						総数	自然死産	人工死産						
8.7	1.37	9.1	2.6	1.2	△ 0.4	25.2	11.3	13.9	4.3	3.4	0.9	5.8	1.99	全 国
7.4	1.20	9.6	2.4	1.2	△ 2.2	33.2	13.4	19.8	4.7	3.9	0.9	5.3	2.30	北海道
7.3	1.30	11.1	2.1	1.1	△ 3.8	27.7	12.4	15.3	4.4	3.6	0.8	4.6	2.04	青森
7.6	1.39	11.2	3.5	1.5	△ 3.6	26.6	12.7	13.9	5.4	4.2	1.2	4.5	1.72	岩手
8.5	1.29	8.9	2.1	0.9	△ 0.3	28.0	11.6	16.4	3.9	3.2	0.7	5.5	1.96	宮城
6.7	1.32	12.3	2.7	1.6	△ 5.6	27.4	13.6	13.8	5.4	4.3	1.1	4.1	1.65	秋田
7.8	1.44	11.6	2.3	1.4	△ 3.9	24.2	12.1	12.0	5.1	3.9	1.2	4.6	1.70	山形
8.3	1.52	10.6	2.7	1.2	△ 2.3	27.4	14.4	13.1	5.3	4.4	0.9	5.0	1.95	福島
8.4	1.37	9.4	2.5	1.2	△ 1.0	27.3	11.7	15.7	4.8	4.0	0.8	5.4	2.00	茨城
8.7	1.42	9.3	3.5	1.4	△ 0.6	26.2	11.7	14.5	4.3	3.2	1.1	5.7	2.00	栃木
8.6	1.40	9.6	2.3	1.1	△ 1.0	24.5	11.4	13.0	4.2	3.3	0.9	5.3	1.94	群馬
8.6	1.28	7.4	2.7	1.1	1.3	23.4	11.6	11.9	4.3	3.5	0.9	5.8	2.01	埼玉
8.7	1.29	7.8	2.5	1.1	0.9	24.5	12.5	12.0	4.0	3.3	0.7	6.0	2.02	千葉
8.4	1.09	7.8	2.5	1.1	0.6	25.1	11.2	13.8	4.3	3.6	0.7	7.3	2.10	東京
9.0	1.27	7.3	2.7	1.5	1.8	21.0	10.8	10.2	4.5	3.4	1.1	6.5	2.08	神奈川
7.7	1.37	10.5	2.6	1.1	△ 2.7	26.5	12.4	14.1	4.4	3.7	0.8	4.8	1.48	新潟
8.0	1.38	10.7	2.9	0.9	△ 2.7	23.1	11.6	11.6	4.0	3.3	0.7	4.8	1.54	富山
8.8	1.41	9.5	2.5	2.0	△ 0.7	22.2	13.9	8.3	6.1	4.4	1.7	5.3	1.64	石川
8.9	1.54	10.1	2.5	1.8	△ 1.2	24.6	10.0	14.6	4.5	3.1	1.4	5.1	1.62	福井
8.1	1.35	10.2	1.4	0.4	△ 2.1	21.5	10.6	10.9	3.2	2.9	0.3	5.1	2.03	山梨
8.5	1.45	10.6	1.9	0.8	△ 2.1	22.3	11.4	10.9	4.1	3.4	0.7	5.2	1.76	長野
8.5	1.35	9.5	3.3	1.9	△ 1.0	21.7	9.8	11.9	5.0	3.4	1.6	5.3	1.66	岐阜
8.8	1.44	9.3	2.4	1.4	△ 0.5	23.6	11.4	12.2	4.8	3.6	1.1	5.7	1.87	静岡
9.9	1.43	7.8	2.9	1.2	2.1	22.2	10.5	11.7	4.4	3.5	0.9	6.5	1.88	愛知
8.6	1.38	9.8	2.6	1.4	△ 1.2	21.8	10.0	11.8	5.2	4.2	1.0	5.4	1.86	三重
9.8	1.45	8.1	2.6	1.5	1.7	22.8	12.5	10.3	5.3	4.1	1.2	5.9	1.77	滋賀
8.4	1.22	8.9	2.5	1.3	△ 0.5	22.7	9.1	13.6	3.7	2.8	0.8	5.5	1.89	京都
9.0	1.28	8.4	2.8	1.4	0.5	23.4	9.7	13.7	4.0	3.1	0.9	6.1	2.37	大阪
8.9	1.34	8.9	2.4	1.0	△ 0.0	22.9	9.8	13.1	3.6	2.9	0.7	5.5	1.94	兵庫
7.9	1.22	8.9	2.7	1.6	△ 1.0	25.3	11.6	13.7	5.5	4.3	1.3	4.8	1.82	奈良
7.8	1.41	11.6	2.3	0.9	△ 3.8	27.6	10.0	17.6	4.1	3.3	0.8	4.9	2.16	和歌山
8.3	1.43	11.3	2.3	0.2	△ 3.1	25.2	11.6	13.6	3.1	2.9	0.2	4.9	1.82	鳥取
7.9	1.51	12.5	1.9	0.9	△ 4.6	26.5	12.5	14.0	3.9	3.3	0.5	4.3	1.55	島根
8.8	1.43	10.0	3.2	1.6	△ 1.2	24.4	9.6	14.8	4.0	2.7	1.3	5.4	1.88	岡山
9.0	1.45	9.6	2.7	1.0	△ 0.6	23.6	11.2	12.4	4.1	3.4	0.7	5.8	1.88	広島
8.0	1.43	11.6	2.3	0.8	△ 3.7	24.8	12.7	12.1	4.4	3.6	0.8	4.9	1.79	山口
7.5	1.30	11.2	2.5	1.4	△ 3.8	27.1	10.9	16.2	4.4	3.6	0.8	4.8	1.83	徳島
8.6	1.47	10.7	2.6	0.9	△ 2.1	21.8	11.7	10.1	3.9	3.2	0.7	5.3	1.94	香川
8.1	1.40	11.0	1.4	0.6	△ 2.9	28.7	11.6	17.1	3.9	3.5	0.3	5.0	1.96	愛媛
7.5	1.36	12.3	3.6	1.7	△ 4.8	32.9	10.5	22.4	4.5	3.3	1.2	4.6	2.17	高知
9.3	1.37	9.0	2.2	1.2	0.3	29.6	11.0	18.6	4.3	3.4	0.9	6.0	2.20	福岡
9.2	1.55	10.5	2.8	0.9	△ 1.4	24.8	10.1	14.7	3.6	3.1	0.5	4.9	1.72	佐賀
8.5	1.50	10.9	1.7	0.8	△ 2.5	30.0	11.1	18.9	3.4	2.9	0.6	4.9	1.76	長崎
9.1	1.58	10.5	2.4	1.0	△ 1.4	29.6	10.5	19.1	3.9	3.2	0.7	5.3	1.93	熊本
8.6	1.53	10.6	2.5	1.6	△ 2.0	28.8	12.0	16.9	5.0	3.7	1.4	5.2	1.94	大分
9.1	1.60	10.5	3.2	1.6	△ 1.4	30.7	10.6	20.1	4.1	2.9	1.2	5.5	2.31	宮崎
9.0	1.59	11.6	2.5	0.8	△ 2.6	33.1	11.4	21.7	3.4	2.8	0.6	5.1	2.01	鹿児島
12.2	1.78	6.9	2.0	0.8	5.3	34.3	15.3	19.0	3.5	2.8	0.7	6.5	2.60	沖縄
...	外 国
...	不 詳

第 3 表 主な死因¹⁾の死亡数・死亡率

都道府県	全死因		01200 結核		02100 悪性新生物		04100 糖尿病		09100 高血圧性疾患		09200 心疾患 (高血圧性を除く)	
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
全国 ²⁾	1 142 407	907.1	2 220	1.8	342 963	272.3	14 462	11.5	6 264	5.0	181 928	144.4
北海道	52 955	959.9	63	1.1	16 850	305.4	715	13.0	203	3.7	8 728	158.2
青森	15 400	1 109.5	30	2.2	4 646	334.7	235	16.9	60	4.3	2 403	173.1
岩手	15 026	1 115.5	19	1.4	4 059	301.3	204	15.1	70	5.2	2 538	188.4
宮城	20 657	886.9	30	1.3	6 217	266.9	255	10.9	94	4.0	3 219	138.2
秋田	13 638	1 234.2	19	1.7	3 929	355.6	177	16.0	49	4.4	1 986	179.7
山形	13 719	1 160.7	17	1.4	3 952	334.3	144	12.2	59	5.0	2 114	178.8
福島	21 583	1 056.4	25	1.2	5 956	291.5	316	15.5	105	5.1	3 750	183.6
茨城	27 466	939.7	36	1.2	7 988	273.3	424	14.5	140	4.8	4 357	149.1
栃木	18 437	930.7	19	1.0	5 248	264.9	234	11.8	104	5.2	3 081	155.5
群馬	18 935	958.7	32	1.6	5 420	274.4	244	12.4	150	7.6	3 016	152.7
埼玉	51 730	737.0	94	1.3	16 381	233.4	718	10.2	192	2.7	8 791	125.2
千葉	47 149	780.7	94	1.6	14 402	238.5	599	9.9	328	5.4	8 420	139.4
東京都	98 248	782.7	279	2.2	31 327	249.6	1 317	10.5	545	4.3	15 334	122.2
神奈川県	63 771	726.0	138	1.6	20 575	234.2	736	8.4	230	2.6	9 650	109.9
新潟	24 889	1 045.8	18	0.8	7 422	311.8	325	13.7	198	8.3	3 898	163.8
富山	11 635	1 069.4	21	1.9	3 466	318.6	151	13.9	62	5.7	1 531	140.7
石川	11 012	950.9	9	0.8	3 288	283.9	136	11.7	44	3.8	1 763	152.2
福井	8 088	1 009.7	9	1.1	2 356	294.1	114	14.2	29	3.6	1 325	165.4
山梨	8 736	1 019.4	10	1.2	2 462	287.3	127	14.8	45	5.3	1 392	162.4
長野	22 692	1 062.9	22	1.0	6 136	287.4	278	13.0	141	6.6	3 538	165.7
岐阜	19 478	948.8	37	1.8	5 593	272.4	211	10.3	82	4.0	3 334	162.4
静岡県	34 511	929.7	65	1.8	9 884	266.3	488	13.1	223	6.0	5 408	145.7
愛知県	56 036	778.0	139	1.9	17 049	236.7	623	8.6	219	3.0	8 419	116.9
三重	17 904	979.4	26	1.4	4 925	269.4	238	13.0	115	6.3	2 875	157.3
滋賀	11 110	808.0	25	1.8	3 282	238.7	118	8.6	74	5.4	1 862	135.4
京都	23 015	889.6	45	1.7	7 176	277.4	255	9.9	98	3.8	3 933	152.0
大阪	72 930	844.2	216	2.5	23 999	277.8	948	11.0	673	7.8	11 622	134.5
兵庫県	49 074	891.6	140	2.5	15 260	277.3	649	11.8	259	4.7	7 811	141.9
奈良	12 368	886.6	14	1.0	3 815	273.5	153	11.0	71	5.1	2 175	155.9
和歌山	11 679	1 159.8	28	2.8	3 234	321.2	131	13.0	51	5.1	1 962	194.8
鳥取	6 682	1 130.6	6	1.0	1 977	334.5	90	15.2	25	4.2	1 048	177.3
島根	9 011	1 251.5	21	2.9	2 545	353.5	91	12.6	66	9.2	1 393	193.5
岡山	19 393	1 004.8	24	1.2	5 244	271.7	191	9.9	74	3.8	3 049	158.0
広島	27 150	957.3	54	1.9	7 994	281.9	331	11.7	132	4.7	4 410	155.5
山口	16 900	1 163.9	29	2.0	4 671	321.7	188	12.9	72	5.0	2 929	201.7
徳島	8 882	1 124.3	19	2.4	2 357	298.4	147	18.6	49	6.2	1 438	182.0
香川県	10 645	1 068.8	10	1.0	2 942	295.4	137	13.8	57	5.7	1 867	187.4
愛媛	15 777	1 098.7	12	0.8	4 232	294.7	168	11.7	68	4.7	3 016	210.0
高知	9 452	1 225.9	14	1.8	2 543	329.8	115	14.9	39	5.1	1 530	198.4
福岡	45 134	900.3	101	2.0	14 328	285.8	555	11.1	375	7.5	5 610	111.9
佐賀	8 983	1 054.3	18	2.1	2 724	319.7	96	11.3	67	7.9	1 346	158.0
長崎	15 697	1 094.6	34	2.4	4 747	331.0	151	10.5	104	7.3	2 408	167.9
熊本	18 951	1 045.3	36	2.0	5 162	284.7	211	11.6	106	5.8	3 071	169.4
大分	12 641	1 060.5	30	2.5	3 530	296.1	181	15.2	75	6.3	1 998	167.6
宮崎	11 932	1 053.1	16	1.4	3 405	300.5	138	12.2	78	6.9	1 931	170.4
鹿児島	19 943	1 164.2	24	1.4	5 268	307.5	235	13.7	102	6.0	3 098	180.9
沖縄	9 492	693.4	27	2.0	2 717	198.5	155	11.3	51	3.7	1 368	99.9

注：1) 主な死因名等は死因簡単分類による。
2) 全国には住所地外国、不詳を含む。

(人口10万対), 都道府県別

平成20年

09300 脳血管疾患		10200 肺 炎		11300 肝 疾 患		14200 腎 不 全		18100 老 衰		20100 不慮の事故		20200 自 殺	
死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
127 023	100.9	115 317	91.6	16 268	12.9	22 517	17.9	35 975	28.6	38 153	30.3	30 229	24.0
5 540	100.4	5 139	93.1	642	11.6	1 374	24.9	972	17.6	1 574	28.5	1 546	28.0
1 890	136.2	1 639	118.1	221	15.9	414	29.8	457	32.9	464	33.4	473	34.1
2 146	159.3	1 541	114.4	157	11.7	328	24.4	458	34.0	514	38.2	454	33.7
2 685	115.3	1 912	82.1	229	9.8	370	15.9	778	33.4	675	29.0	649	27.9
1 786	161.6	1 514	137.0	139	12.6	321	29.0	435	39.4	528	47.8	410	37.1
1 879	159.0	1 436	121.5	145	12.3	301	25.5	552	46.7	498	42.1	340	28.8
2 850	139.5	2 057	100.7	239	11.7	398	19.5	880	43.1	740	36.2	535	26.2
3 500	119.7	2 839	97.1	418	14.3	463	15.8	975	33.4	1 047	35.8	671	23.0
2 382	120.2	1 917	96.8	217	11.0	358	18.1	735	37.1	582	29.4	530	26.8
2 247	113.8	2 167	109.7	262	13.3	326	16.5	503	25.5	633	32.1	505	25.6
5 841	83.2	5 027	71.6	759	10.8	940	13.4	1 366	19.5	1 413	20.1	1 643	23.4
5 122	84.8	4 577	75.8	617	10.2	800	13.2	1 594	26.4	1 417	23.5	1 258	20.8
10 352	82.5	9 484	75.6	1 725	13.7	1 650	13.1	2 782	22.2	2 571	20.5	2 776	22.1
6 887	78.4	6 029	68.6	1 244	14.2	984	11.2	1 882	21.4	2 167	24.7	1 871	21.3
3 539	148.7	2 179	91.6	246	10.3	430	18.1	898	37.7	925	38.9	665	27.9
1 500	137.9	1 347	123.8	126	11.6	228	21.0	350	32.2	510	46.9	296	27.2
1 238	106.9	1 154	99.7	118	10.2	204	17.6	325	28.1	464	40.1	239	20.6
863	107.7	954	119.1	98	12.2	177	22.1	238	29.7	333	41.6	206	25.7
968	113.0	739	86.2	123	14.4	170	19.8	417	48.7	326	38.0	218	25.4
3 377	158.2	1 960	91.8	211	9.9	345	16.2	1 189	55.7	832	39.0	538	25.2
2 061	100.4	1 859	90.6	212	10.3	364	17.7	911	44.4	757	36.9	466	22.7
4 018	108.2	3 154	85.0	392	10.6	788	21.2	1 643	44.3	1 228	33.1	781	21.0
6 011	83.5	5 315	73.8	768	10.7	1 005	14.0	1 804	25.0	1 987	27.6	1 441	20.0
1 924	105.3	1 828	100.0	205	11.2	383	21.0	1 021	55.9	669	36.6	379	20.7
1 195	86.9	992	72.1	121	8.8	229	16.7	350	25.5	446	32.4	312	22.7
2 259	87.3	2 319	89.6	265	10.2	510	19.7	622	24.0	625	24.2	547	21.1
6 496	75.2	7 862	91.0	1 446	16.7	1 490	17.2	1 380	16.0	2 061	23.9	2 034	23.5
4 629	84.1	4 828	87.7	773	14.0	1 000	18.2	1 588	28.9	1 801	32.7	1 228	22.3
1 263	90.5	1 323	94.8	163	11.7	230	16.5	350	25.1	370	26.5	290	20.8
1 140	113.2	1 229	122.0	166	16.5	270	26.8	539	53.5	406	40.3	293	29.1
804	136.0	612	103.6	77	13.0	138	23.4	225	38.1	233	39.4	183	31.0
988	137.2	940	130.6	112	15.6	215	29.9	380	52.8	297	41.3	215	29.9
2 279	118.1	2 268	117.5	262	13.6	412	21.3	721	37.4	801	41.5	381	19.7
2 838	100.1	2 865	101.0	424	15.0	605	21.3	862	30.4	961	33.9	632	22.3
1 947	134.1	2 036	140.2	252	17.4	328	22.6	499	34.4	479	33.0	345	23.8
998	126.3	949	120.1	135	17.1	183	23.2	328	41.5	325	41.1	174	22.0
1 038	104.2	1 217	122.2	155	15.6	243	24.4	370	37.1	427	42.9	201	20.2
1 687	117.5	1 642	114.3	195	13.6	358	24.9	633	44.1	595	41.4	368	25.6
1 168	151.5	1 042	135.1	141	18.3	215	27.9	243	31.5	411	53.3	201	26.1
4 527	90.3	4 826	96.3	649	12.9	852	17.0	971	19.4	1 701	33.9	1 227	24.5
1 000	117.4	999	117.3	88	10.3	186	21.8	229	26.9	330	38.7	174	20.4
1 692	118.0	1 771	123.5	201	14.0	309	21.5	386	26.9	518	36.1	372	25.9
2 037	112.4	2 096	115.6	255	14.1	451	24.9	678	37.4	645	35.6	448	24.7
1 394	116.9	1 277	107.1	155	13.0	258	21.6	386	32.4	449	37.7	279	23.4
1 415	124.9	1 163	102.6	165	14.6	270	23.8	313	27.6	398	35.1	364	32.1
2 614	152.6	2 271	132.6	267	15.6	468	27.3	535	31.2	635	37.1	479	28.0
841	61.4	902	65.9	239	17.5	163	11.9	216	15.8	269	19.6	328	24.0

第 4 表 主な死因¹⁾の死亡数・死亡率

年 齢 階 級	全 死 因		01200 結 核		02100 悪性新生物		04100 糖 尿 病		09100 高血圧性疾患		09200 心 疾 患 (高血圧性を除く)	
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
総 数 ²⁾	1 142 407	907.1	2 220	1.8	342 963	272.3	14 462	11.5	6 264	5.0	181 928	144.4
0~4 歳	3 747	70.1	-	-	113	2.1	-	-	-	-	124	2.3
5~9	557	9.7	-	-	106	1.8	1	0.0	-	-	38	0.7
10~14	516	8.7	-	-	109	1.8	2	0.0	-	-	23	0.4
15~19	1 621	26.7	1	0.0	169	2.8	3	0.0	-	-	80	1.3
20~24	2 977	43.3	2	0.0	219	3.2	8	0.1	-	-	128	1.9
25~29	3 622	49.1	-	-	382	5.2	20	0.3	1	0.0	235	3.2
30~34	5 282	60.1	3	0.0	830	9.4	29	0.3	5	0.1	438	5.0
35~39	7 690	81.6	8	0.1	1 699	18.0	56	0.6	9	0.1	788	8.4
40~44	10 034	121.7	21	0.3	2 734	33.1	100	1.2	14	0.2	1 237	15.0
45~49	14 674	191.6	22	0.3	4 999	65.3	163	2.1	27	0.4	1 688	22.0
50~54	23 321	301.7	30	0.4	9 586	124.0	298	3.9	49	0.6	2 833	36.6
55~59	46 146	472.6	60	0.6	21 315	218.3	649	6.6	108	1.1	5 673	58.1
60~64	60 767	682.6	88	1.0	29 265	328.7	937	10.5	175	2.0	7 563	85.0
65~69	80 491	1 006.3	130	1.6	38 175	477.2	1 246	15.6	235	2.9	10 217	127.7
70~74	115 785	1 671.5	162	2.3	50 491	728.9	1 958	28.3	347	5.0	15 391	222.2
75~79	163 351	2 873.4	353	6.2	60 457	1 063.4	2 415	42.5	628	11.0	23 708	417.0
80~84	198 991	4 920.6	493	12.2	57 670	1 426.1	2 624	64.9	1 050	26.0	32 542	804.7
85~89	183 113	8 457.9	474	21.9	38 197	1 764.3	2 130	98.4	1 257	58.1	34 377	1 587.9
90~94	140 585	14 782.9	289	30.4	19 872	2 089.6	1 336	140.5	1 360	143.0	28 490	2 995.8
95~99	64 764	22 724.2	75	26.3	5 814	2 040.0	436	153.0	815	286.0	13 668	4 795.8
100~	13 837	33 748.8	7	17.1	738	1 800.0	51	124.4	184	448.8	2 659	6 485.4
男	608 711	991.0	1467	2.4	206 354	336.0	7 618	12.4	2 354	3.8	86 139	140.2
0~4 歳	2 014	73.5	-	-	59	2.2	-	-	-	-	70	2.6
5~9	318	10.8	-	-	67	2.3	-	-	-	-	20	0.7
10~14	330	10.9	-	-	69	2.3	2	0.1	-	-	12	0.4
15~19	1 063	34.1	1	0.0	103	3.3	2	0.1	-	-	61	2.0
20~24	2 057	58.2	1	0.0	130	3.7	4	0.1	-	-	88	2.5
25~29	2 445	64.9	-	-	207	5.5	14	0.4	1	0.0	178	4.7
30~34	3 455	77.3	2	0.0	395	8.8	17	0.4	4	0.1	347	7.8
35~39	4 965	104.0	8	0.2	717	15.0	40	0.8	7	0.1	590	12.4
40~44	6 577	157.8	17	0.4	1 171	28.1	79	1.9	10	0.2	978	23.5
45~49	9 686	251.4	21	0.5	2 385	61.9	136	3.5	23	0.6	1 324	34.4
50~54	15 638	404.9	30	0.8	5 265	136.3	246	6.4	45	1.2	2 282	59.1
55~59	31 804	658.7	52	1.1	13 072	270.8	513	10.6	92	1.9	4 500	93.2
60~64	42 475	977.6	71	1.6	19 409	446.7	667	15.4	130	3.0	5 861	134.9
65~69	55 669	1 455.4	94	2.5	26 059	681.3	909	23.8	163	4.3	7 312	191.2
70~74	76 716	2 398.1	111	3.5	34 200	1 069.1	1 296	40.5	200	6.3	9 907	309.7
75~79	102 741	4 169.7	238	9.7	40 041	1 625.0	1 372	55.7	339	13.8	13 721	556.9
80~84	109 967	7 040.1	330	21.1	34 725	2 223.1	1 217	77.9	481	30.8	15 662	1 002.7
85~89	76 240	11 856.9	280	43.5	18 289	2 844.3	673	104.7	386	60.0	12 073	1 877.6
90~94	46 118	19 624.7	166	70.6	7 979	3 395.3	348	148.1	316	134.5	7 878	3 352.3
95~99	15 609	28 380.0	39	70.9	1 800	3 272.7	71	129.1	125	227.3	2 820	5 127.3
100~	2 381	39 683.3	4	66.7	195	3 250.0	12	200.0	32	533.3	429	7 150.0
女	533 696	827.1	753	1.2	136 609	211.7	6 844	10.6	3 910	6.1	95 789	148.5
0~4 歳	1 733	66.4	-	-	54	2.1	-	-	-	-	54	2.1
5~9	239	8.6	-	-	39	1.4	1	0.0	-	-	18	0.6
10~14	186	6.4	-	-	40	1.4	-	-	-	-	11	0.4
15~19	558	18.9	-	-	66	2.2	1	0.0	-	-	19	0.6
20~24	920	27.6	1	0.0	89	2.7	4	0.1	-	-	40	1.2
25~29	1 177	32.6	-	-	175	4.8	6	0.2	-	-	57	1.6
30~34	1 827	42.3	1	0.0	435	10.1	12	0.3	1	0.0	91	2.1
35~39	2 725	58.7	-	-	982	21.1	16	0.3	2	0.0	198	4.3
40~44	3 457	84.7	4	0.1	1 563	38.3	21	0.5	4	0.1	259	6.3
45~49	4 988	131.0	1	0.0	2 614	68.7	27	0.7	4	0.1	364	9.6
50~54	7 683	198.6	-	-	4 321	111.7	52	1.3	4	0.1	551	14.2
55~59	14 342	290.6	8	0.2	8 243	167.0	136	2.8	16	0.3	1 173	23.8
60~64	18 292	401.4	17	0.4	9 856	216.3	270	5.9	45	1.0	1 702	37.3
65~69	24 822	594.7	36	0.9	12 116	290.3	337	8.1	72	1.7	2 905	69.6
70~74	39 069	1 048.0	51	1.4	16 291	437.0	662	17.8	147	3.9	5 484	147.1
75~79	60 610	1 881.7	115	3.6	20 416	633.8	1 043	32.4	289	9.0	9 987	310.1
80~84	89 024	3 586.8	163	6.6	22 945	924.5	1 407	56.7	569	22.9	16 880	680.1
85~89	106 873	7 021.9	194	12.7	19 908	1 308.0	1 457	95.7	871	57.2	22 304	1 465.4
90~94	94 467	13 193.7	123	17.2	11 893	1 661.0	988	138.0	1 044	145.8	20 612	2 878.8
95~99	49 155	21 279.2	36	15.6	4 014	1 737.7	365	158.0	690	298.7	10 848	4 696.1
100~	11 456	32 731.4	3	8.6	543	1 551.4	39	111.4	152	434.3	2 230	6 371.4

注：1) 主な死因名等は死因単分類による。
2) 総数には年齢不詳を含む。

(人口10万対), 性・年齢階級別

平成20年

09300 脳血管疾患		10200 肺 炎		11300 肝 疾 患		14200 腎 不 全		18100 老 衰		20100 不慮の事故		20200 自 殺	
死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
127 023	100.9	115 317	91.6	16 268	12.9	22 517	17.9	35 975	28.6	38 153	30.3	30 229	24.0
14	0.3	114	2.1	13	0.2	11	0.2	-	-	307	5.7	-	-
16	0.3	28	0.5	-	-	2	0.0	-	-	128	2.2	1	0.0
11	0.2	17	0.3	-	-	2	0.0	-	-	114	1.9	58	1.0
30	0.5	30	0.5	2	0.0	2	0.0	-	-	468	7.7	507	8.3
45	0.7	27	0.4	6	0.1	1	0.0	-	-	588	8.6	1 488	21.7
90	1.2	44	0.6	19	0.3	8	0.1	-	-	522	7.1	1 703	23.1
204	2.3	65	0.7	84	1.0	8	0.1	-	-	615	7.0	2 150	24.5
489	5.2	99	1.1	219	2.3	26	0.3	-	-	777	8.2	2 358	25.0
872	10.6	127	1.5	400	4.8	44	0.5	-	-	712	8.6	2 295	27.8
1 355	17.7	238	3.1	758	9.9	75	1.0	-	-	888	11.6	2 384	31.1
2 204	28.5	440	5.7	1 043	13.5	144	1.9	-	-	1 139	14.7	2 542	32.9
3 814	39.1	1 089	11.2	1 625	16.6	370	3.8	-	-	1 967	20.1	3 466	35.5
5 071	57.0	1 765	19.8	1 897	21.3	548	6.2	4	0.0	2 223	25.0	2 959	33.2
6 756	84.5	3 340	41.8	2 069	25.9	938	11.7	61	0.8	2 820	35.3	2 415	30.2
11 044	159.4	6 945	100.3	2 270	32.8	1 653	23.9	231	3.3	3 864	55.8	1 936	27.9
17 629	310.1	14 253	250.7	2 122	37.3	2 915	51.3	876	15.4	5 230	92.0	1 565	27.5
24 080	595.5	23 342	577.2	1 809	44.7	4 503	111.4	3 131	77.4	6 116	151.2	1 147	28.4
24 603	1 136.4	26 357	1 217.4	1 142	52.7	5 098	235.5	6 809	314.5	4 866	224.8	704	32.5
19 047	2 002.8	23 312	2 451.3	578	60.8	4 103	431.4	11 735	1 234.0	3 303	347.3	318	33.4
8 200	2 877.2	11 375	3 991.2	172	60.4	1 728	606.3	9 566	3 356.5	1 245	436.8	66	23.2
1 432	3 492.7	2 300	5 609.8	34	82.9	336	819.5	3 561	8 685.4	220	536.6	4	9.8
61 121	99.5	61 343	99.9	10 615	17.3	10 429	17.0	8 751	14.2	22 801	37.1	21 546	35.1
9	0.3	57	2.1	4	0.1	6	0.2	-	-	180	6.6	-	-
8	0.3	12	0.4	-	-	1	0.0	-	-	91	3.1	-	-
7	0.2	8	0.3	-	-	1	0.0	-	-	84	2.8	41	1.3
17	0.5	15	0.5	2	0.1	-	-	-	-	361	11.6	306	9.8
23	0.7	17	0.5	5	0.1	1	0.0	-	-	460	13.0	1 037	29.3
50	1.3	28	0.7	9	0.2	5	0.1	-	-	399	10.6	1 184	31.4
143	3.2	37	0.8	51	1.1	4	0.1	-	-	476	10.7	1 466	32.8
344	7.2	66	1.4	148	3.1	18	0.4	-	-	600	12.6	1 713	35.9
599	14.4	78	1.9	317	7.6	24	0.6	-	-	571	13.7	1 745	41.9
908	23.6	164	4.3	621	16.1	59	1.5	-	-	705	18.3	1 895	49.2
1 496	38.7	307	7.9	866	22.4	103	2.7	-	-	872	22.6	1 990	51.5
2 678	55.5	822	17.0	1 351	28.0	258	5.3	-	-	1 490	30.9	2 754	57.0
3 523	81.1	1 368	31.5	1 571	36.2	362	8.3	3	0.1	1 665	38.3	2 216	51.0
4 628	121.0	2 516	65.8	1 591	41.6	623	16.3	44	1.2	1 993	52.1	1 652	43.2
7 170	224.1	5 055	158.0	1 482	46.3	1 058	33.1	129	4.0	2 516	78.6	1 271	39.7
10 785	437.7	9 907	402.1	1 165	47.3	1 692	68.7	478	19.4	3 134	127.2	942	38.2
12 331	789.4	14 633	936.8	806	51.6	2 293	146.8	1 266	81.0	3 419	218.9	640	41.0
9 186	1 428.6	12 836	1 996.3	370	57.5	2 014	313.2	1 840	286.2	2 137	332.3	358	55.7
5 338	2 271.5	9 383	3 992.8	182	77.4	1 352	575.3	2 774	1 180.4	1 209	514.5	157	66.8
1 671	3 038.2	3 546	6 447.3	57	103.6	475	863.6	1 727	3 140.0	368	669.1	34	61.8
194	3 233.3	478	7 966.7	12	200.0	78	1 300.0	490	8 166.7	39	650.0	1	16.7
65 902	102.1	53 974	83.7	5 653	8.8	12 088	18.7	27 224	42.2	15 352	23.8	8 683	13.5
5	0.2	57	2.2	9	0.3	5	0.2	-	-	127	4.9	-	-
8	0.3	16	0.6	-	-	1	0.0	-	-	37	1.3	1	0.0
4	0.1	9	0.3	-	-	1	0.0	-	-	30	1.0	17	0.6
13	0.4	15	0.5	-	-	2	0.1	-	-	107	3.6	201	6.8
22	0.7	10	0.3	1	0.0	-	-	-	-	128	3.8	451	13.5
40	1.1	16	0.4	10	0.3	3	0.1	-	-	123	3.4	519	14.4
61	1.4	28	0.6	33	0.8	4	0.1	-	-	139	3.2	684	15.8
145	3.1	33	0.7	71	1.5	8	0.2	-	-	177	3.8	645	13.9
273	6.7	49	1.2	83	2.0	20	0.5	-	-	141	3.5	550	13.5
447	11.7	74	1.9	137	3.6	16	0.4	-	-	183	4.8	489	12.8
708	18.3	133	3.4	177	4.6	41	1.1	-	-	267	6.9	552	14.3
1 136	23.0	267	5.4	274	5.6	112	2.3	-	-	477	9.7	712	14.4
1 548	34.0	397	8.7	326	7.2	186	4.1	1	0.0	558	12.2	743	16.3
2 128	51.0	824	19.7	478	11.5	315	7.5	17	0.4	827	19.8	763	18.3
3 874	103.9	1 890	50.7	788	21.1	595	16.0	102	2.7	1 348	36.2	665	17.8
6 844	212.5	4 346	134.9	957	29.7	1 223	38.0	398	12.4	2 096	65.1	623	19.3
11 749	473.4	8 709	350.9	1 003	40.4	2 210	89.0	1 865	75.1	2 697	108.7	507	20.4
15 417	1 012.9	13 521	888.4	772	50.7	3 084	202.6	4 969	326.5	2 729	179.3	346	22.7
13 709	1 914.7	13 929	1 945.4	396	55.3	2 751	384.2	8 961	1 251.5	2 094	292.5	161	22.5
6 529	2 826.4	7 829	3 389.2	115	49.8	1 253	542.4	7 839	3 393.5	877	379.7	32	13.9
1 238	3 537.1	1 822	5 205.7	22	62.9	258	737.1	3 071	8 774.3	181	517.1	3	8.6

第 5 表 性 ・ 年 齢 階 級 別 に

割合(%)

総 数

平成20年

年 齢 階 級	第 1 位		第 2 位		第 3 位		第 4 位		第 5 位	
	死 因	割合 ²⁾	死 因	割合	死 因	割合	死 因	割合	死 因	割合
総 数	悪 性 新 生 物	30.0	心 疾 患	15.9	脳 血 管 疾 患	11.1	肺 炎	10.1	不 慮 の 事 故	3.3
0 歳	先天奇形, 変形 及び染色体異常	35.7	周産期に特異的 な呼吸障害等	13.5	乳幼児突然死 症候群	5.5	不 慮 の 事 故	5.1	胎児及び新生児 の出血性障害等	4.6
1～4	不 慮 の 事 故	17.2	先天奇形, 変形 及び染色体異常	16.9	悪 性 新 生 物	10.0	肺 炎	5.7	心 疾 患	5.5
5～9	不 慮 の 事 故	23.0	悪 性 新 生 物	19.0	その他の新生物	7.0	心 疾 患	6.8	先天奇形, 変形 及び染色体異常	6.5
10～14	不 慮 の 事 故	22.1	悪 性 新 生 物	21.1	自 殺	11.2	心 疾 患	4.5	その他の新生物	3.9
15～19	自 殺	31.3	不 慮 の 事 故	28.9	悪 性 新 生 物	10.4	心 疾 患	4.9	先天奇形, 変形 及び染色体異常	2.4
20～24	自 殺	50.0	不 慮 の 事 故	19.8	悪 性 新 生 物	7.4	心 疾 患	4.3	脳 血 管 疾 患	1.5
25～29	自 殺	47.0	不 慮 の 事 故	14.4	悪 性 新 生 物	10.5	心 疾 患	6.5	脳 血 管 疾 患	2.5
30～34	自 殺	40.7	悪 性 新 生 物	15.7	不 慮 の 事 故	11.6	心 疾 患	8.3	脳 血 管 疾 患	3.9
35～39	自 殺	30.7	悪 性 新 生 物	22.1	心 疾 患	10.2	不 慮 の 事 故	10.1	脳 血 管 疾 患	6.4
40～44	悪 性 新 生 物	27.2	自 殺	22.9	心 疾 患	12.3	脳 血 管 疾 患	8.7	不 慮 の 事 故	7.1
45～49	悪 性 新 生 物	34.1	自 殺	16.2	心 疾 患	11.5	脳 血 管 疾 患	9.2	不 慮 の 事 故	6.1
50～54	悪 性 新 生 物	41.1	心 疾 患	12.1	自 殺	10.9	脳 血 管 疾 患	9.5	不 慮 の 事 故	4.9
55～59	悪 性 新 生 物	46.2	心 疾 患	12.3	脳 血 管 疾 患	8.3	自 殺	7.5	不 慮 の 事 故	4.3
60～64	悪 性 新 生 物	48.2	心 疾 患	12.4	脳 血 管 疾 患	8.3	自 殺	4.9	不 慮 の 事 故	3.7
65～69	悪 性 新 生 物	47.4	心 疾 患	12.7	脳 血 管 疾 患	8.4	肺 炎	4.1	不 慮 の 事 故	3.5
70～74	悪 性 新 生 物	43.6	心 疾 患	13.3	脳 血 管 疾 患	9.5	肺 炎	6.0	不 慮 の 事 故	3.3
75～79	悪 性 新 生 物	37.0	心 疾 患	14.5	脳 血 管 疾 患	10.8	肺 炎	8.7	不 慮 の 事 故	3.2
80～84	悪 性 新 生 物	29.0	心 疾 患	16.4	脳 血 管 疾 患	12.1	肺 炎	11.7	不 慮 の 事 故	3.1
85～89	悪 性 新 生 物	20.9	心 疾 患	18.8	肺 炎	14.4	脳 血 管 疾 患	13.4	老 衰	3.7
90～94	心 疾 患	20.3	肺 炎	16.6	悪 性 新 生 物	14.1	脳 血 管 疾 患	13.5	老 衰	8.3
95～99	心 疾 患	21.1	肺 炎	17.6	老 衰	14.8	脳 血 管 疾 患	12.7	悪 性 新 生 物	9.0
100～	老 衰	25.7	心 疾 患	19.2	肺 炎	16.6	脳 血 管 疾 患	10.3	悪 性 新 生 物	5.3
(再掲)										
65～	悪 性 新 生 物	28.2	心 疾 患	16.8	脳 血 管 疾 患	11.7	肺 炎	11.6	老 衰	3.7
80～	悪 性 新 生 物	0.3	心 疾 患	18.6	肺 炎	14.4	脳 血 管 疾 患	12.9	老 衰	5.8

注：1) [1]乳児(0歳)の死因については乳児死因順位に用いる分類項目による。

[2]死因名は次のように省略した。

心疾患←心疾患(高血圧性を除く)、周産期に特異的な呼吸障害等←周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害、
胎児及び新生児の出血性障害等←胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害

2) 割合(%)はそれぞれの年齢階級別死亡数を100としたものである。

3) 死因順位は死亡数の多いものから定めた。死亡数が同数の場合は、同一順位に死因名を列記し、次位を空欄とした。

みた死因順位¹⁾

割合(%)

男

平成20年

年齢階級	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	死因	割合 ²⁾	死因	割合	死因	割合	死因	割合	死因	割合
総数	悪性新生物	33.9	心疾患	14.2	肺炎	10.1	脳血管疾患	10.0	不慮の事故	3.7
0歳	先天奇形, 変形及び染色体異常	33.7	周産期に特異的な呼吸障害等	13.3	乳幼児突然死症候群	5.8	不慮の事故	5.4	胎児及び新生児の出血性障害等	5.0
1~4	不慮の事故	19.0	先天奇形, 変形及び染色体異常	16.9	悪性新生物	9.7	肺炎	5.7	心疾患	5.3
5~9	不慮の事故	28.6	悪性新生物	21.1	心疾患	6.3	その他の新生物	6.0	先天奇形, 変形及び染色体異常	4.4
10~14	不慮の事故	25.5	悪性新生物	20.9	自殺	12.4	{その他の新生物 心疾患}	3.6		
15~19	不慮の事故	34.0	自殺	28.8	悪性新生物	9.7	心疾患	5.7	先天奇形, 変形及び染色体異常	1.8
20~24	自殺	50.4	不慮の事故	22.4	悪性新生物	6.3	心疾患	4.3	脳血管疾患	1.1
25~29	自殺	48.4	不慮の事故	16.3	悪性新生物	8.5	心疾患	7.3	脳血管疾患	2.0
30~34	自殺	42.4	不慮の事故	13.8	悪性新生物	11.4	心疾患	10.0	脳血管疾患	4.1
35~39	自殺	34.5	悪性新生物	14.4	不慮の事故	12.1	心疾患	11.9	脳血管疾患	6.9
40~44	自殺	26.5	悪性新生物	17.8	心疾患	14.9	脳血管疾患	9.1	不慮の事故	8.7
45~49	悪性新生物	24.6	自殺	19.6	心疾患	13.7	脳血管疾患	9.4	不慮の事故	7.3
50~54	悪性新生物	33.7	心疾患	14.6	自殺	12.7	脳血管疾患	9.6	不慮の事故	5.6
55~59	悪性新生物	41.1	心疾患	14.1	自殺	8.7	脳血管疾患	8.4	不慮の事故	4.7
60~64	悪性新生物	45.7	心疾患	13.8	脳血管疾患	8.3	自殺	5.2	不慮の事故	3.9
65~69	悪性新生物	46.8	心疾患	13.1	脳血管疾患	8.3	肺炎	4.5	不慮の事故	3.6
70~74	悪性新生物	44.6	心疾患	12.9	脳血管疾患	9.3	肺炎	6.6	不慮の事故	3.3
75~79	悪性新生物	39.0	心疾患	13.4	脳血管疾患	10.5	肺炎	9.6	不慮の事故	3.1
80~84	悪性新生物	31.6	心疾患	14.2	肺炎	13.3	脳血管疾患	11.2	慢性閉塞性疾患	3.1
85~89	悪性新生物	24.0	肺炎	16.8	心疾患	15.8	脳血管疾患	12.0	慢性閉塞性疾患	3.3
90~94	肺炎	20.3	悪性新生物	17.3	心疾患	17.1	脳血管疾患	11.6	老衰	6.0
95~99	肺炎	22.7	心疾患	18.1	悪性新生物	11.5	老衰	11.1	脳血管疾患	10.7
100~	老衰	20.6	肺炎	20.1	心疾患	18.0	悪性新生物	8.2	脳血管疾患	8.1
(再掲) 65~	悪性新生物	33.6	心疾患	14.4	肺炎	12.0	脳血管疾患	10.6	不慮の事故	3.1
80~	悪性新生物	25.2	肺炎	16.3	心疾患	15.5	脳血管疾患	11.5	老衰	3.2

第 5 表 性・年齢階級別にみた死因順位¹⁾ (つづき)

割合(%)		女										平成20年
年 齢 階 級	第 1 位		第 2 位		第 3 位		第 4 位		第 5 位			
	死 因	割合 ²⁾	死 因	割合	死 因	割合	死 因	割合	死 因	割合		
総 数	悪 性 新 生 物	25.6	心 疾 患	17.9	脳 血 管 疾 患	12.3	肺 炎	10.1	老 衰	5.1		
0 歳	先天奇形, 変形 及び染色体異常	37.9	周産期に特異的 な呼吸障害等	13.8	乳幼児突然死 症候群	5.1	不慮の事故	4.9	胎児及び新生児 の出血性障害等	4.1		
1~4	先天奇形, 変形 及び染色体異常	16.8	不慮の事故	14.9	悪 性 新 生 物	10.4	{心 疾 患 肺 炎}	5.7				
5~9	悪 性 新 生 物	16.3	不慮の事故	15.5	先天奇形, 変形 及び染色体異常	9.2	その他の新生物	8.4	心 疾 患	7.5		
10~14	悪 性 新 生 物	21.5	不慮の事故	16.1	自 殺	9.1	心 疾 患	5.9	肺 炎	4.8		
15~19	自 殺	36.0	不慮の事故	19.2	悪 性 新 生 物	11.8	先天奇形, 変形 及び染色体異常	3.6	心 疾 患	3.4		
20~24	自 殺	49.0	不慮の事故	13.9	悪 性 新 生 物	9.7	心 疾 患	4.3	脳 血 管 疾 患	2.4		
25~29	自 殺	44.1	悪 性 新 生 物	14.9	不慮の事故	10.5	心 疾 患	4.8	脳 血 管 疾 患	3.4		
30~34	自 殺	37.4	悪 性 新 生 物	23.8	不慮の事故	7.6	心 疾 患	5.0	脳 血 管 疾 患	3.3		
35~39	悪 性 新 生 物	36.0	自 殺	23.7	心 疾 患	7.3	不慮の事故	6.5	脳 血 管 疾 患	5.3		
40~44	悪 性 新 生 物	45.2	自 殺	15.9	脳 血 管 疾 患	7.9	心 疾 患	7.5	不慮の事故	4.1		
45~49	悪 性 新 生 物	52.4	自 殺	9.8	脳 血 管 疾 患	9.0	心 疾 患	7.3	不慮の事故	3.7		
50~54	悪 性 新 生 物	56.2	脳 血 管 疾 患	9.2	自 殺	7.2	心 疾 患	7.2	不慮の事故	3.5		
55~59	悪 性 新 生 物	57.5	心 疾 患	8.2	脳 血 管 疾 患	7.9	自 殺	5.0	不慮の事故	3.3		
60~64	悪 性 新 生 物	53.9	心 疾 患	9.3	脳 血 管 疾 患	8.5	自 殺	4.1	不慮の事故	3.1		
65~69	悪 性 新 生 物	48.8	心 疾 患	11.7	脳 血 管 疾 患	8.6	不慮の事故	3.3	肺 炎	3.3		
70~74	悪 性 新 生 物	41.7	心 疾 患	14.0	脳 血 管 疾 患	9.9	肺 炎	4.8	不慮の事故	3.5		
75~79	悪 性 新 生 物	33.7	心 疾 患	16.5	脳 血 管 疾 患	11.3	肺 炎	7.2	不慮の事故	3.5		
80~84	悪 性 新 生 物	25.8	心 疾 患	19.0	脳 血 管 疾 患	13.2	肺 炎	9.8	不慮の事故	3.0		
85~89	心 疾 患	20.9	悪 性 新 生 物	18.6	脳 血 管 疾 患	14.4	肺 炎	12.7	老 衰	4.6		
90~94	心 疾 患	21.8	肺 炎	14.7	脳 血 管 疾 患	14.5	悪 性 新 生 物	12.6	老 衰	9.5		
95~99	心 疾 患	22.1	老 衰	15.9	肺 炎	15.9	脳 血 管 疾 患	13.3	悪 性 新 生 物	8.2		
100~	老 衰	26.8	心 疾 患	19.5	肺 炎	15.9	脳 血 管 疾 患	10.8	悪 性 新 生 物	4.7		
(再掲)												
65~	悪 性 新 生 物	22.7	心 疾 患	19.2	脳 血 管 疾 患	12.9	肺 炎	11.1	老 衰	5.7		
80~	心 疾 患	20.8	悪 性 新 生 物	16.9	脳 血 管 疾 患	13.9	肺 炎	13.1	老 衰	7.6		

第 6 表 都道府県別にみた死因順位

割合(%)

平成20年

都道府県	第 1 位		第 2 位		第 3 位		第 4 位		第 5 位	
	死 因	割合 ²⁾	死 因	割合	死 因	割合	死 因	割合	死 因	割合
全国 ¹⁾	悪性新生物	30.0	心 疾 患	15.9	脳血管疾患	11.1	肺 炎	10.1	不慮の事故	3.3
北海道	悪性新生物	31.8	心 疾 患	16.5	脳血管疾患	10.5	肺 炎	9.7	不慮の事故	3.0
青森	悪性新生物	30.2	心 疾 患	15.6	脳血管疾患	12.3	肺 炎	10.6	不自 殺	3.1
岩手	悪性新生物	27.0	心 疾 患	16.9	脳血管疾患	14.3	肺 炎	10.3	不慮の事故	3.4
宮城	悪性新生物	30.1	心 疾 患	15.6	脳血管疾患	13.0	肺 炎	9.3	不老 衰	3.8
秋田	悪性新生物	28.8	心 疾 患	14.6	脳血管疾患	13.1	肺 炎	11.1	不慮の事故	3.9
山形	悪性新生物	28.8	心 疾 患	15.4	脳血管疾患	13.7	肺 炎	10.5	老 衰	4.0
福島	悪性新生物	27.6	心 疾 患	17.4	脳血管疾患	13.2	肺 炎	9.5	老 衰	4.1
茨城	悪性新生物	29.1	心 疾 患	15.9	脳血管疾患	12.7	肺 炎	10.3	不慮の事故	3.8
栃木	悪性新生物	28.5	心 疾 患	16.7	脳血管疾患	12.9	肺 炎	10.4	不老 衰	4.0
群馬	悪性新生物	28.6	心 疾 患	15.9	脳血管疾患	11.9	肺 炎	11.4	不慮の事故	3.3
埼玉	悪性新生物	31.7	心 疾 患	17.0	脳血管疾患	11.3	肺 炎	9.7	自 殺	3.2
千葉	悪性新生物	30.5	心 疾 患	17.9	脳血管疾患	10.9	肺 炎	9.7	老 衰	3.4
東京	悪性新生物	31.9	心 疾 患	15.6	脳血管疾患	10.5	肺 炎	9.7	老 衰	2.8
神奈川	悪性新生物	32.3	心 疾 患	15.1	脳血管疾患	10.8	肺 炎	9.5	不慮の事故	3.4
新潟	悪性新生物	29.8	心 疾 患	15.7	脳血管疾患	14.2	肺 炎	8.8	不慮の事故	3.7
富山	悪性新生物	29.8	心 疾 患	13.2	脳血管疾患	12.9	肺 炎	11.6	不慮の事故	4.4
石川	悪性新生物	29.9	心 疾 患	16.0	脳血管疾患	11.2	肺 炎	10.5	不慮の事故	4.2
福井	悪性新生物	29.1	心 疾 患	16.4	脳血管疾患	11.8	脳血管疾患	10.7	不慮の事故	4.1
山梨	悪性新生物	28.2	心 疾 患	15.9	脳血管疾患	11.1	肺 炎	8.5	不老 衰	4.8
長野	悪性新生物	27.0	心 疾 患	15.6	脳血管疾患	14.9	肺 炎	8.6	老 衰	5.2
岐阜	悪性新生物	28.7	心 疾 患	17.1	脳血管疾患	10.6	肺 炎	9.5	老 衰	4.7
静岡	悪性新生物	28.6	心 疾 患	15.7	脳血管疾患	11.6	肺 炎	9.1	老 衰	4.8
愛知	悪性新生物	30.4	心 疾 患	15.0	脳血管疾患	10.7	肺 炎	9.5	不慮の事故	3.5
三重	悪性新生物	27.5	心 疾 患	16.1	脳血管疾患	10.7	肺 炎	10.2	不老 衰	5.7
滋賀	悪性新生物	29.5	心 疾 患	16.8	脳血管疾患	10.8	肺 炎	8.9	不慮の事故	4.0
京都	悪性新生物	31.2	心 疾 患	17.1	肺 炎	10.1	脳血管疾患	9.8	不慮の事故	2.7
大阪	悪性新生物	32.9	心 疾 患	15.9	肺 炎	10.8	脳血管疾患	8.9	不慮の事故	2.8
兵庫	悪性新生物	31.1	心 疾 患	15.9	肺 炎	9.8	脳血管疾患	9.4	不慮の事故	3.7
奈良	悪性新生物	30.8	心 疾 患	17.6	肺 炎	10.7	脳血管疾患	10.2	不慮の事故	3.0
和歌山	悪性新生物	27.7	心 疾 患	16.8	肺 炎	10.5	脳血管疾患	9.8	不老 衰	4.6
鳥取	悪性新生物	29.6	心 疾 患	15.7	脳血管疾患	12.0	肺 炎	9.2	不慮の事故	3.5
島根	悪性新生物	28.2	心 疾 患	15.5	脳血管疾患	11.0	肺 炎	10.4	不老 衰	4.2
岡山	悪性新生物	27.0	心 疾 患	15.7	脳血管疾患	11.8	肺 炎	11.7	不慮の事故	4.1
広島	悪性新生物	29.4	心 疾 患	16.2	肺 炎	10.6	脳血管疾患	10.5	不慮の事故	3.5
山口	悪性新生物	27.6	心 疾 患	17.3	肺 炎	12.0	脳血管疾患	11.5	不老 衰	3.0
徳島	悪性新生物	26.5	心 疾 患	16.2	脳血管疾患	11.2	肺 炎	10.7	老 衰	3.7
香川	悪性新生物	27.6	心 疾 患	17.5	肺 炎	11.4	脳血管疾患	9.8	不慮の事故	4.0
愛媛	悪性新生物	26.8	心 疾 患	19.1	脳血管疾患	10.7	肺 炎	10.4	不老 衰	4.0
高知	悪性新生物	26.9	心 疾 患	16.2	脳血管疾患	12.4	肺 炎	11.0	不慮の事故	4.3
福岡	悪性新生物	31.7	心 疾 患	12.4	肺 炎	10.7	脳血管疾患	10.0	不慮の事故	3.8
佐賀	悪性新生物	30.3	心 疾 患	15.0	脳血管疾患	11.1	肺 炎	11.1	不慮の事故	3.7
長崎	悪性新生物	30.2	心 疾 患	15.3	肺 炎	11.3	脳血管疾患	10.8	不慮の事故	3.3
熊本	悪性新生物	27.2	心 疾 患	16.2	肺 炎	11.1	脳血管疾患	10.7	不老 衰	3.6
大分	悪性新生物	27.9	心 疾 患	15.8	脳血管疾患	11.0	肺 炎	10.1	不慮の事故	3.6
宮崎	悪性新生物	28.5	心 疾 患	16.2	脳血管疾患	11.9	肺 炎	9.7	不慮の事故	3.3
鹿児島	悪性新生物	26.4	心 疾 患	15.5	脳血管疾患	13.1	肺 炎	11.4	不慮の事故	3.2
沖縄	悪性新生物	28.6	心 疾 患	14.4	肺 炎	9.5	脳血管疾患	8.9	不自 殺	3.5

注：1) 全国には住所外地外国、不詳を含む。
2) 割合(%)はそれぞれの都道府県別死亡数を100としたものである。

諸率の算出に用いた人口

都道府県・男女別人口（日本人人口）

年齢階級・男女別人口（日本人人口）

都道府県	総数	男	女
全 国	125 947 000	61 424 000	64 523 000
北 海 道	5 517 000	2 609 000	2 909 000
青 森	1 388 000	653 000	735 000
岩 手	1 347 000	644 000	703 000
宮 城	2 329 000	1 130 000	1 198 000
秋 田	1 105 000	520 000	585 000
山 形	1 182 000	569 000	613 000
福 島	2 043 000	993 000	1 050 000
茨 城	2 923 000	1 455 000	1 468 000
栃 木	1 981 000	986 000	995 000
群 馬	1 975 000	971 000	1 003 000
埼 玉	7 019 000	3 537 000	3 483 000
千 葉	6 039 000	3 021 000	3 018 000
東 京	12 552 000	6 254 000	6 298 000
神 奈 川	8 784 000	4 435 000	4 349 000
新 潟	2 380 000	1 152 000	1 228 000
富 山	1 088 000	524 000	563 000
石 川	1 158 000	559 000	599 000
福 井	801 000	388 000	413 000
山 梨	857 000	420 000	437 000
長 野	2 135 000	1 040 000	1 095 000
岐 阜	2 053 000	995 000	1 057 000
静 岡	3 712 000	1 829 000	1 883 000
愛 知	7 203 000	3 621 000	3 581 000
三 重	1 828 000	890 000	938 000
滋 賀	1 375 000	680 000	695 000
京 都	2 587 000	1 242 000	1 345 000
大 阪	8 639 000	4 183 000	4 456 000
兵 庫	5 504 000	2 635 000	2 870 000
奈 良	1 395 000	662 000	733 000
和 歌 山	1 007 000	474 000	534 000
鳥 取	591 000	283 000	309 000
島 根	720 000	343 000	377 000
岡 山	1 930 000	927 000	1 003 000
広 島	2 836 000	1 370 000	1 465 000
山 口	1 452 000	684 000	768 000
徳 島	790 000	376 000	415 000
香 川	996 000	478 000	518 000
愛 媛	1 436 000	676 000	761 000
高 知	771 000	361 000	410 000
福 岡	5 013 000	2 371 000	2 642 000
佐 賀	852 000	401 000	451 000
長 崎	1 434 000	668 000	766 000
熊 本	1 813 000	853 000	960 000
大 分	1 192 000	562 000	630 000
宮 崎	1 133 000	532 000	601 000
鹿 児 島	1 713 000	799 000	914 000
沖 縄	1 369 000	670 000	699 000

年 齢	総数	男	女
総 数	125 947 000	61 424 000	64 523 000
0 歳	1 088 000	558 000	530 000
1	1 075 000	551 000	523 000
2	1 063 000	545 000	518 000
3	1 040 000	532 000	509 000
4	1 081 000	553 000	528 000
0 ~ 4	5 347 000	2 740 000	2 608 000
5 ~ 9	5 736 000	2 942 000	2 794 000
10 ~ 14	5 935 000	3 040 000	2 895 000
15 ~ 19	6 074 000	3 114 000	2 959 000
20 ~ 24	6 870 000	3 536 000	3 334 000
25 ~ 29	7 379 000	3 767 000	3 612 000
30 ~ 34	8 788 000	4 467 000	4 321 000
35 ~ 39	9 419 000	4 775 000	4 644 000
40 ~ 44	8 248 000	4 167 000	4 080 000
45 ~ 49	7 660 000	3 853 000	3 807 000
50 ~ 54	7 731 000	3 862 000	3 869 000
55 ~ 59	9 764 000	4 828 000	4 936 000
60 ~ 64	8 902 000	4 345 000	4 557 000
65 ~ 69	7 999 000	3 825 000	4 174 000
70 ~ 74	6 927 000	3 199 000	3 728 000
75 ~ 79	5 685 000	2 464 000	3 221 000
80 ~ 84	4 044 000	1 562 000	2 482 000
85 ~ 89	2 165 000	643 000	1 522 000
90 ~ 94	951 000	235 000	716 000
95 ~ 99	285 000	55 000	231 000
100歳以上	41 000	6 000	35 000

資料：「平成20年10月1日現在推計人口」（総務省統計局）

資料：「平成20年10月1日現在推計人口」（総務省統計局）

死因分類の変更とその影響

我が国の死因統計は、死亡診断書等に記載された情報をもとに、世界保健機関（WHO）が勧告する国際疾病、傷害及び死因統計分類（ICD）に沿って作成されている。

このICDは、医学・医療の進歩や疾病構造の変化等に対応するため、おおむね10年毎に修正されており、平成2年（1990年）に第10回改訂国際疾病、傷害及び死因統計分類（ICD-10）が勧告された。我が国では、ICD-10を平成7年（1995年）から適用し、併せて死亡診断書の様式の改正も行った。

その結果、平成7年以降の死因統計上に以下のような影響がみられる。

1 ICD-10の適用による影響

死亡診断書に、複数の病名や原因が記載されている場合には、その中の一つを原死因として選び、統計を作成する必要がある。ICDでは、その方法が選択ルールとして標準化されているが、その解釈・適用に当たっては、各国事情により、ある程度の弾力的運用が可能となるようになっていた。しかしながら、ICD-10では、国際比較を同一基準でより厳密に行うため、国際基準としての選択ルールの統一的な解釈がより明確化された。

このため、日本における死因統計も従来のものに比べ、以下の変化がみられた。

- 肺炎の減少と脳血管疾患の増加
- 糖尿病の増加
- 肝硬変の減少と肝がんの増加
- がんの転移部位リストの新設によるがんの部位別死亡数の変化

2 死亡診断書の様式の改正による影響

死亡診断書に「疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きを加えたことにより、心不全の記入が減少し、心疾患全体としても減少した。

その後、平成18年からICD-10の一部改正の累積であるICD-10（2003年版）準拠の適用に伴い、分類の追加、削除、変更及び原死因選択ルールの変更が行われている。

年齢調整死亡率について

死亡率は年齢によって異なるので、国際比較や年次推移の観察には、人口の年齢構成の差異を取り除いて観察するために、年齢調整死亡率を使用することが有用である。

年齢調整死亡率の基準人口については、平成元年までは昭和10年の性別総人口（都道府県は昭和35年総人口）を使用してきたが、現実の人口構成からかけ離れてきたため、平成2年からは昭和60年モデル人口（昭和60年国勢調査日本人人口をもとに、ベビーブーム等の極端な増減を補正し、1,000人単位で作成したもの）を使用している。なお、計算式（5頁）中の「観察集団の各年齢階級の死亡率」は、1,000倍（死因別の場合は100,000倍）されたものである。

基準人口—昭和60年モデル人口—

年齢	基準人口	年齢	基準人口
0～4歳	8 180 000	50～54	7 616 000
5～9	8 338 000	55～59	6 581 000
10～14	8 497 000	60～64	5 546 000
15～19	8 655 000	65～69	4 511 000
20～24	8 814 000	70～74	3 476 000
25～29	8 972 000	75～79	2 441 000
30～34	9 130 000	80～84	1 406 000
35～39	9 289 000	85歳以上	784 000
40～44	9 400 000	総数	120 287 000
45～49	8 651 000		

